

# 子育てに関するアンケート調査

## 調査結果報告書



鳴門市マスコットキャラクター  
「うずひめちゃん」&「うずしおくん」

平成26年3月

鳴門市

# 目 次

<b>調査概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査目的 .....	1
2 調査設計 .....	1
3 報告書の見方 .....	2
4 用語の定義 .....	2
<b>調査結果 &lt;就学前児童&gt;</b> .....	<b>5</b>
1 お住まいの地域について .....	5
2 封筒のあて名のお子さんご家族の状況について .....	6
3 子どもの育ちをめぐる環境について .....	11
4 保護者の就労状況について .....	16
5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について .....	22
6 地域の子育て支援事業の利用状況について .....	31
7 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育の利用希望について .....	38
8 病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ） .....	43
9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について .....	51
10 小学校就学後の放課後の過ごし方について .....	61
11 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について .....	71
<b>調査結果 &lt;小学校児童&gt;</b> .....	<b>85</b>
1 お住まいの地域について .....	85
2 封筒のあて名のお子さんご家族の状況について .....	86
3 子どもの育ちをめぐる環境について .....	91
4 保護者の就労状況について .....	95
5 病気の際の対応について .....	101
6 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について .....	107
7 放課後の過ごし方について .....	111
8 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について .....	117
<b>自由記述回答</b> .....	<b>129</b>

## 調査概要



# 調査概要

## 1 調査目的

本市では、平成 27 年度から本格施行される予定である「子ども・子育て支援新制度」に向けて、「鳴門市児童福祉審議会」を設置し、子ども・子育て支援事業計画の策定など、新制度に向けた準備を進めているところです。

この調査は、教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握し、本市で確保すべき教育・保育・子育て支援に関する「量の見込み」を算出するため、就学前児童・小学校児童の保護者の方を対象に実施しました。

## 2 調査設計

### (1) 調査地域

鳴門市内

### (2) 調査対象

- ① 就学前児童調査 市内に在住の 0～6 歳の未就学の子どもがいる家庭 1,800 人
- ② 小学校児童調査 市内に在住の小学校 1～3 年生の子どもがいる家庭 700 人

### (3) 有効回収数

- ① 就学前児童 837 人（回収率 46.5%）
- ② 小学校児童 290 人（回収率 41.4%）

※ 有効回収数とは、回収数の内、無記入や拒否等の無効票数を除いた数

### (4) 調査方法

住民基本台帳を基に対象児童のいる世帯を無作為抽出し、郵送配布・郵送回収

### (5) 調査期間

平成 25 年 10 月 15 日～ 10 月 31 日

### 3 報告書の見方

- (1) 回答率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、比率の数値の合計が 100.0%にならない場合があります。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- (3) 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- (4) グラフ及び表の「n (number of caseの略)」は基数で、その質問に回答すべき人数を表しています。

### 4 用語の定義

この報告書における用語の定義は以下のとおり。

名 称	内 容
幼稚園	学校教育法に定める、3～5歳児に対して学校教育を行う施設（学校教育法第22条）。ただし、鳴門市立幼稚園では3歳児が入園可能な園は1園。（平成25年度）
保育所	児童福祉法に定める、保育を必要とする0～5歳児に対して保育を行う施設。（児童福祉法第39条）
認定こども園	幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第6項）。保護者の就労等の有無に関わらず3歳以上児には昼過ぎまで教育、保護者が就労等により保育を必要とする0～5歳児には夕方まで保育を行う施設。
放課後児童クラブ	地域によって学童保育などと呼ばれる。主に小学校就学後の、保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員のもと、子どもの生活の場を提供するもの。
放課後子ども教室	地域の方々の協力を得て、放課後や週末に小学校や公民館で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組。保護者の就労の有無に関わらず、すべての小学生が利用できる。

**調査結果**  
**<就学前児童>**

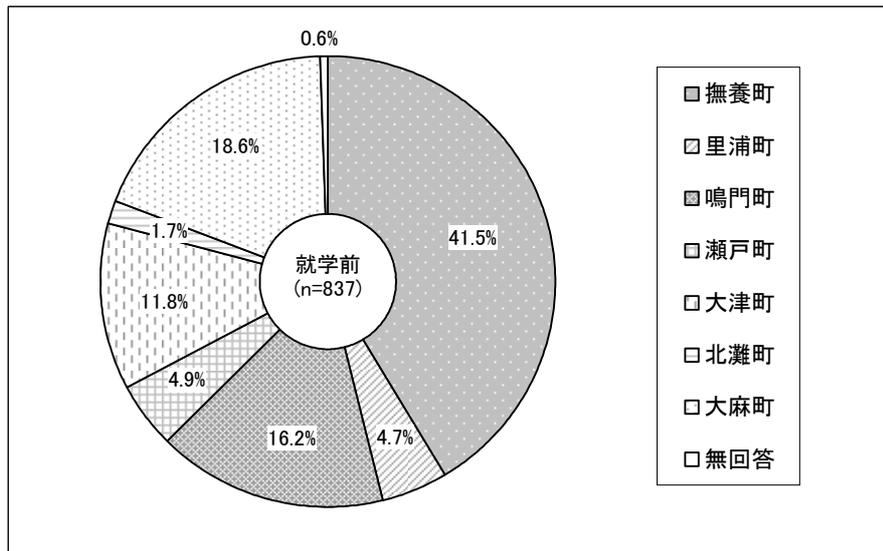


## 1 お住まいの地域について

問1 お住まいの地区はどちらですか。

【〇は1つだけ】

お住まいの地区については、「撫養町」が41.5%と最も多く、次いで「大麻町」(18.6%)、「鳴門町」(16.2%)、「大津町」(11.8%)の順となっている。

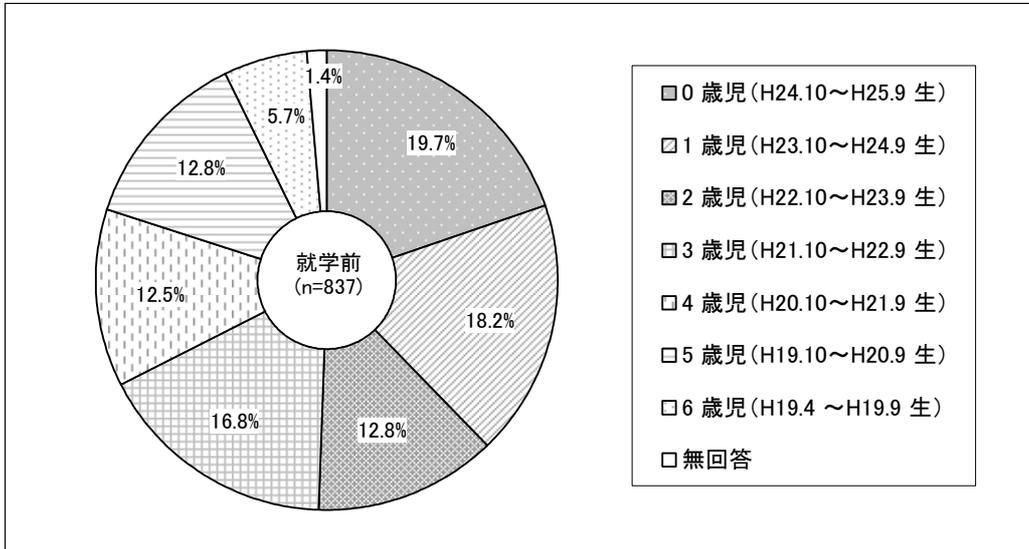


地 域	回答数(人)	構成比(%)
撫養町	347	41.5
里浦町	39	4.7
鳴門町	136	16.2
瀬戸町	41	4.9
大津町	99	11.8
北灘町	14	1.7
大麻町	156	18.6
無回答	5	0.6
計	837	100.0

## 2 封筒のあて名のお子さんをご家族の状況について

問2 あて名のお子さんの生年月をご記入ください。(H25. 4. 1 現在) 【数字で記入】

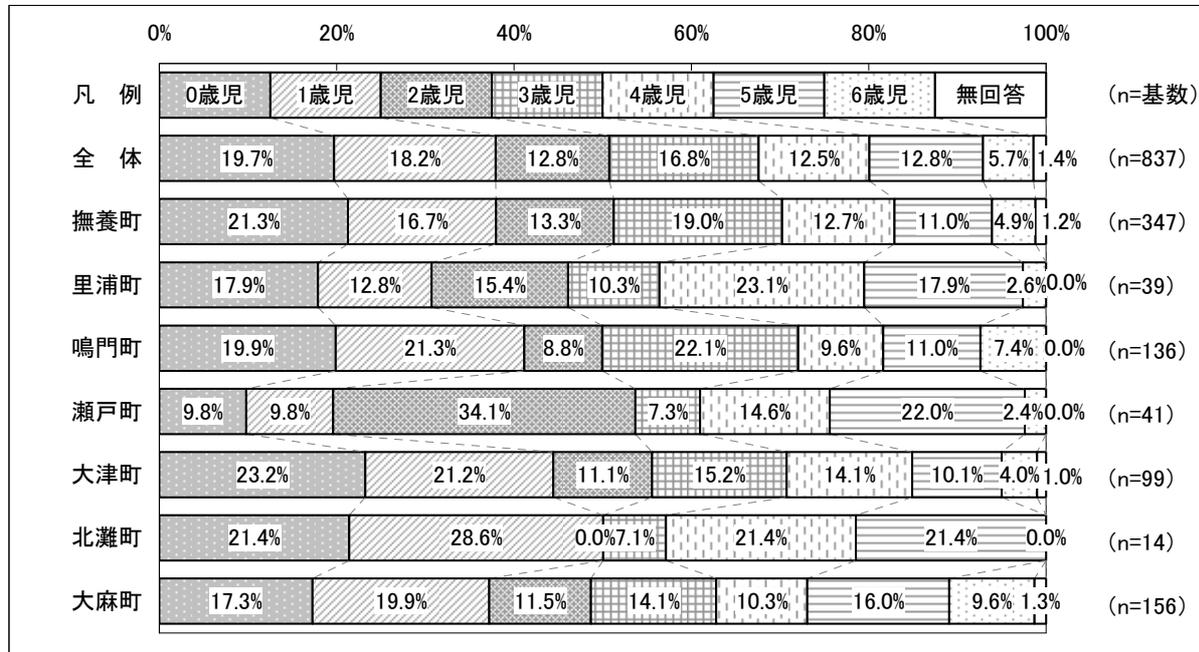
お子さんの年齢については、0歳児から5歳児までほぼまんべんなく調査結果を得られた。



生年月	回答数(人)	構成比(%)
0歳児 (H24.10~H25.9)	165	19.7
1歳児 (H23.10~H24.9)	152	18.2
2歳児 (H22.10~H23.9)	107	12.8
3歳児 (H21.10~H22.9)	141	16.8
4歳児 (H20.10~H21.9)	105	12.5
5歳児 (H19.10~H20.9)	107	12.8
6歳児 (H18.4~H19.9)	48	5.7
計	837	100.0

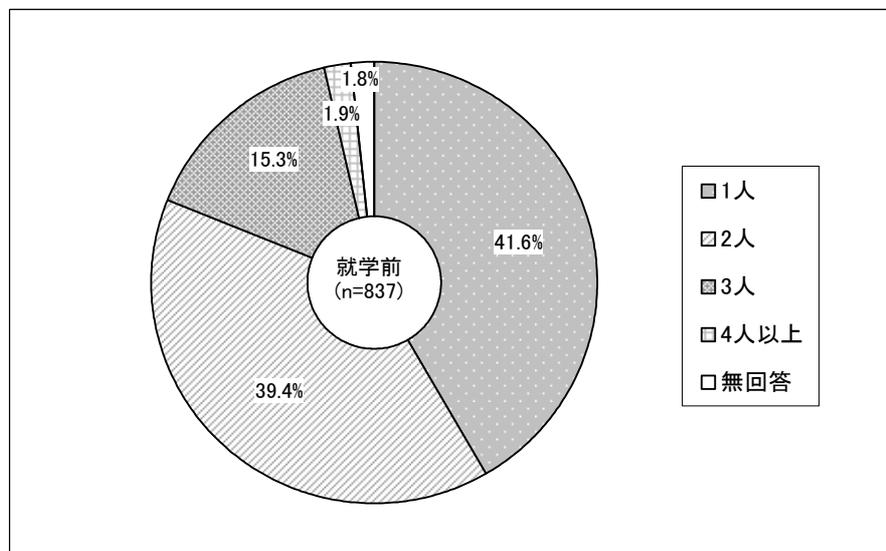
お住まいの地区別のお子さんの年齢の分布は以下のとおりである。

「瀬戸町」の「2歳児」(34.1%)のように極端に比率が高い、また、「北灘町」の「2歳児」(0.0%)「6歳児」(0.0%)のように回答がない年齢があるなど、地区ごとでみると偏りがある。

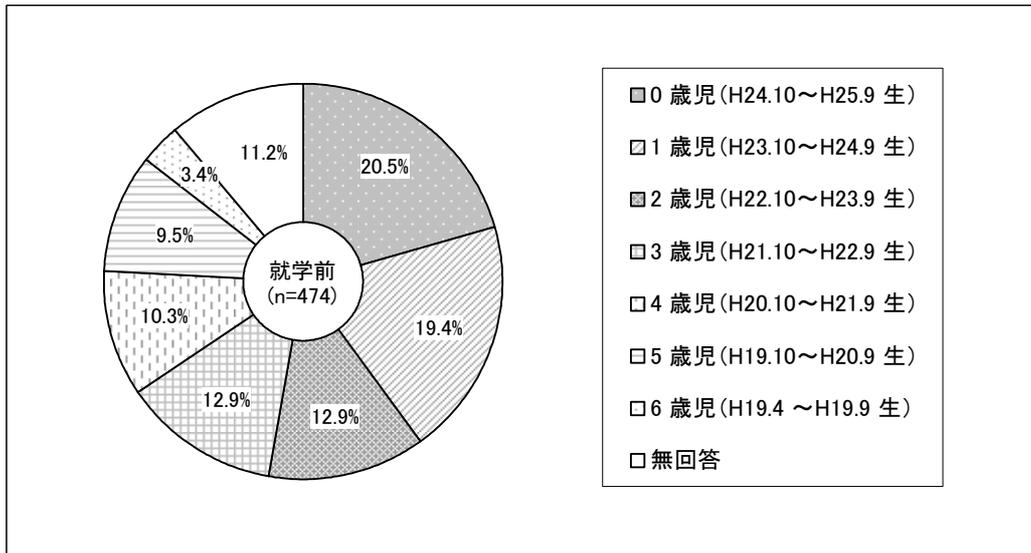


問3 あて名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。あて名のお子さんを含めた人数をご記入ください。また、2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月月をご記入ください。【数字を記入】

お子さんのきょうだい人数については、「1人」(41.6%)が「2人」(39.4%)をわずかに上回り最も多い。お子さんの平均人数は1.8人となっている。

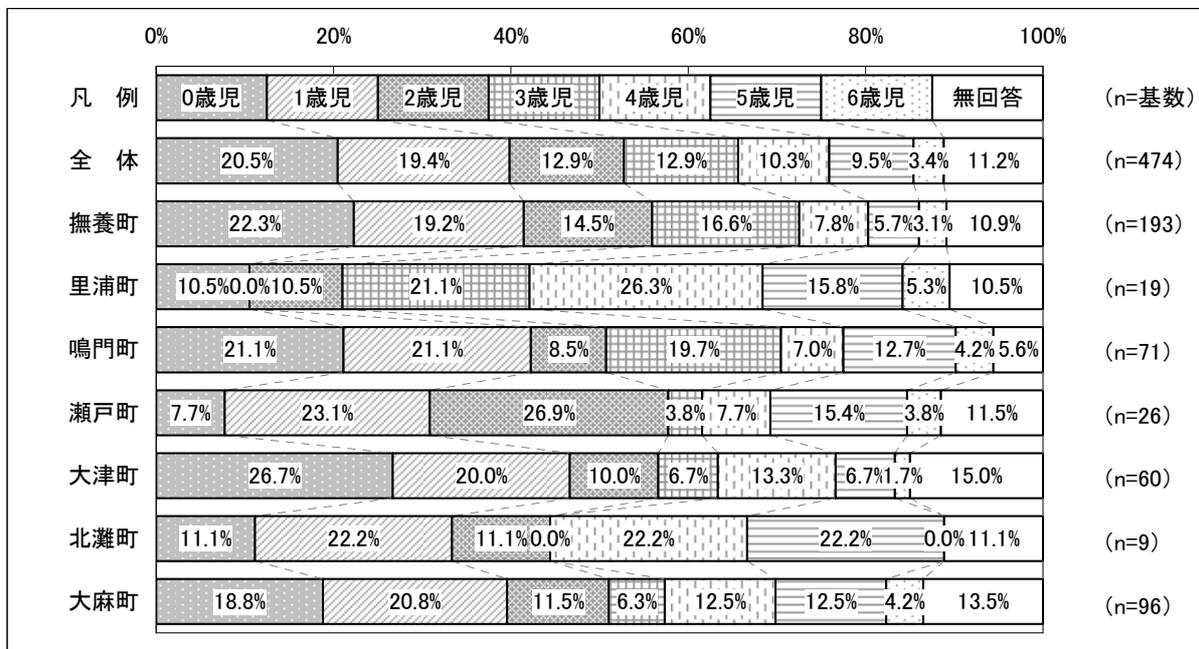


また、お子さんが2人以上いる場合の一番小さいお子さんの年齢（H25. 4. 1 現在）については、「0歳児」が20.5%と最も多く、次いで「1歳児」（19.4%）となっている。



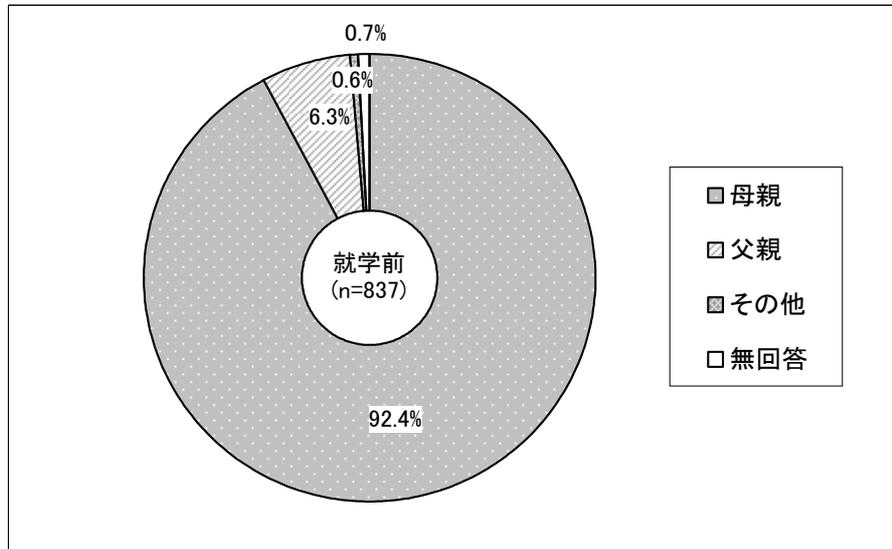
お住まいの地区別の一番小さいお子さんの年齢の分布は以下のとおりである。

「瀬戸町」の「2歳児」（26.9%）のように極端に比率が高い、また、「里浦町」の「1歳児」（0.0%）、「北灘町」の「3歳児」（0.0%）「6歳児」（0.0%）のように回答がない年齢があるなど、地区ごとでみると偏りがある。



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。あて名のお子さんからみた関係でお答えください。【〇は1つだけ】

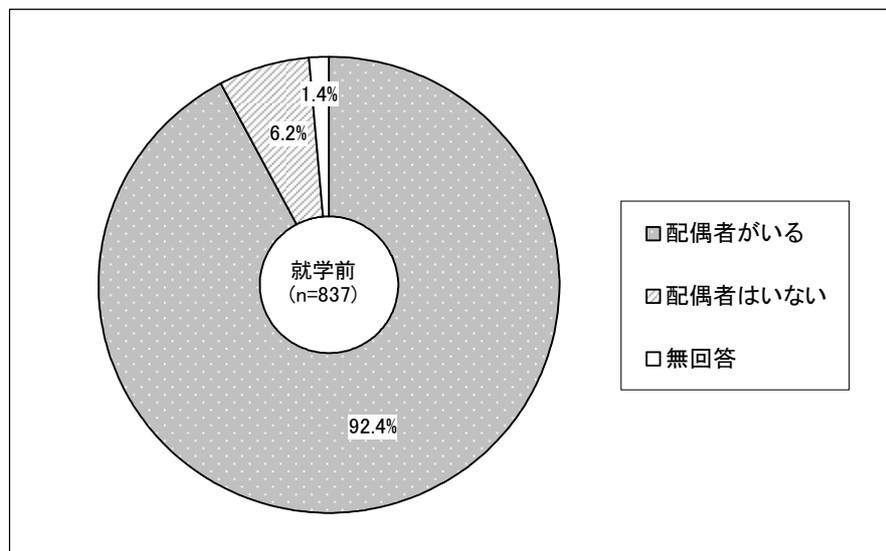
この調査票の回答者については、「母親」が92.4%と9割以上を占めている。



問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

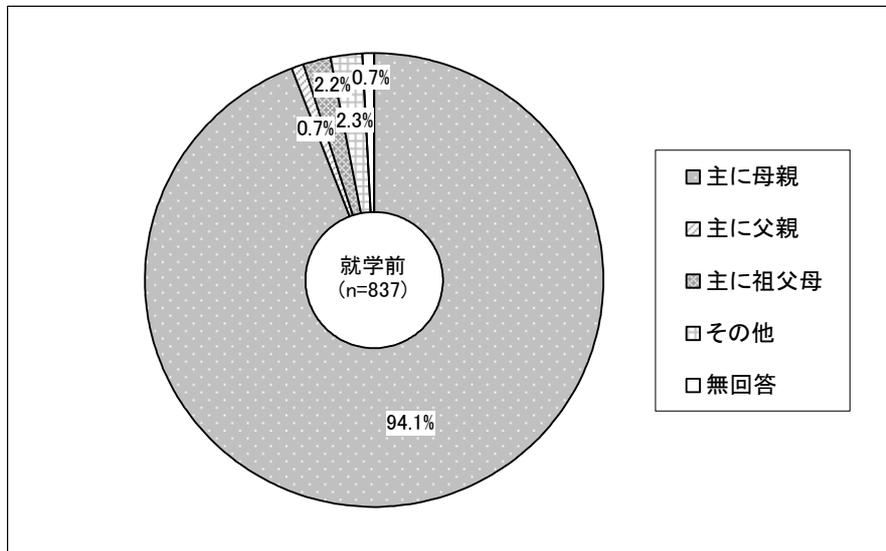
【〇は1つだけ】

この調査票にご回答いただく方の配偶関係については、「配偶者がいる」が92.4%と9割以上を占めている。



問6 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。【〇は1つだけ】

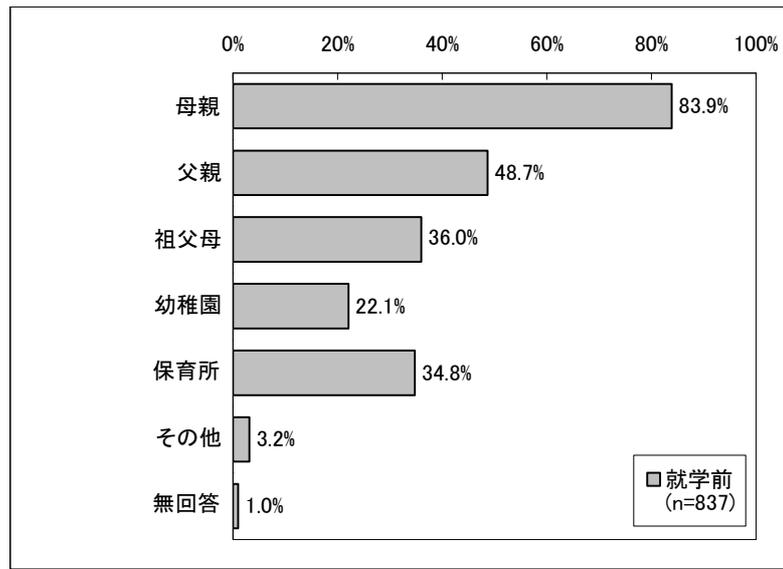
お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っている方については、「主に母親」が 94.1% と 9 割以上を占めている。



### 3 子どもの育ちをめぐる環境について

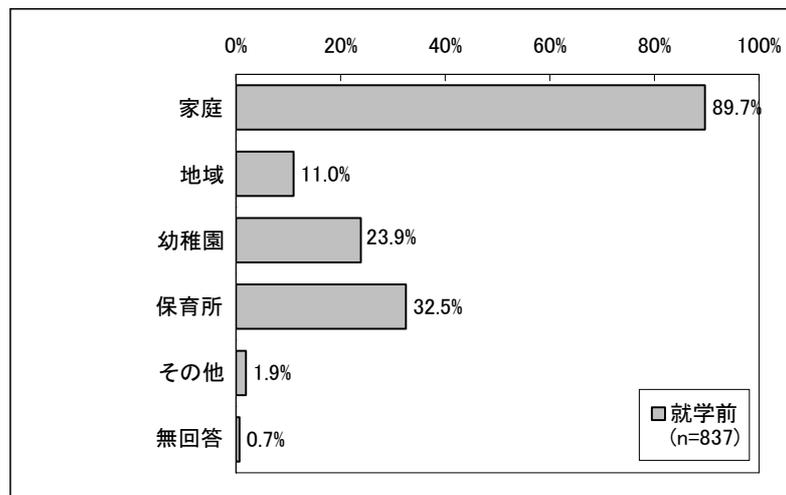
問7 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんからみた関係でお答えください。【〇はあてはまるものすべて】

お子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方については、「母親」が83.9%と最も多く、次いで「父親」（48.7%）、「祖父母」（36.0%）の順となっている。



問8 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）に、もっとも影響すると思われる環境はどれですか。【〇はあてはまるものすべて】

お子さんの子育て（教育を含む）に、もっとも影響すると思われる環境については、「家庭」が89.7%と最も多く、次いで「保育所」（32.5%）となっている。

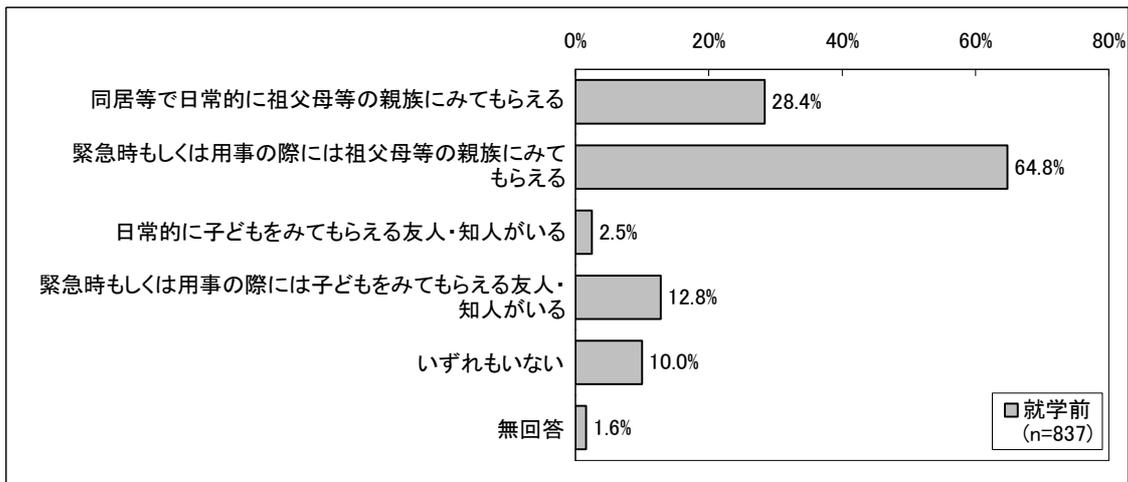


問9 日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。

◆みてもらえる人の有無【〇はあてはまるものすべて】

お子さんをみてもらえる人の有無については、「祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した人は「緊急時」(64.8%)、「日常的に」(28.4%)であった。また、「友人・知人にみてもらえる」と回答した人は「緊急時」(12.8%)、「日常的に」(2.5%)であることから、大半の人は親族にみてもらうことが多いという結果であった。

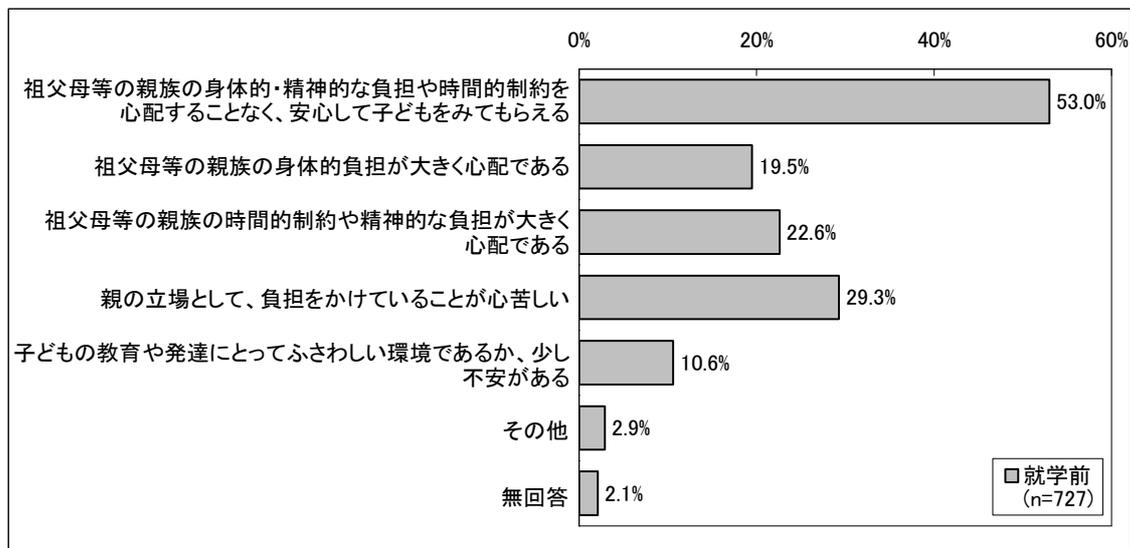
一方、みてもらえる人が「いずれもない」(10.0%)と回答した人は1割であった。



## ↓ 『祖父母等の親族にみてもらえる』と回答した人のみ

## ◆ 祖父母等の親族にみてもらっている状況【〇はあてはまるものすべて】

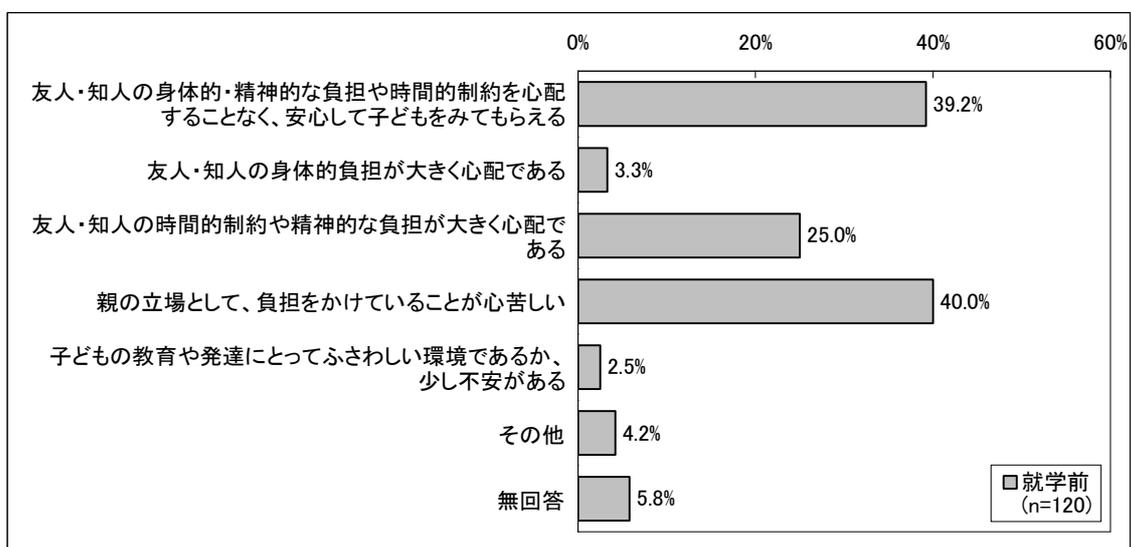
親族にみてもらっている状況については、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人は53.0%と半数以上を占め、「親の立場として負担をかけていることが心苦しい」と回答した人が29.3%と3割程度いた。



## ↓ 『友人・知人にみてもらえる』と回答した人のみ

## ◆ 友人・知人にみてもらっている状況【〇はあてはまるものすべて】

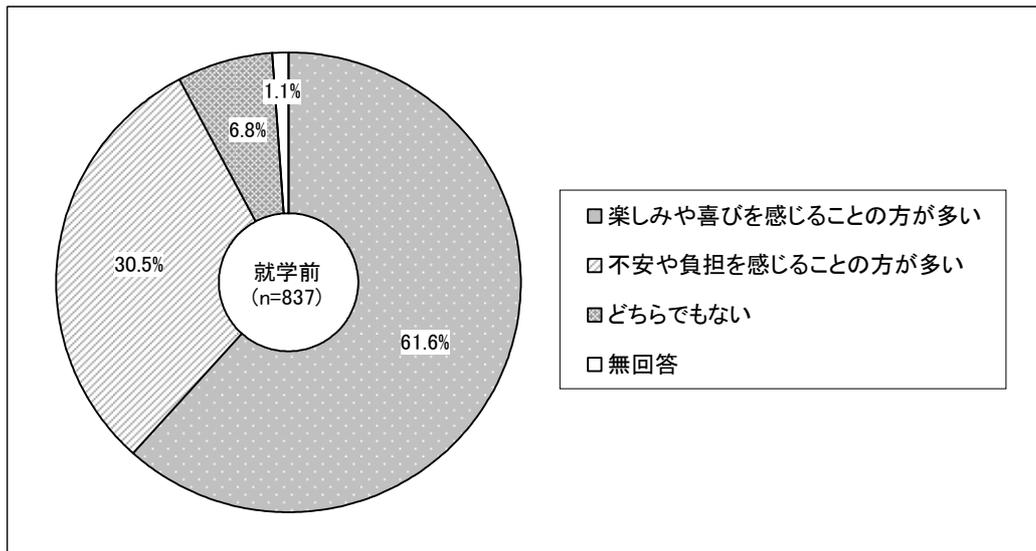
友人・知人にみてもらっている状況については、「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」と回答した人が40.0%で最も多いものの、「友人や知人の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人も39.2%と僅差であった。



問10 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）について、どのように感じていますか。  
また、「2. 不安や負担を感じることの方が多い」場合はその理由をお答えください。

◆子育て（教育を含む）について【〇は1つだけ】

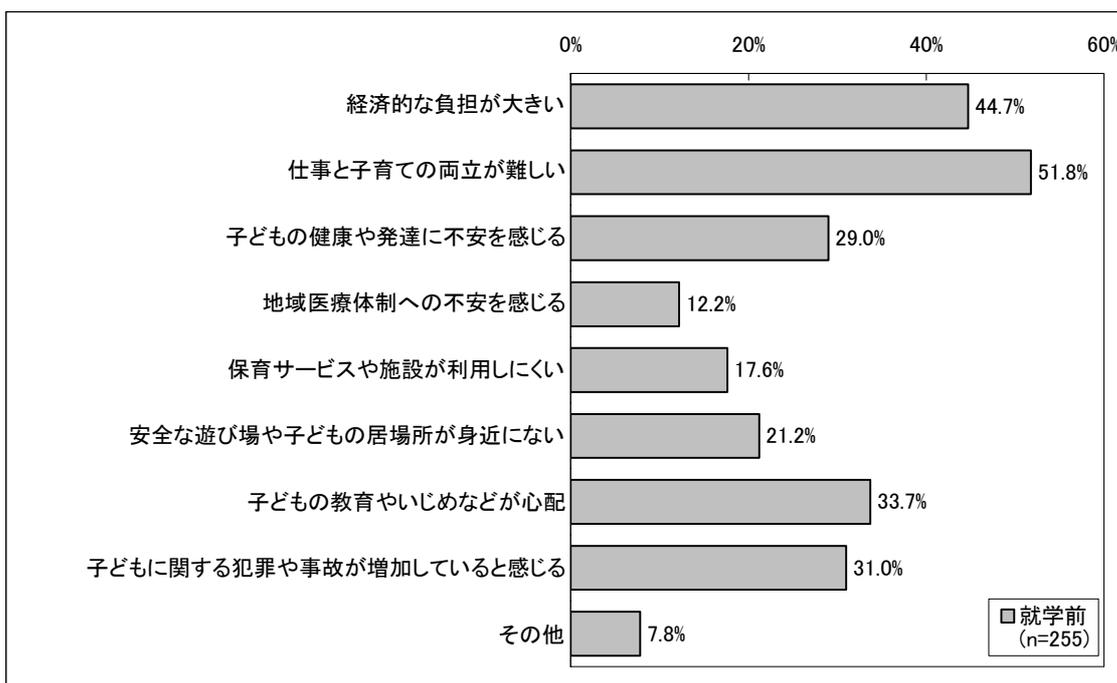
お子さんの子育て（教育を含む）については、「楽しみや喜びを感じることの方が多い」（61.6%）と回答した人は6割を超え、「不安や負担を感じることの方が多い」（30.5%）と回答した人は3割となっている。



↓『不安や負担を感じることの方が多い』と回答した人のみ

◆不安や負担を感じる理由【〇はあてはまるものすべて】

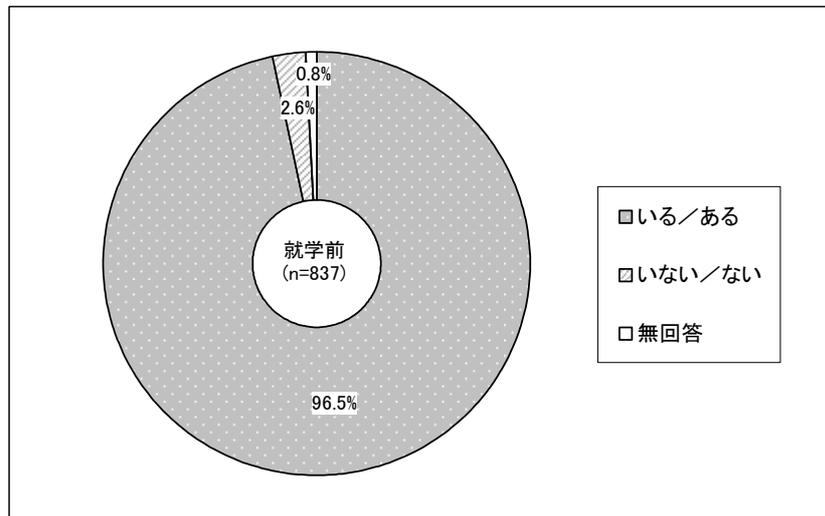
不安や負担を感じる理由については、「仕事と子育ての両立が難しい」（51.8%）、「経済的な負担が大きい」（44.7%）が上位を占め、次いで「子どもの教育やいじめなどが心配」（33.7%）、「子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じる」（31.0%）がいずれも3割を超えている。



問 1 1 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

◆相談先の有無【〇は1つだけ】

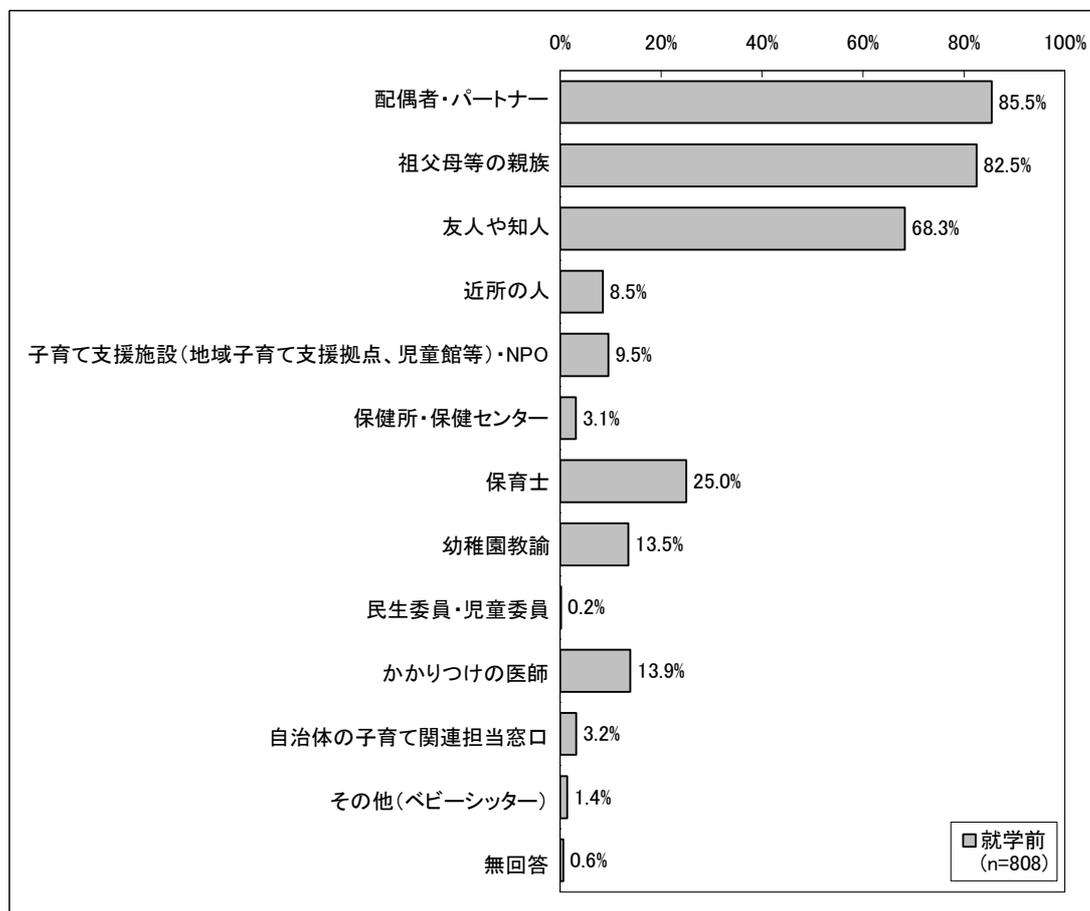
相談先の有無については、気軽に相談できる人または場所が「いる/ある」と 96.5%の人が回答した。



↓ 『いる/ある』と回答した人のみ

◆相談相手（場所）【〇はあてはまるものすべて】

相談相手は多い順に、「配偶者・パートナー」「祖父母等の親族」「友人や知人」となっている。



## 4 保護者の就労状況について

問13・14 保護者（母親・父親）の現在の就労状況（自営業・家族従事者含む）をおうかがいします。（※父子家庭・母子家庭などで、ひとり親の場合はそれぞれ回答不要です。）

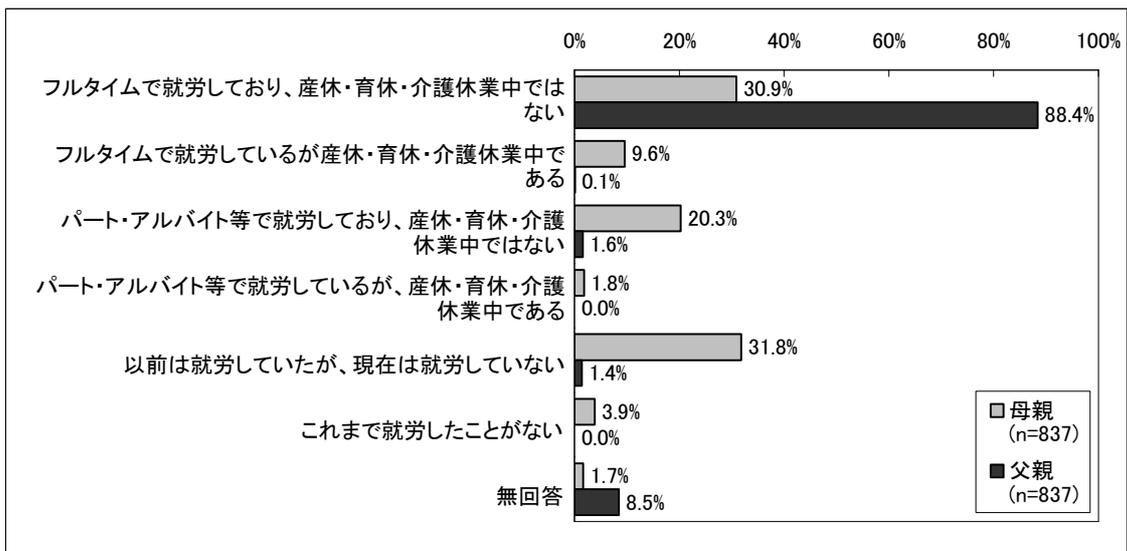
（1）保護者（母親・父親）の就労状況と就労時間（残業時間を含む）をお答えください。就労日数や、就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。また、産休・育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況についてお答えください。就労時間の表記は、必ず（例）08時～18時のように、24時間制でお答えください。  
 （※フルタイムとは1週5日程度、1日8時間程度の就労のこと。）  
 （※パート・アルバイト等とはフルタイム以外の就労のこと。）

◆現在の就労状況【○は1つだけ】

母親の現在の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が31.8%と最も多いものの、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」も30.9%と僅差であった。

父親の現在の就労状況については、「フルタイムで就労している」が88.4%と大半を占めている。母親と違い、「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」「これまで就労したことがない」と回答した人はいなかった。

また、父親が「フルタイムで就労しているが産休・育休・介護休暇中である」と回答した人は、僅か1名であった。



## ↓『就労している』と回答した人のみ

## ◆現在の就労日数（1週当たり）および就労時間（1日当たり）【数字で記入】

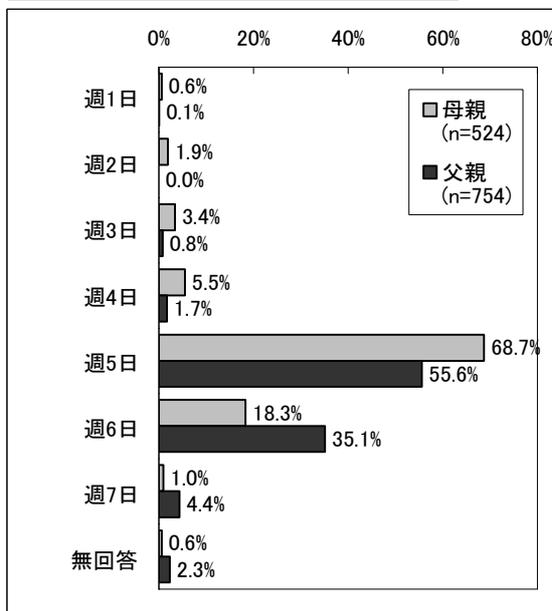
母親の就労日数（1週当たり）については、「週5日」が68.7%と最も多く、次いで「週6日」（18.3%）となっており、平均就労日数は週5.0日となっている。

父親の就労日数（1週当たり）については、「週5日」が55.6%と最も多く、次いで「週6日」（35.1%）となっており、平均就労日数は週5.4日となっている。

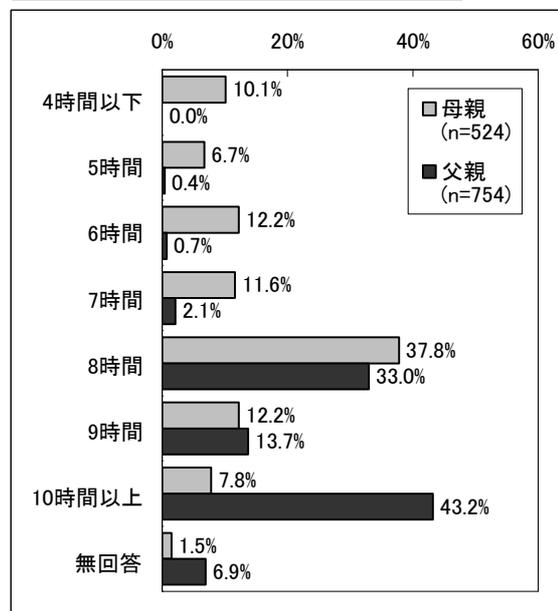
母親の就労時間（1日当たり）については、「8時間」が37.8%と最も多く、次いで「6時間」「9時間」（ともに12.2%）となっており、平均就労時間は7時間11分となっている。

父親の就労時間（1日当たり）については、「10時間以上」が43.2%と最も多く、次いで「8時間以上」（33.0%）となっており、平均就労時間は9時間49分となっている。

【現在の就労日数（1週当たり）】



【現在の就労時間（1日当たり）】



↓『就労している』と回答した人のみ

◆家を出る時間および帰宅時間【数字で記入】

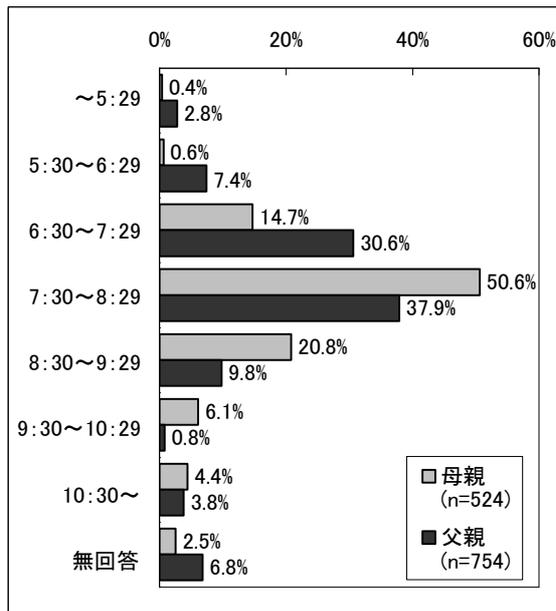
母親の家を出る時間については、「7:30～8:29」が50.6%と最も多く、次いで「8:30～9:29」(20.8%)、「6:30～7:29」(14.7%)の順となっており、平均出宅時間は8時11分となっている。

父親の家を出る時間については、「7:30～8:29」が37.9%と最も多く、次いで「6:30～7:29」(30.6%)、「8:30～9:29」(9.8%)の順となっており、平均出宅時間は7時36分となっている。

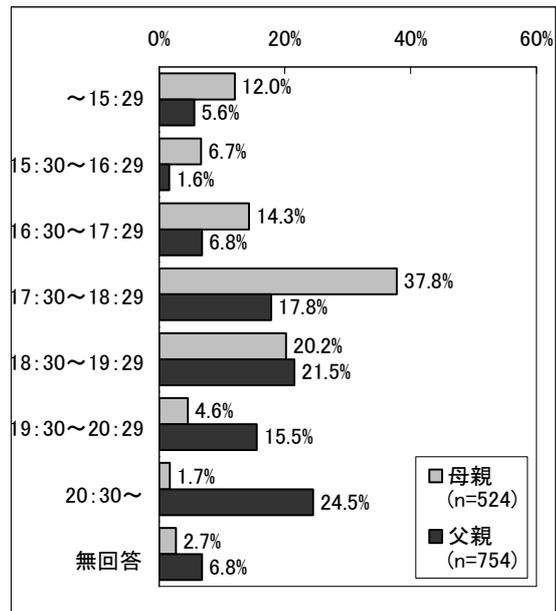
母親の帰宅時間については、「17:30～18:29」が37.8%と最も多く、次いで「18:30～19:29」(20.2%)、「16:30～17:29」(14.3%)の順となっており、平均帰宅時間は17時13分となっている。

父親の帰宅時間については、「20:30以降」が24.5%と最も多く、次いで「18:30～19:29」(21.5%)、「17:30～18:29」(17.8%)の順となっており、平均帰宅時間は18時39分となっている。

【家を出る時間】



【帰宅時間】



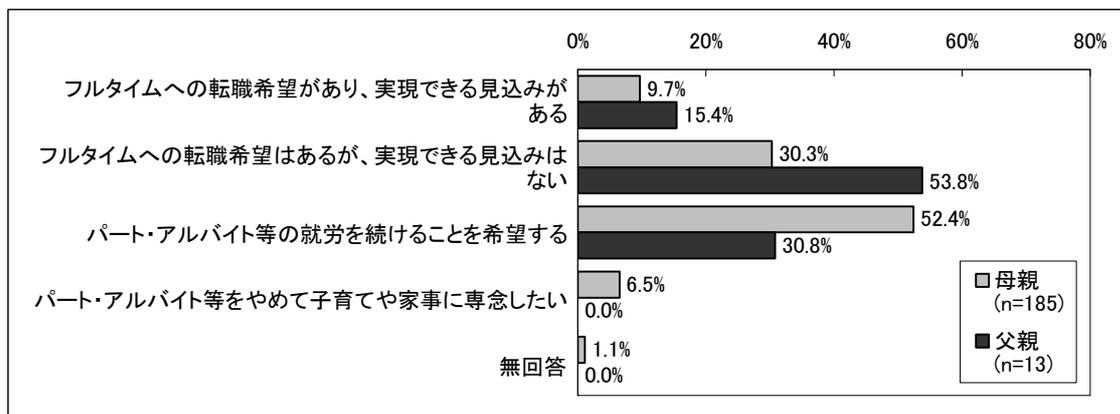
## ↓『パート・アルバイト等で就労』と回答した人のみ

## (2) フルタイムへの転職希望はありますか。

【〇は1つだけ】

母親のフルタイムへの転職希望については、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が 52.4%と最も多くなっているが、「フルタイムへの転職希望があり、実現できる見込みがある」(9.7%)と「フルタイムへの転職希望はあるが、実現できる見込みはない」(30.3%)を合わせると、パートタイム・アルバイト等で就労している母親の4割(40.0%)がフルタイムへの転職を希望しているとの結果となっている。

父親のフルタイムへの転職希望については、「フルタイムへの転職希望があり、実現できる見込みはない」が 53.8%と最も多く、「フルタイムへの転職希望はあるが、実現できる見込みがある」(15.4%)と合わせると、パートタイム・アルバイト等で就労している父親の7割(69.2%)がフルタイムへの転職を希望しているとの結果となっている。



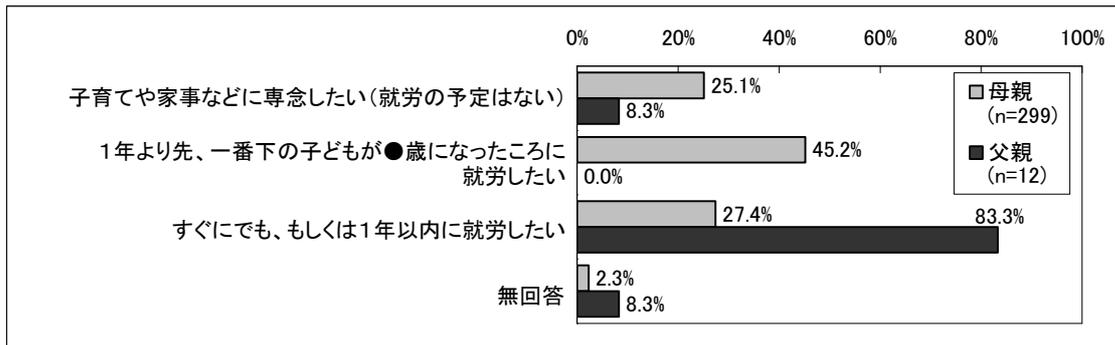
↓『現在就労していない』または『これまでに就労したことがない』と回答した人のみ

(3) 就労したいという希望はありますか。

【○は1つだけ】

母親の就労希望の有無については、「1年より先、一番下の子どもが●歳になったところに就労したい」が45.2%と最も多く、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(27.4%)を合わせると、7割以上(72.6%)の方が就労を希望していることがわかる。

父親の就労希望の有無については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が83.3%と最も多くなっている。

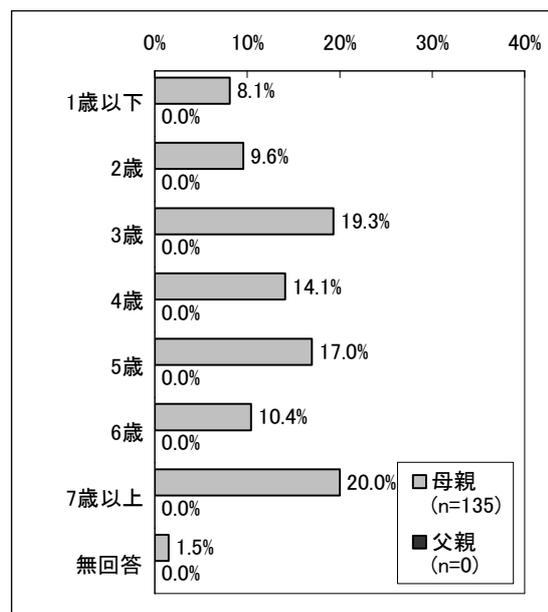


↓『1年より先、一番下の子どもが●歳になったところに就労したい』と回答した人のみ

◆就労を希望する上での、一番下の子どもの年齢の内訳【数字で記入】

母親の就労を希望する上での、一番下の子どもの年齢については、「7歳以上」になったところに就労したいと回答した人が20.0%と最も多く、2割を占めた。全体的に見ると約半数が4歳になる頃までに就労することを希望しており、残りの半数は、子どもが5歳以上になったら就労したいと考えている。

父親については、回答が無かった。

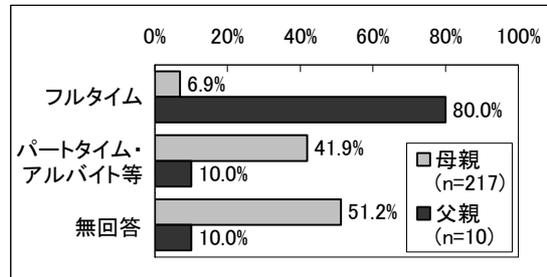


## ↓ 『就労したい』 と回答した人のみ

## ◆ 希望する就労形態【○は1つだけ】

母親の希望する就労形態については、「パートタイム・アルバイト等」が41.9%と最も多い。

父親の希望する就労形態については、「フルタイム」が80.0%と最も多い。



## ◆ 希望する就労日数および就労時間【数字で記入】

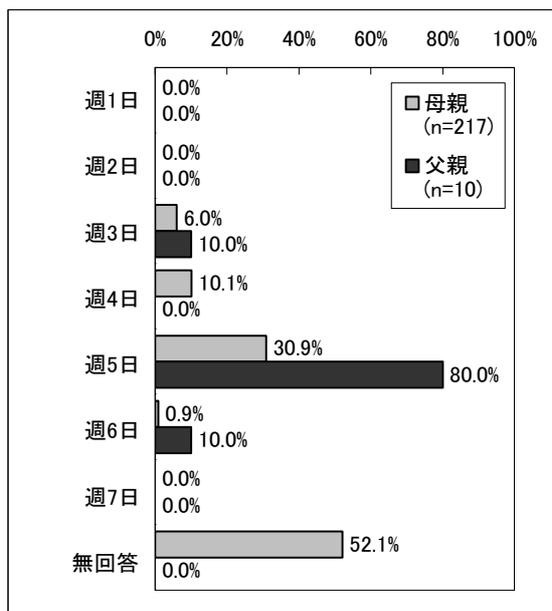
母親の希望する就労日数については、「週5日」が30.9%と最も多く、次いで「週4日」(10.1%)となっており、平均希望就労日数は週4.6日となっている。

父親の希望する就労日数については、「週5日」が80.0%と最も多く、次いで「週3日」「週6日」(ともに10.0%)となっており、平均希望就労日数は週4.9日となっている。

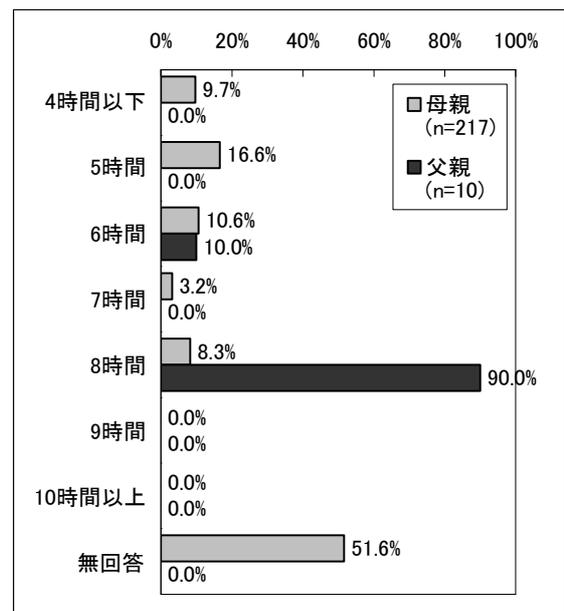
母親の希望する就労時間については、「5時間」が16.6%と最も多く、次いで「6時間」(10.6%)となっており、平均希望就労時間は5時間40分となっている。

父親の希望する就労時間については、「8時間」が90.0%と最も多く、次いで「6時間」(10.0%)となっており、平均希望就労時間は7時間48分となっている。

## 【希望する就労日数 (1週当たり)】



## 【希望する就労時間 (1日当たり)】

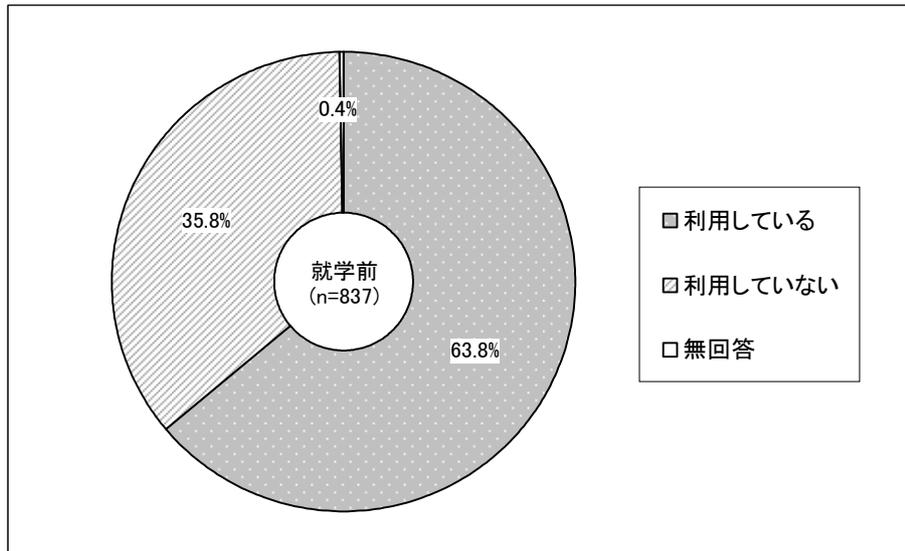


## 5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問15 あて名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用していますか。

### ◆平日の「定期的な教育・保育事業」の利用の有無【○は1つだけ】

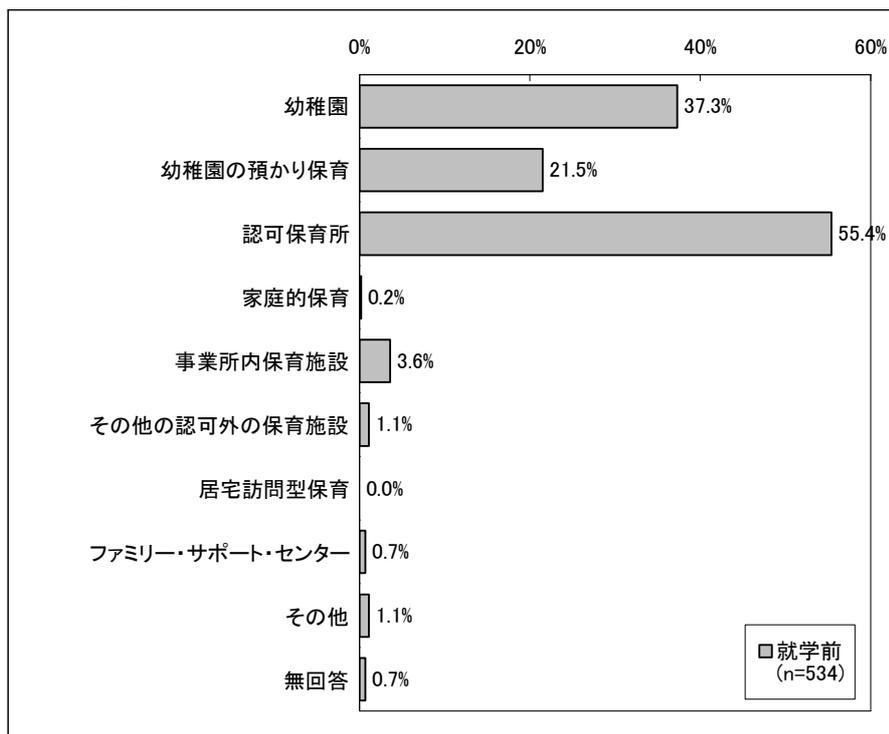
平日の「定期的な教育・保育事業」の利用の有無については、「利用している」が63.8%となっており、「利用していない」35.8%を28.0ポイント上回る結果となっている。



### ↓『利用している』と回答した人のみ

### ◆定期的に利用している事業の内訳【○はあてはまるものすべて】

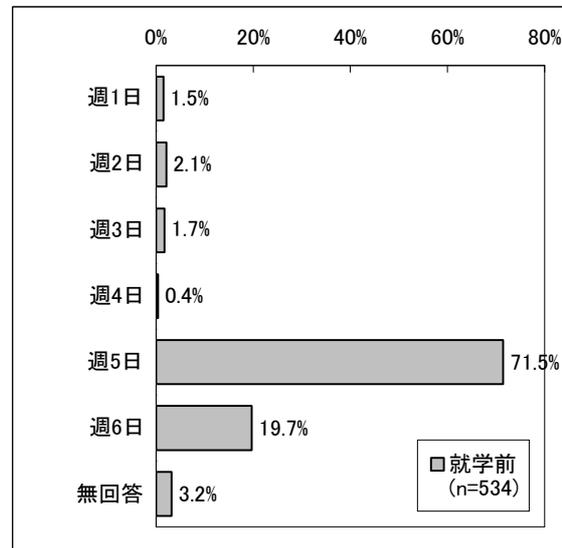
定期的に利用している事業については、「認可保育所」が55.4%と半数以上を占めており、次いで「幼稚園」(37.3%)、「幼稚園の預かり保育」(21.5%)となり、その他の事業は利用者が圧倒的に少ない。



## ↓ 『利用している』 と回答した人のみ

## ◆ 現在の利用日数（1週当たり）【数字で記入】

定期的な教育・保育事業の現在の利用日数については、「週5日」「週6日」を合わせると9割（91.2%）を占め、平均利用日数は週5.0日である。

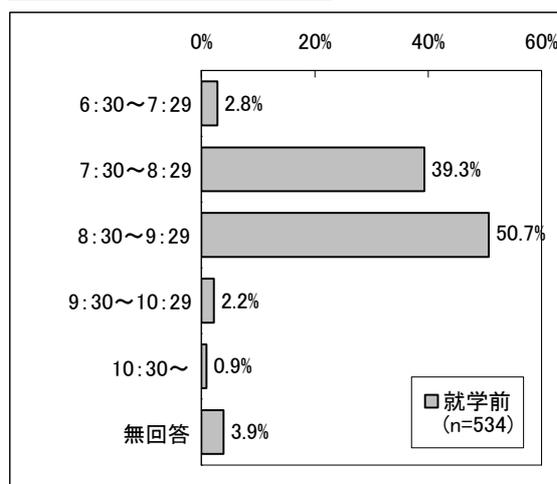


## ◆ 現在の利用開始時間・終了時間【数字で記入】

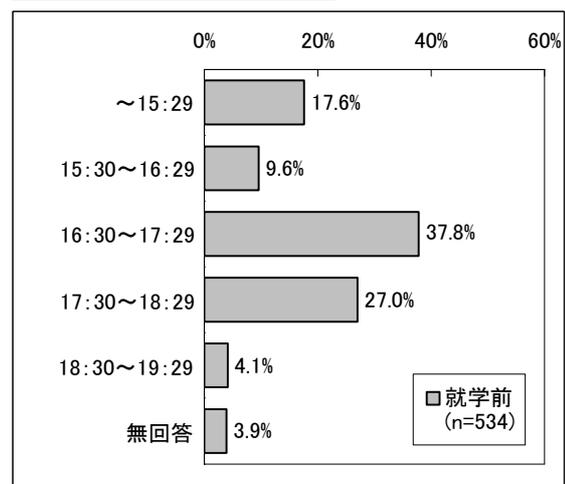
定期的な教育・保育事業の現在の利用開始時間については、「7:30~8:29」「8:30~9:29」を合わせると9割（90.0%）を占め、平均利用開始時間は8時18分である。

また、現在の利用終了時間については、多い時間帯順に「16:30~17:29」「17:30~18:29」「~15:29」となっており、平均利用終了時間は16時30分である。

## 【現在の利用開始時間】



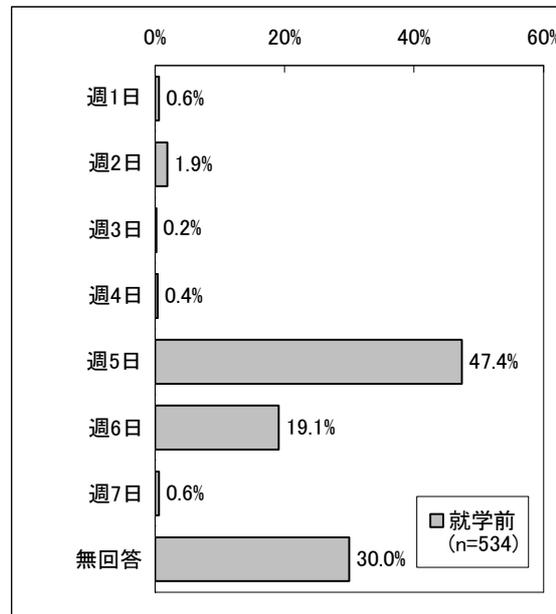
## 【現在の利用終了時間】



↓『利用している』と回答した人のみ

◆希望の利用日数（1週当たり）【数字で記入】

定期的な教育・保育事業の希望の利用日数については、「週5日」「週6日」を合わせると7割近く（66.5%）を占め、平均希望の利用日数は週5.2日である。

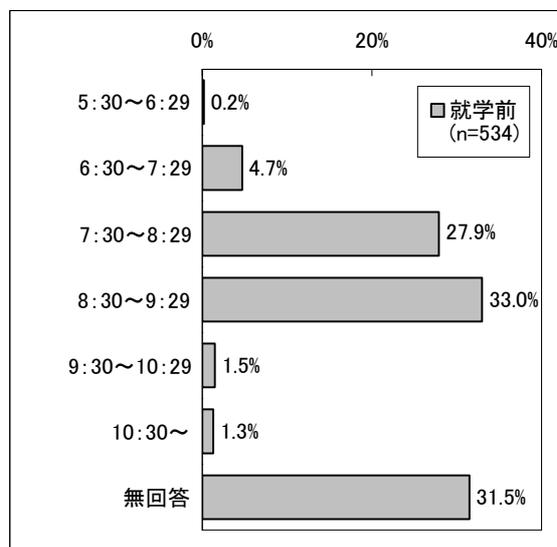


◆希望の利用開始時間・終了時間【数字で記入】

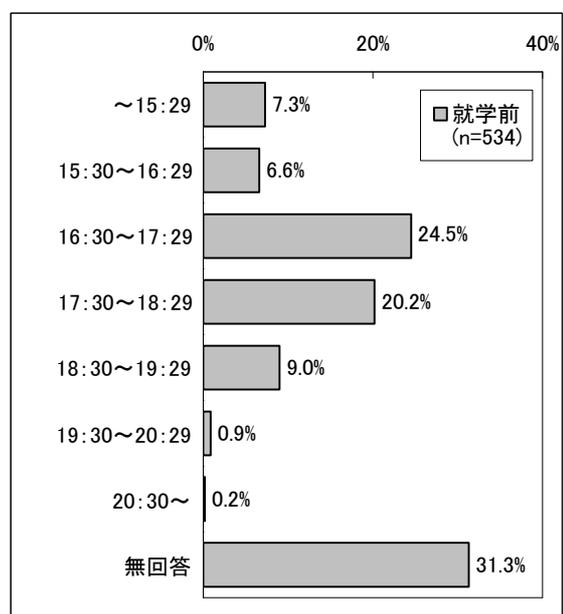
定期的な教育・保育事業の希望の利用開始時間については、「7:30~8:29」「8:30~9:29」を合わせると6割（60.9%）を占め、平均希望の利用開始時間は8時15分である。

また、希望の利用終了時間については、多い時間帯順に「16:30~17:29」「17:30~18:29」「~15:29」となり、平均希望の利用終了時間は17時2分である。

【希望の利用開始時間】



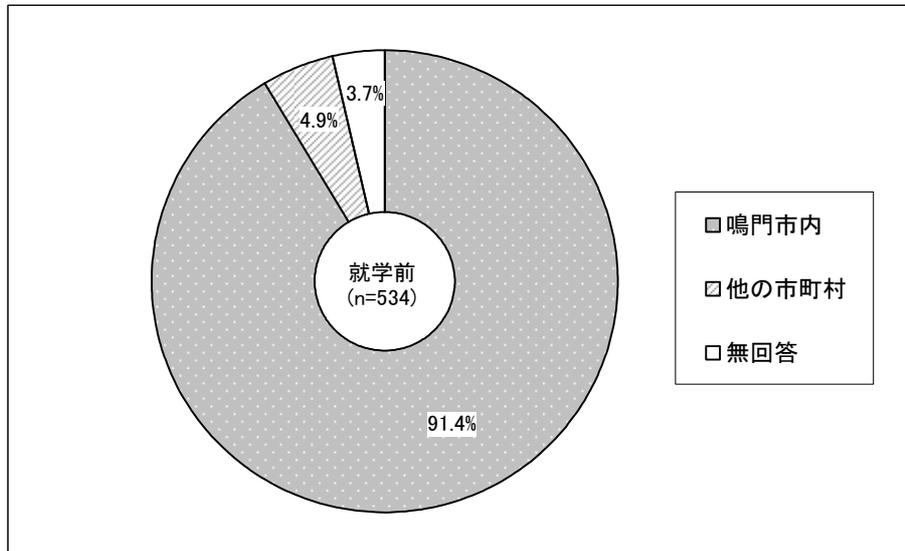
【希望の利用終了時間】



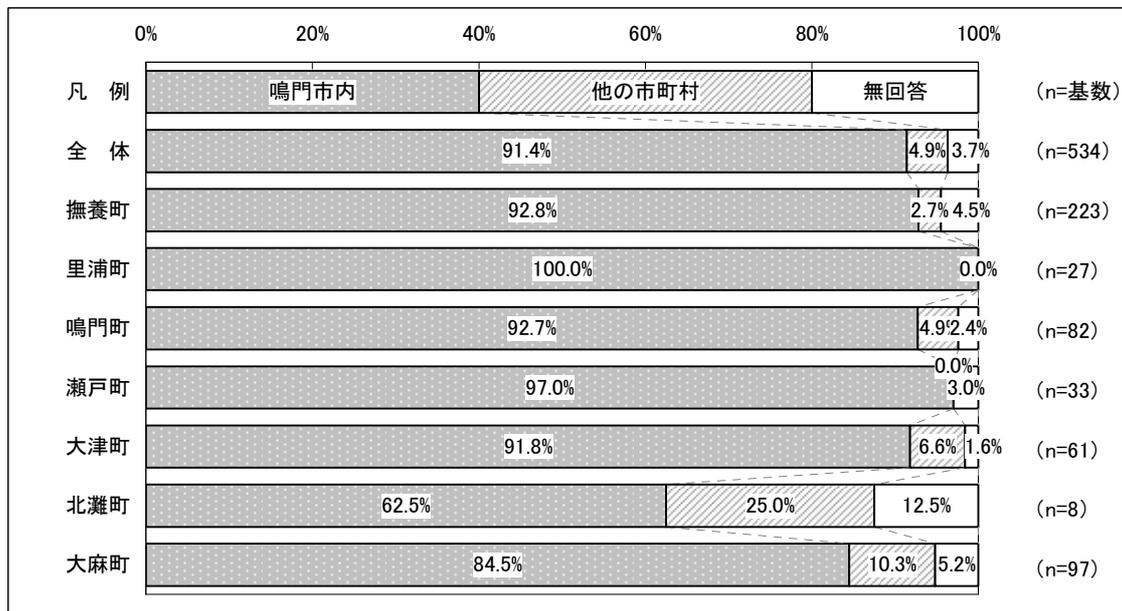
↓ 『利用している』 と回答した人のみ

◆ 利用している場所【○は1つだけ】

定期的な教育・保育を現在利用している場所については、9割以上が「鳴門市内」である。



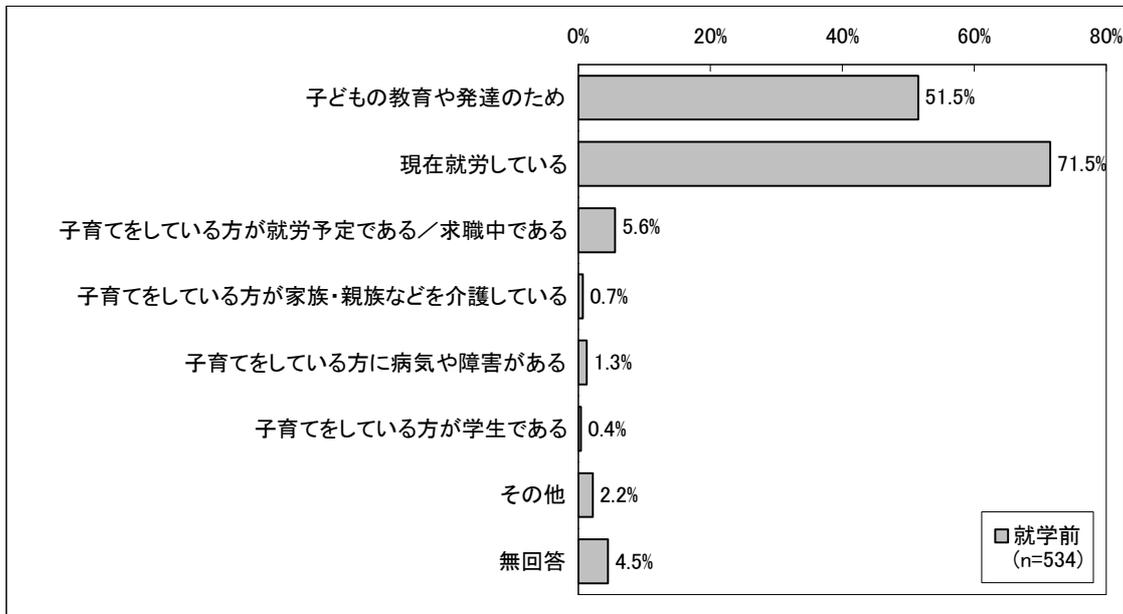
居住地区別にみると、「北灘町」「大麻町」に居住する人は、他の町に居住する人と比べて「鳴門市」以外の事業を利用している率が高いことがわかる。



↓『利用している』と回答した人のみ

◆平日の「定期的な教育・保育の事業」を利用している理由【〇はあてはまるものすべて】

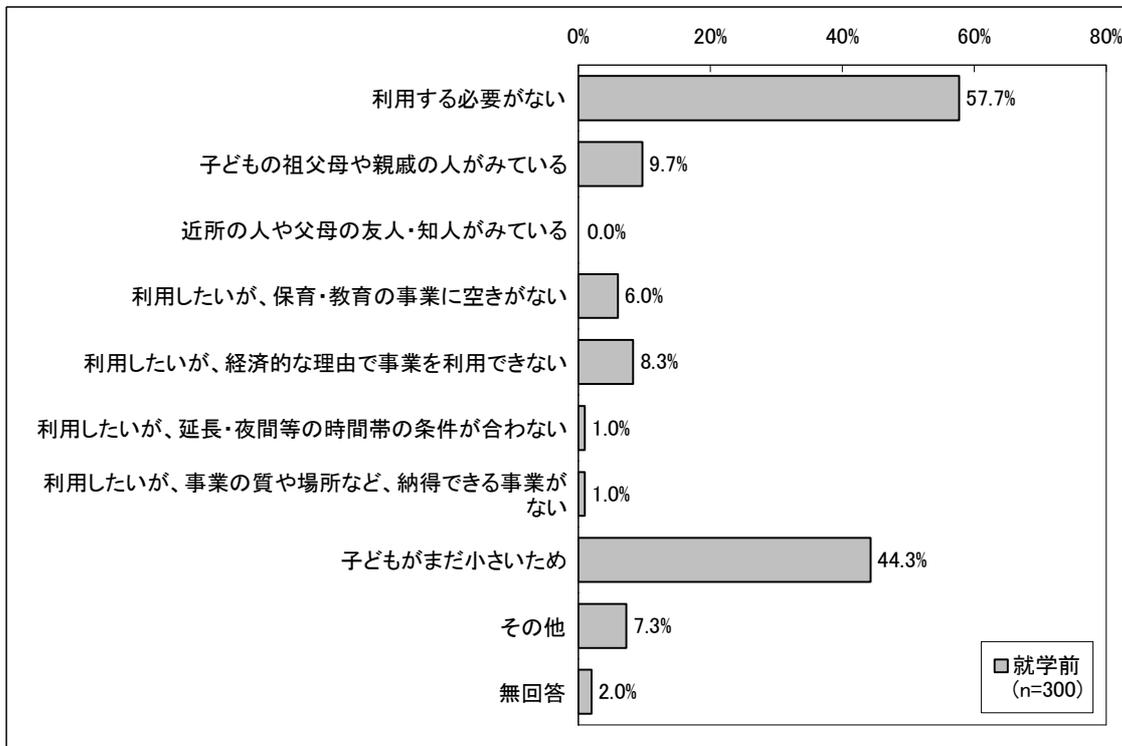
平日の「定期的な教育・保育の事業」を利用している理由については、「現在就労している」(71.5%)や「子どもの教育や発達のため」(51.5%)が大半であり、「就労予定である/求職中である」と回答した人は5.6%であった。



↓ 『利用していない』 と回答した人のみ

◆ 平日の「定期的な教育・保育の事業」を利用していない理由【〇はあてはまるものすべて】

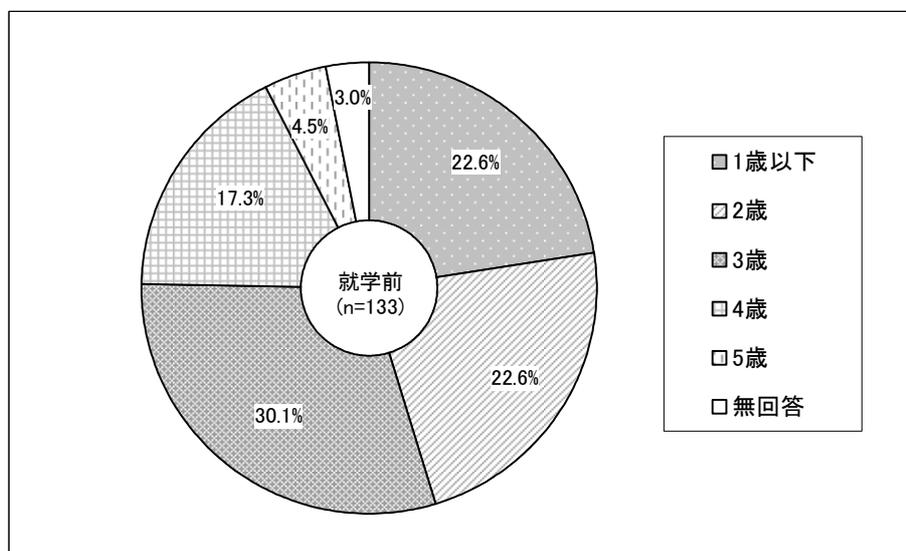
平日の「定期的な教育・保育の事業」を利用していない理由については、「利用する必要がある」（57.7%）、「子どもがまだ小さいため」（44.3%）が多く挙げられた。



↓ 『子どもがまだ小さいため』 と回答した人のみ

◆ 利用しようとする子どもの年齢【数字で記入】

「子どもがまだ小さいため」と回答した人に、子どもが何歳くらいになったら利用しようと考えているかを質問したところ、「3歳」と回答した人が30.1%ともっとも多かったものの、「1歳以下」と「2歳」は同数で、「3歳」と8ポイント差、「4歳」は「1歳以下」「2歳」と5ポイント差であり大差はなかった。平均年齢は2.6歳であった。



問16 現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。

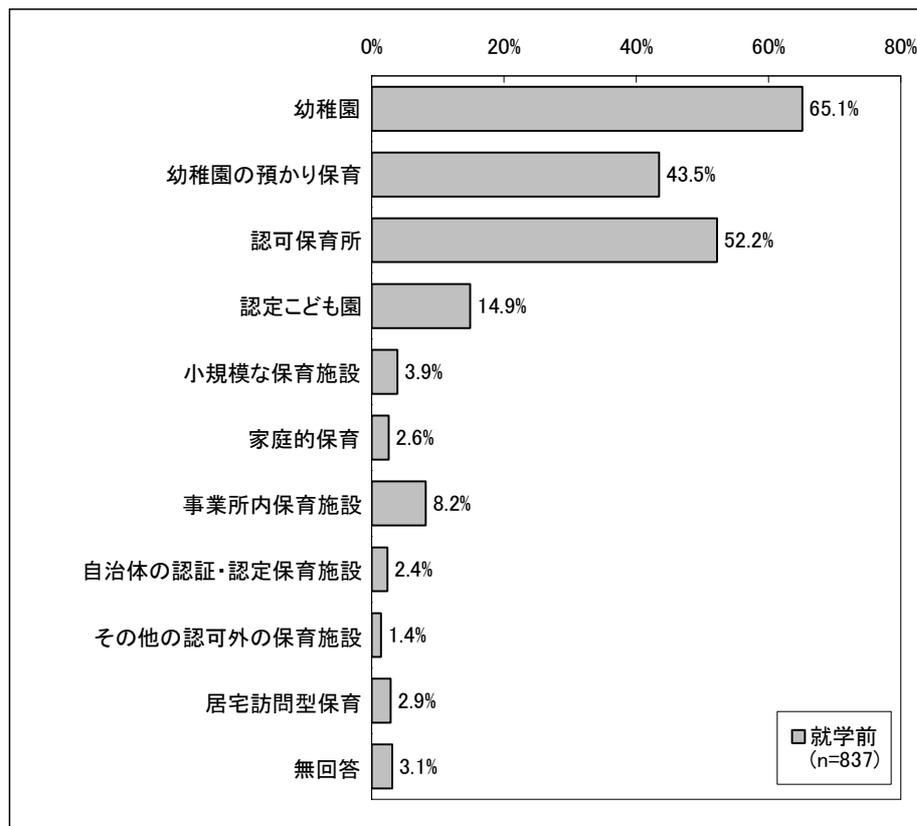
※これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

【〇はあてはまるものすべて】

現在、利用している、利用していないに関わらず全ての人を対象とした、利用したいと考える平日の「定期的な教育・保育事業」については、回答の多い順に「幼稚園」(65.1%)、「認可保育所」(52.2%)、「幼稚園の預かり保育」(43.5%)となっている。

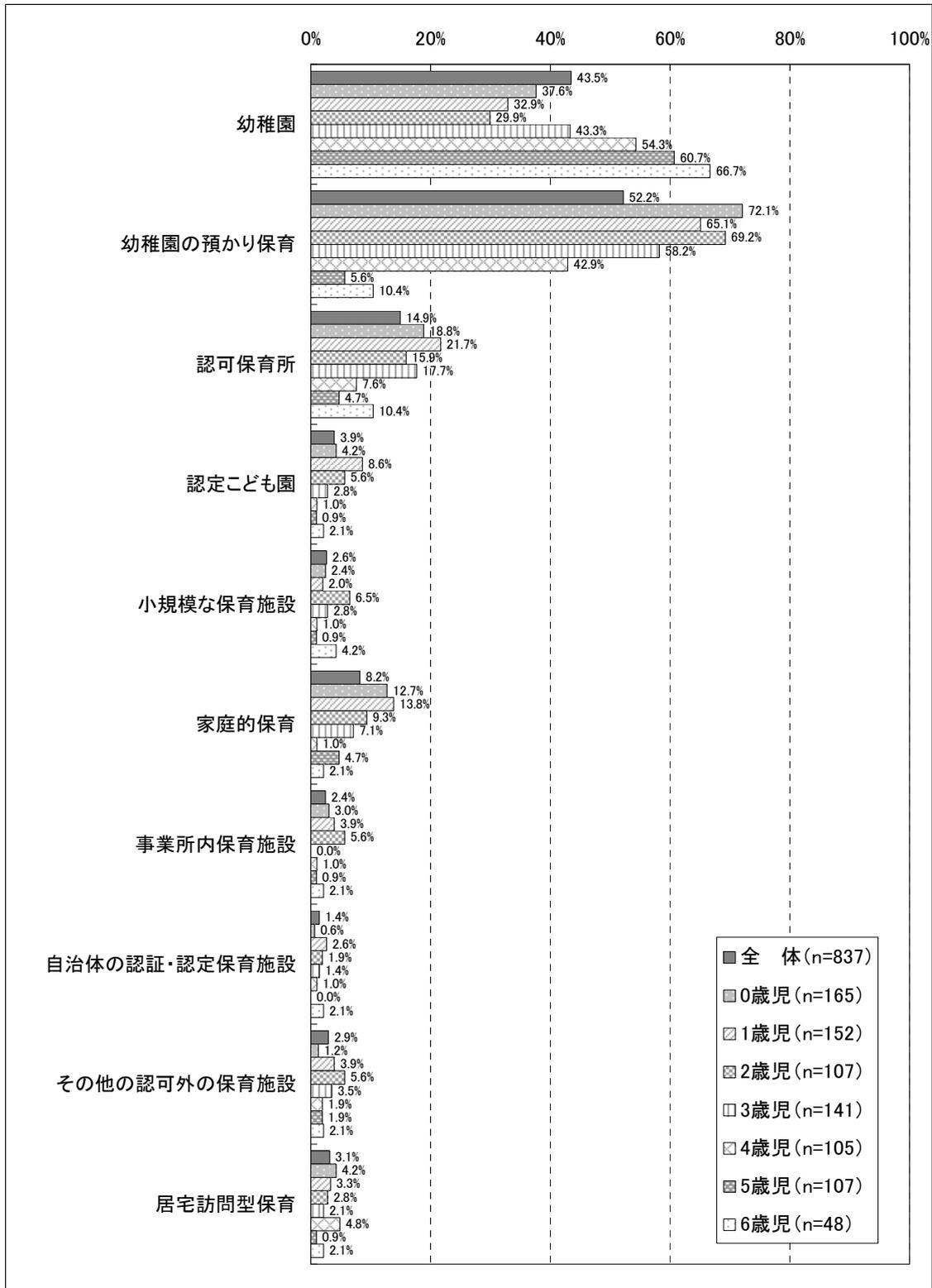
現在実際に利用している回答(P.20)と比較を行うと、回答の多い順に「認可保育所」(55.4%)、「幼稚園」(37.3%)、「幼稚園の預かり保育」(21.5%)となっており、「認可保育所」については利用と希望の割合が同程度であるのに対し、「幼稚園」については利用希望が現在利用している人の1.75倍、「幼稚園の預かり保育」においては利用希望が現在利用している人の2倍であった。

また、「事業所内保育所」についても現在利用している人は3.6%であり、希望(8.2%)では2.3倍となる。また、鳴門市では現在実施していない「認定こども園」を利用したいと回答した人が14.9%いた。



◆年齢別（利用したいと考える平日の「定期的な教育・保育事業」）

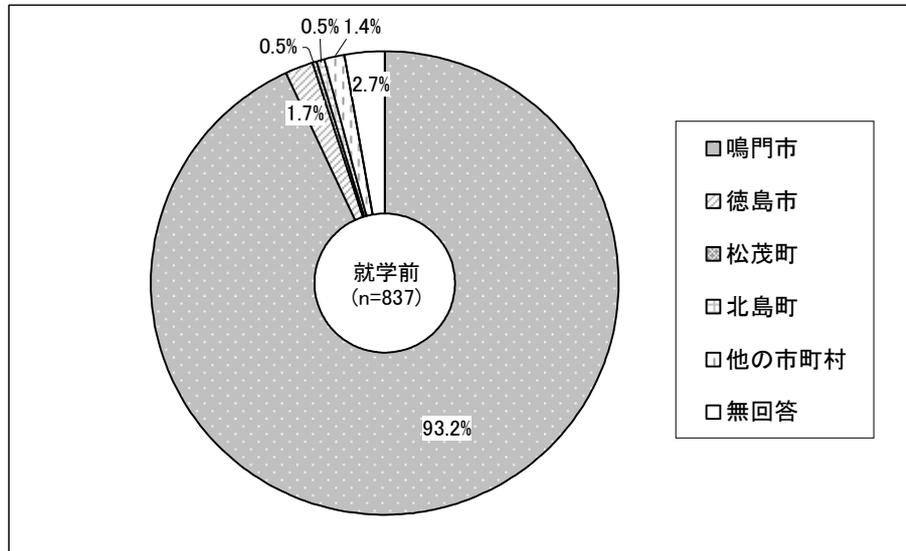
年齢別にみると、「幼稚園」は『6歳児』（66.7%）『5歳児』（60.7%）『4歳児』（54.3%）、  
「幼稚園の預かり保育」は『0歳児』（72.1%）『2歳児』（69.2%）『1歳児』（65.1%）『3歳児』（58.2%）の利用希望がそれぞれ高くなっている。



問16-1 教育・保育事業を利用したい場所はどこですか。

【〇は1つだけ】

教育・保育事業を利用したい場所については、「鳴門市」が9割以上である。その他には、「徳島市」(1.7% : 14人)、「松茂町」「北島町」(ともに0.5% : 4人)のほか、少数回答があった。

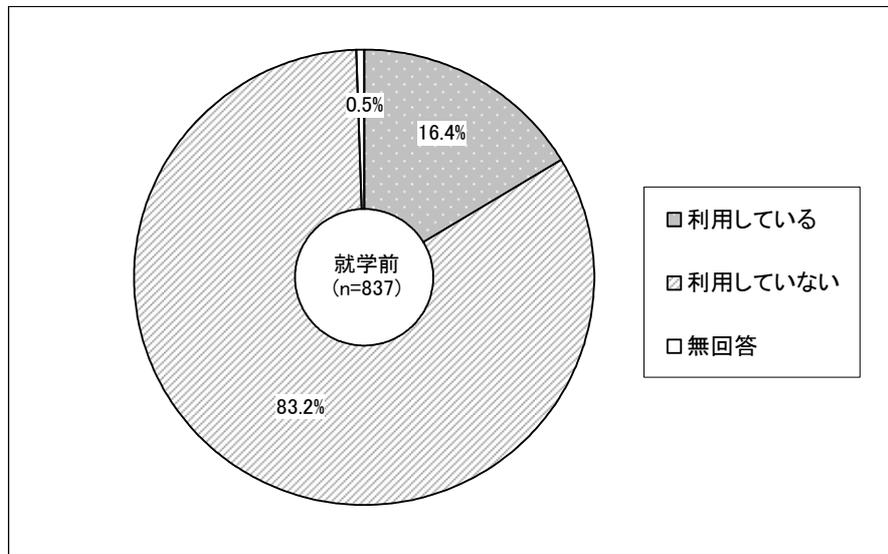


## 6 地域の子育て支援事業の利用状況について

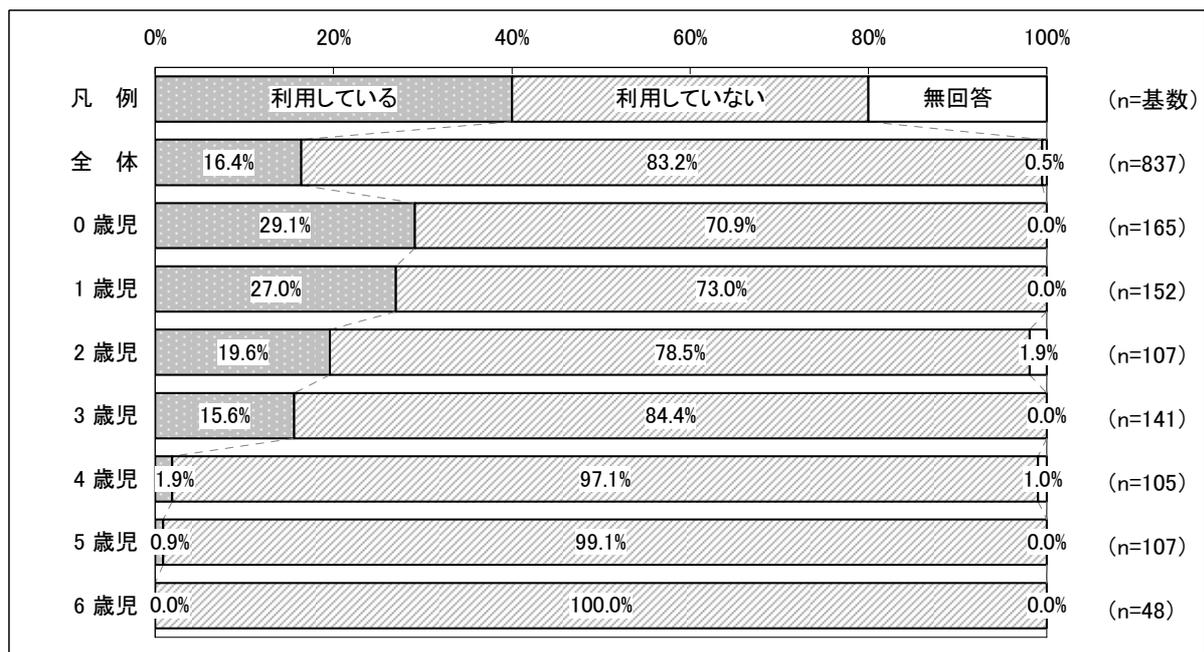
問17 あて名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援センター」「にこにこ広場」が当てはまります。）を利用していますか。また、利用している方はおおよその利用回数（頻度）をご記入ください。

### ◆地域子育て支援拠点事業の利用の有無【○は1つだけ】

地域子育て支援拠点事業の利用の有無については、「利用していない」が83.2%と大半を占める。「利用していない」人の多くは、幼稚園や保育所など定期的な事業を利用していた。



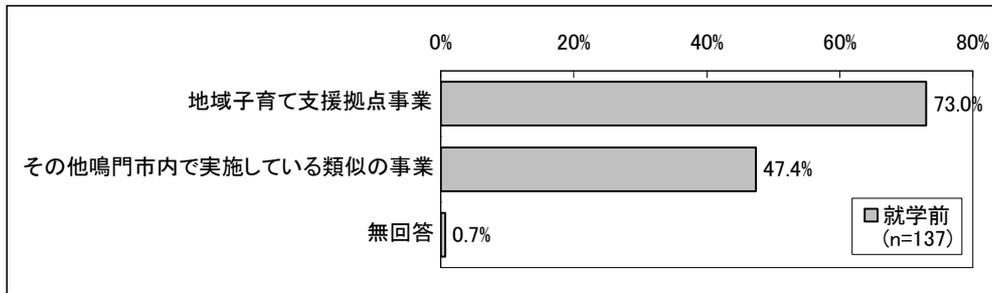
年齢別にみると、利用者は「0歳児」「1歳児」「2歳児」と年齢が低いほど利用率が高くなっている。



↓『利用している』と回答した人のみ

◆地域子育て支援拠点事業の利用場所【〇はあてはまるものすべて】

地域子育て支援拠点事業の利用場所については、「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」が73.0%と大半を占める。

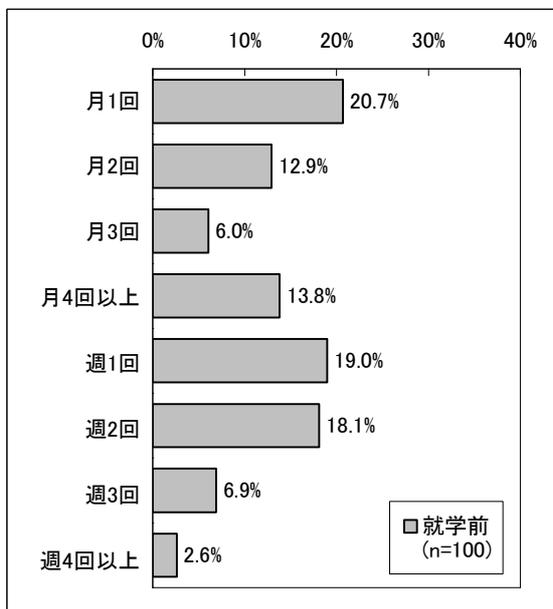


◆事業の利用回数【数字で記入】

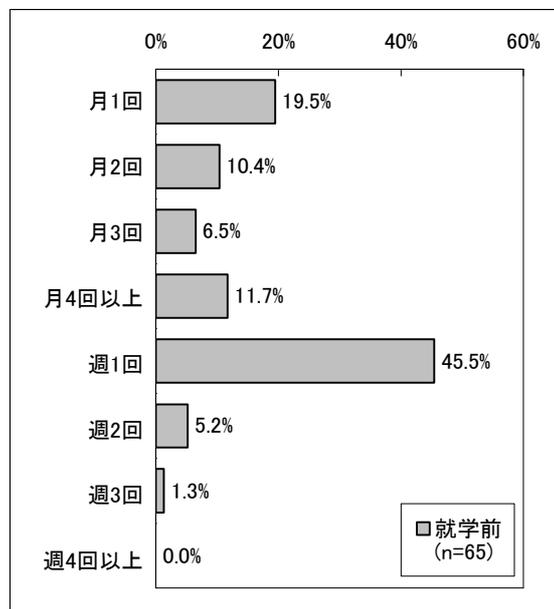
『地域子育て支援拠点事業』の利用回数については、「月1回」（20.0%）が最も多く、次いで「週1回」（19.0%）、「週2回」（18.1%）の順となっている。

『その他鳴門市内で実施している類似の事業』の利用回数については、「週1回」（45.5%）が最も多く、次いで「月1回」（19.5%）、「月4回以上」（11.7%）の順となっている。

【地域子育て支援拠点事業の利用回数】



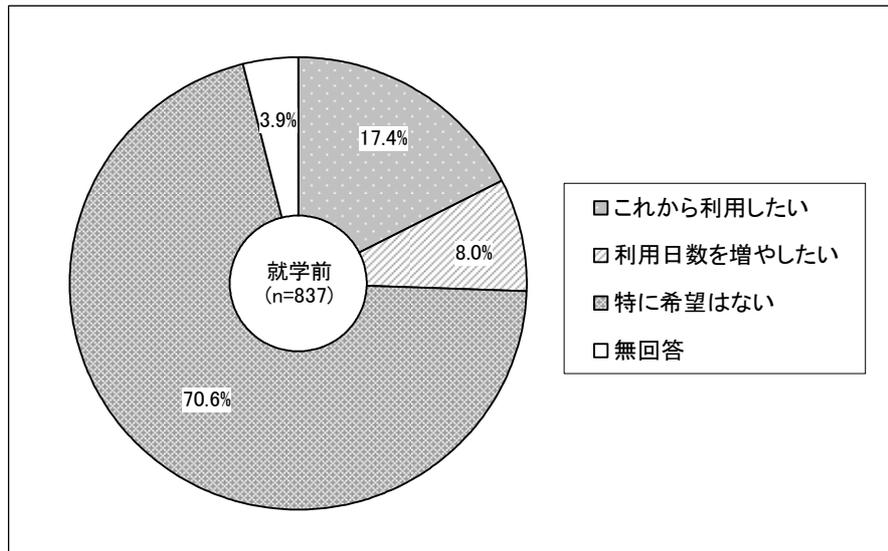
【その他鳴門市内の類似事業の利用回数】



問18 問17のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。また、おおよその利用回数（頻度）をご記入ください。

◆地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望【〇は1つだけ】

地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望については、「特に希望はない」(70.6%)が7割を占めた。

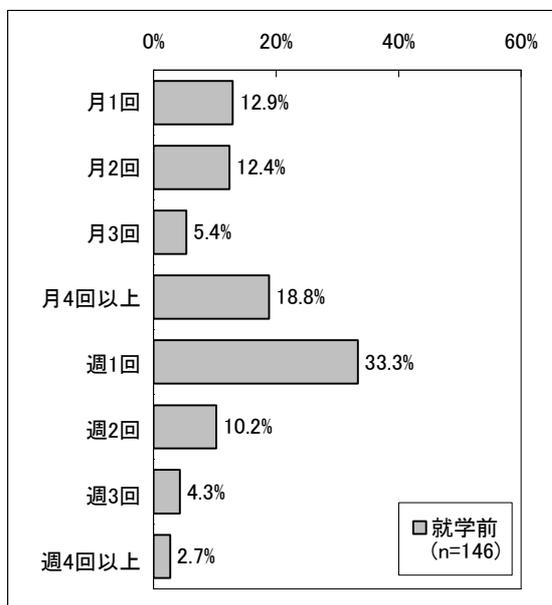


◆事業の利用希望回数【数字で記入】

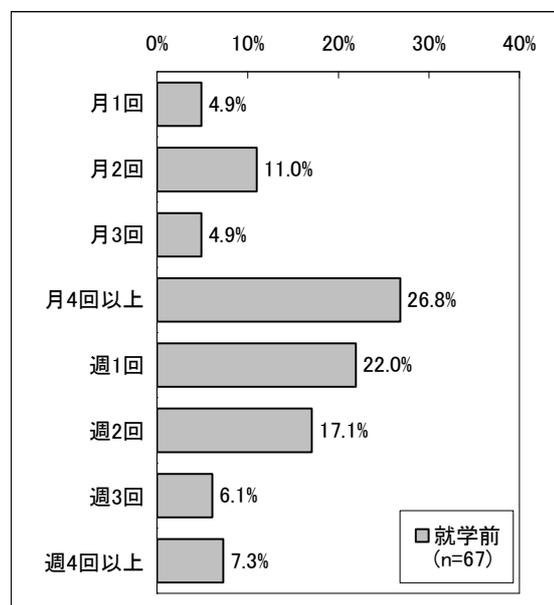
『これから利用したい』事業の利用希望回数については、「週1回」(33.3%)が最も多く、次いで「月4回以上」(18.8%)、「月1回」(12.9%)の順となっている。

『利用日数を増やしたい』事業の利用希望回数については、「月4回以上」(26.8%)が最も多く、次いで「週1回」(22.0%)、「週2回」(17.1%)の順となっている。

【これから利用したい事業の利用希望回数】



【利用日数を増やしたい事業の利用希望回数】

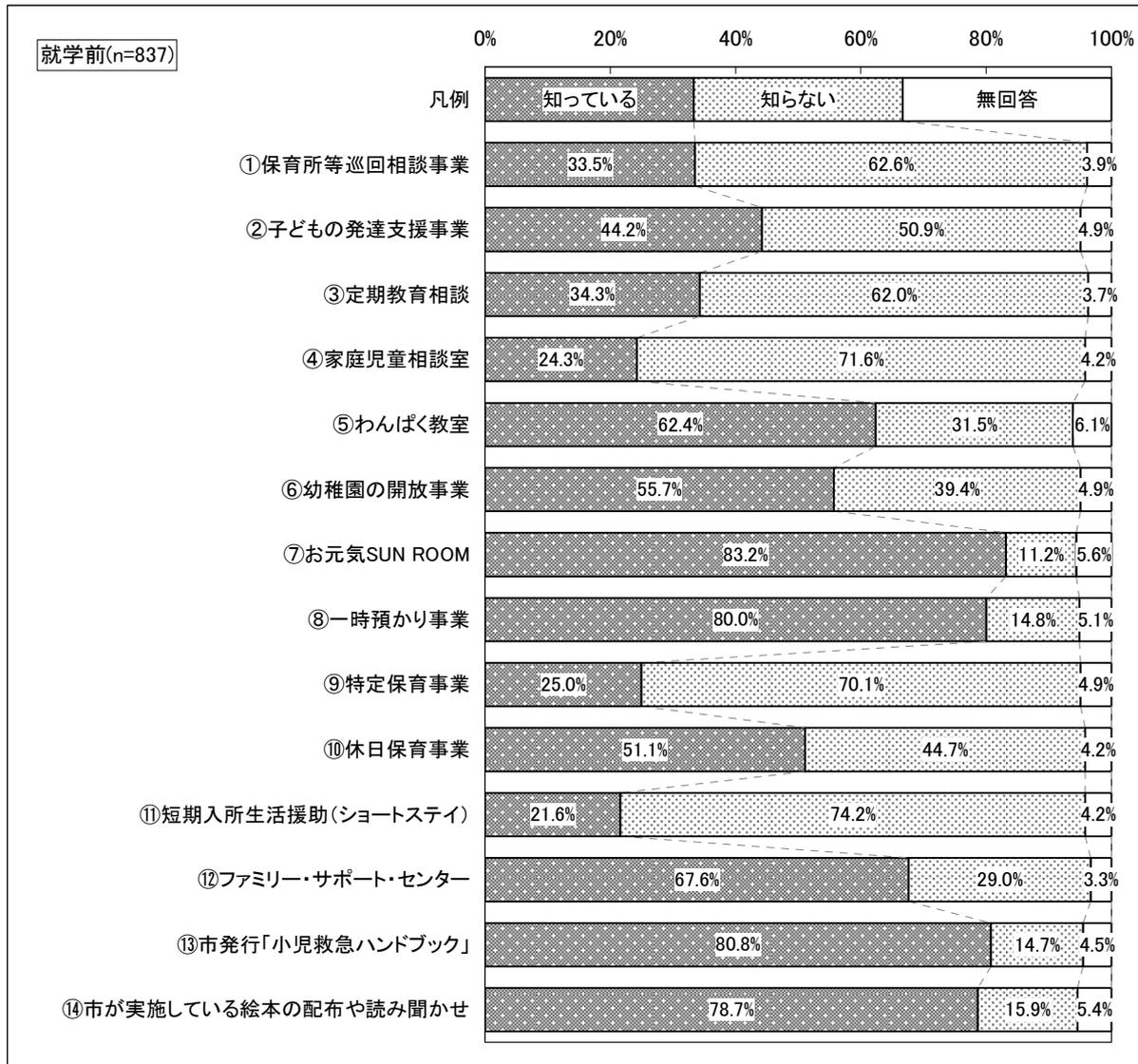


問19 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものはありますか。①～⑭の事業ごとに、A～Cのそれぞれについてお答えください。【〇はそれぞれ1つだけ】

事業名称等	概要
保育所等巡回相談	育児不安を抱える家庭や軽度の発達障がい疑われる乳幼児を発見し就学年齢までに関係機関の連携による支援を実施するため、保育所で巡回相談を実施しています。
子どもの発達支援事業	小学校入学前の児童やその保護者を対象に幼稚園において子どもの発達支援のため巡回相談を実施しています。相談や支援が必要な対象者には、専門家による相談等に繋げる等個別対応を行っています。
定期教育相談	教育委員会2階相談室等で年に6回、専門家による定期教育相談を実施しています。就学前(3歳～6歳)の児童の保護者が対象で、1回4～6人程度の相談を受けています(先着順)。
家庭児童相談室	鳴門市女性子ども相談センターが実施しています。平日8時30分から17時まで、18歳未満の児童とその家族が育児・虐待・養護・障がい等の悩みや心配事について家庭児童相談員に相談ができます。
わんぱく教室	週に1回、公私立12か所の保育所で、保育所や幼稚園に通っていない小学校入学前の児童の保護者を対象に育児相談を実施しています。
幼稚園の開放	月に1回各幼稚園で開催しています。幼稚園に通園していない児童とその保護者を対象に幼稚園を開放しています。
お元気SUN ROOM	鳴門市役所本庁舎1階に開設されています。祝日を除く月曜日から金曜日までの午前9時から午後5時まで保健師と栄養士が健康相談、栄養相談を行っています。また、乳幼児の身体計測や育児相談、離乳食相談のほか、血圧・体脂肪・骨密度の測定もできます。
一時預かり	私立保育所13か所が実施しています(中断の場合あり)。保護者のリフレッシュ等の理由で保育所や幼稚園に通っていない小学校入学前の児童が平日週3日まで(緊急の場合は14日連続利用可)利用できます。1日あたり2,000円の利用料が必要です。
特定保育	私立保育所2か所が実施しています。保護者がパートや短時間勤務等で短時間(概ね月64時間以上、週3日程度)保育所での保育を希望する場合、利用が可能です。1日あたり2,000円の利用料が必要です。
休日保育	うずしお保育園で実施しています。2か月から小学校入学前までの児童が日曜・祝日の8時30分から17時30分まで利用できます。3日前までの申込と、1日あたり2,000円の利用料が必要です。
短期入所生活援助(ショートステイ)	徳島赤十字乳児院、鳴門子ども学園、こども家庭支援センターひかり、阿波国慈恵院、常楽園が実施しています。18歳未満の児童を養育している家庭の保護者が、疾病・出産・看護・事故・災害などで児童の養育が困難になった場合、原則7日以内利用できます。1日あたり2歳未満児で2,360円以内、2歳以上児で1,840円以内の利用料が必要です(世帯の状況によって変動)。
ファミリー・サポート・センター	子育ての援助を受けたい方(依頼会員)と育児の援助ができる方(提供会員)が会員となり運営されています。対象は0歳から小学6年生までの児童で、1時間あたり平日700円(土・日・祝・年末年始・早朝夜間は800円)の利用料が必要です。病気の児童の利用はできません。
小児救急ハンドブック	子どもの病気やけがの際の対処法等をまとめたハンドブックです。出生届を出された方にお渡ししています。途中転入等でお持ちでない方は、健康づくり課でお渡しできます。
ブックスタート、おはなし会	4か月健診時に本を1冊お渡ししています(ブックスタート)。また、市立図書館で図書館職員やボランティアなどによるおはなし会を行っています。

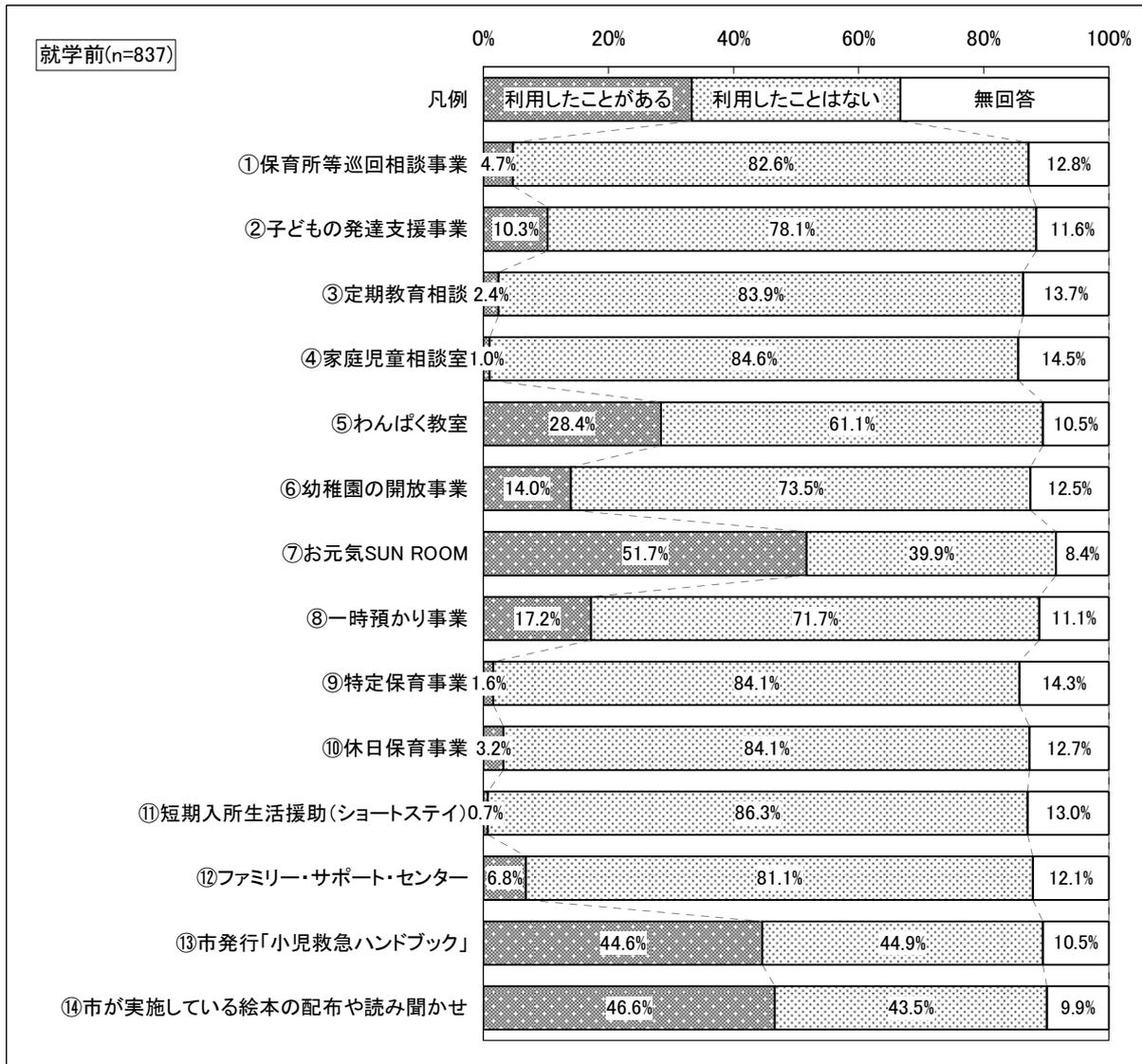
## 【A】事業の認知度

本市で実施している事業の認知度については、もっとも認知度が高かったのは「お元気 SUN ROOM」(83.2%)、次いで「市発行『小児救急ハンドブック』」(80.8%)、「一時預かり事業」(80.0%)の順となっており、いずれも8割以上の人認知している。逆に認知度が低いものには、「短期入所生活援助(ショートステイ)」(21.6%)、「家庭児童相談室」(24.3%)、「特定保育事業」(25.0%)が挙げられ、いずれも2割程度の認知度となっている。



【B】事業の利用有無

本市で実施している事業の利用有無については、もっとも利用率が高かったのは「お元気SUN ROOM」(51.7%)、次いで「市が実施している絵本の配布や読み聞かせ」(46.6%)、「市発行『小児救急ハンドブック』」(44.6%)であり、利用率は4～5割である。事業の認知度が低いものでも2割以上であったのに対し利用有無においては、実際に「利用したことはない」が8割を超える事業が目立つ。

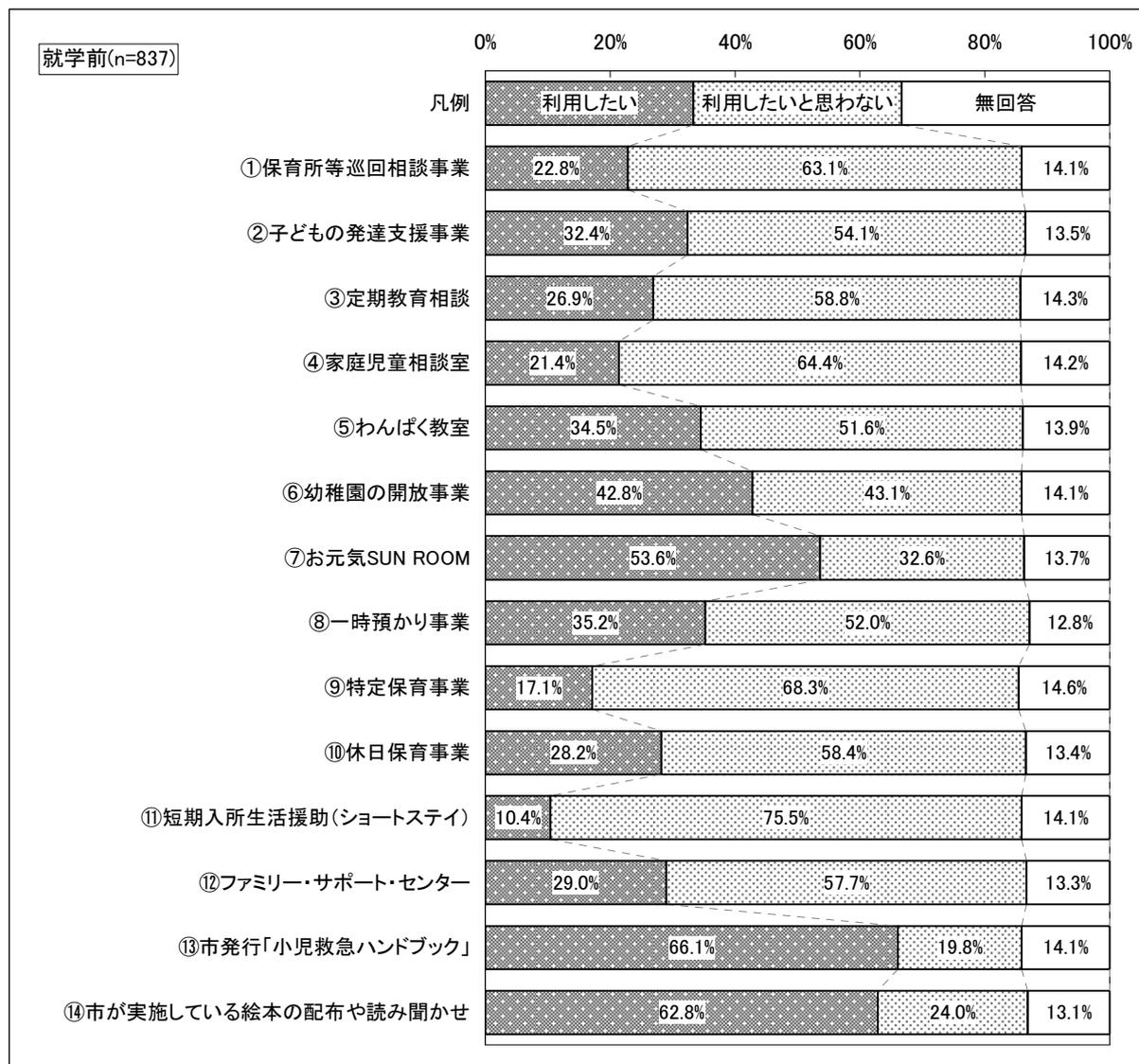


## 【C】事業の今後の利用意向

本市で実施している事業の今後の利用意向については、もっとも利用意向率が高かったのは「市発行『小児救急ハンドブック』」(66.1%)、「市が実施している絵本の配布や読み聞かせ」(62.8%)、「お元気 SUN ROOM」(53.6%)となっており、「利用したことがある」と比較すると、上位3事業は同じものが挙げられ、いずれも今後「利用したい」が「利用したことがある」を2~20ポイント上回る結果となった。

「幼稚園の開放事業」においては、今後「利用したい」(42.8%)が「利用したことがある」(14.0%)を28.8ポイント上回り、また、利用率が5%を下回る「定期教育相談」(2.4%)、「家庭児童相談室」(1%)、「休日保育事業」(3.2%)についても、今後の利用意向では20ポイント以上増える結果となった。その他の事業においても積極的な利用意向があると言える。

一方で、「短期入所生活援助(ショートステイ)」と「特定保育事業」は、2割未満の利用意向にとどまっている。

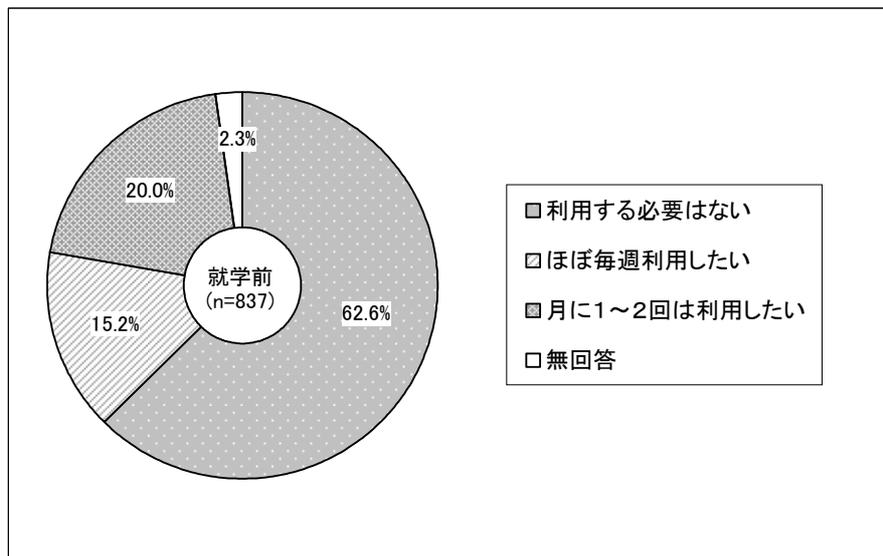


7 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望について

問20 あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。【○は1つだけ】  
また、希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。【数字を記入】

(1) 土曜日（「定期的な」教育・保育事業の利用希望）

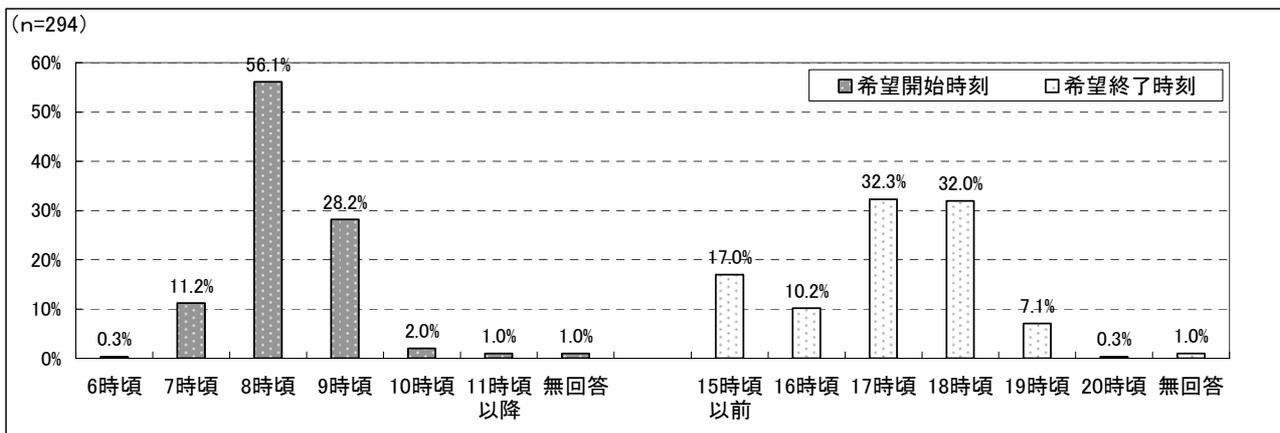
土曜日の教育・保育事業の利用希望については、「利用する必要はない」（62.6%）が6割以上を占め、「ほぼ毎週利用したい」（15.2%）と「月に1～2回は利用したい」（20.0%）を合わせた利用希望は35.2%であった。



↓ 『利用したい』 と回答した人のみ

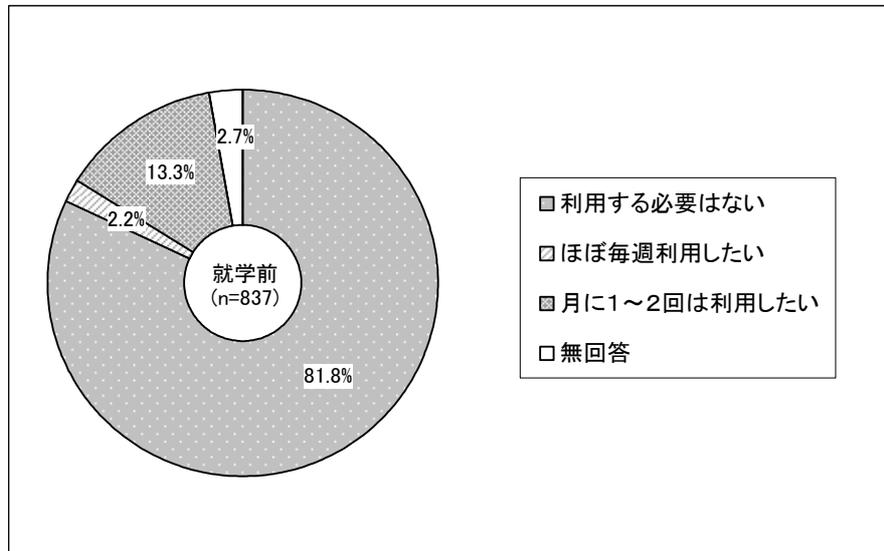
◆土曜日の教育・保育事業の利用したい時間帯（何時から何時まで）

土曜日の教育・保育事業の利用したい時間帯については、希望開始時刻は「8時頃」が56.1%と最も多く、平均希望開始時刻は8時16分である。また、希望終了時刻は「17時台」が32.3%と最も多く、平均希望終了時刻は16時44分である。



## (2) 日曜日・祝日（「定期的な」教育・保育事業の利用希望）

日曜日・祝日の教育・保育事業の利用希望については、「利用する必要はない」（81.8%）が8割以上を占め最も多く、「ほぼ毎週利用したい」（2.2%）と「月に1～2回は利用したい」（13.3%）を合わせた利用希望は15.5%であった。

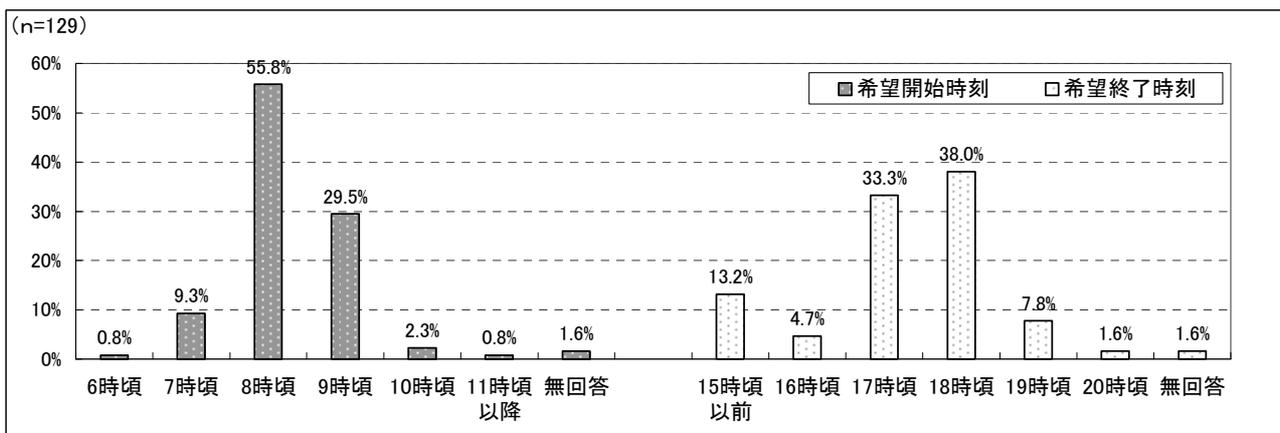


## ↓ 『利用したい』と回答した人のみ

## ◆ 日曜日・祝日の教育・保育事業の利用したい時間帯（何時から何時まで）

日曜日・祝日の教育・保育事業の利用したい時間帯については、希望開始時刻は「8時頃」が55.8%と最も多く、平均希望開始時刻は8時16分である。また、希望終了時刻は「18時頃」が38.0%と最も多く、平均希望終了時刻は17時07分である。

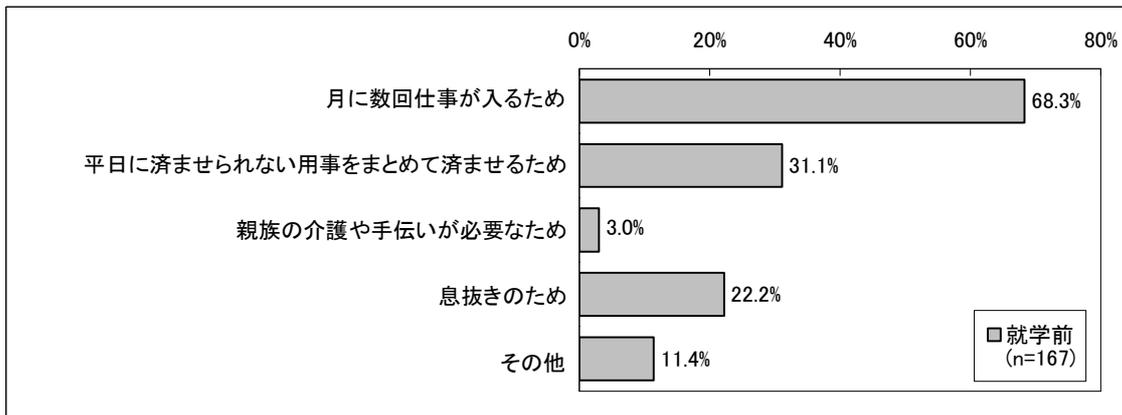
土曜日の利用意向と比べると、利用希望自体は少ないものの、利用を希望する人の利用時間帯はやや長くなっている。



↓『月に1~2回は利用したい』と回答した人のみ

問20-1 毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

土曜日、日曜日・祝日に教育・保育事業を「月に1~2回は利用したい」理由については、もっとも多かったのは「月に数回仕事が入るため」(68.3%)であった。また、「息抜きのため」と回答した人は22.2%であった。

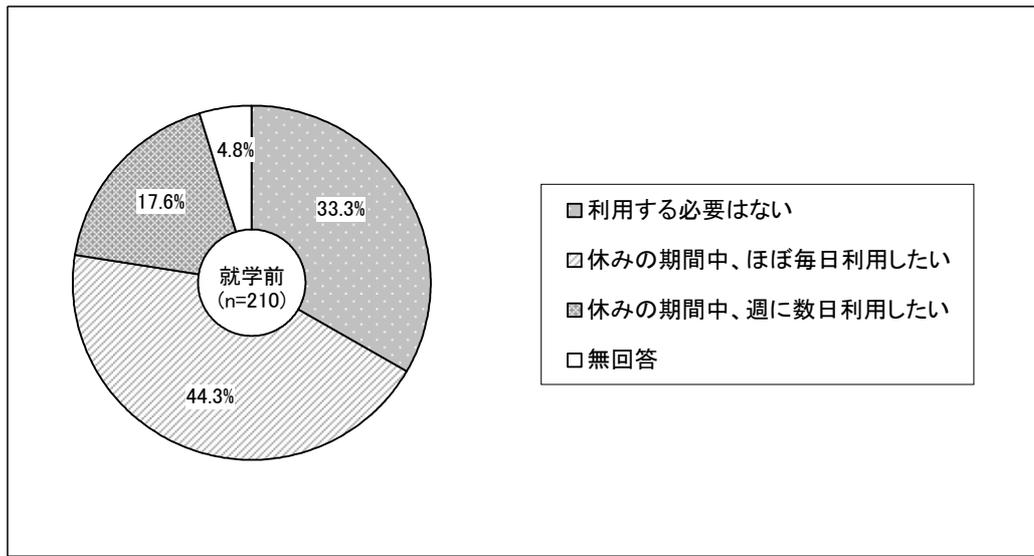


↓ 『幼稚園』 を利用している人のみ

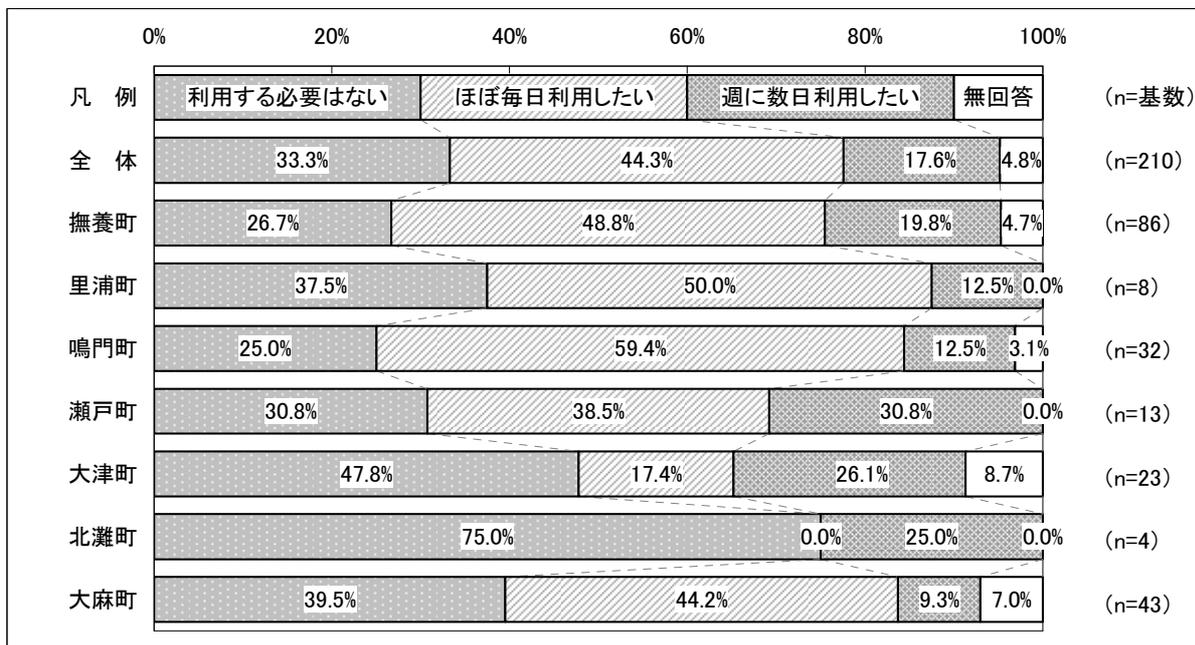
問 2 1 あて名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用を希望しますか。【○は1つだけ】また、希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。※これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

幼稚園利用者のうち、長期休暇中の教育・保育事業の利用希望については、「休みの期間中ほぼ毎日したい」が44.3%ともっとも多く、「利用する必要はない」が33.3%であった。

また、「ほぼ毎日」と「週に数日」を合わせた利用希望は6割（61.9%）を超える。



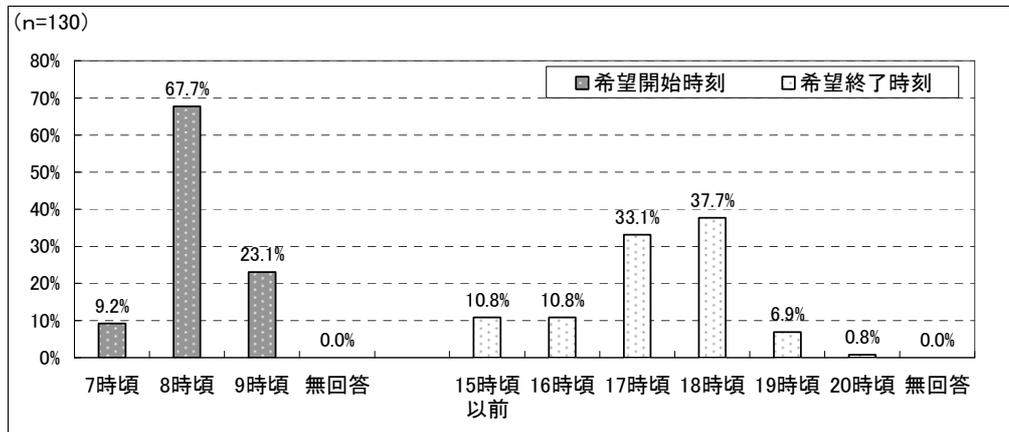
居住地域別にみると、「ほぼ毎日利用したい」がもっとも多いのは、「鳴門町」（59.4%）、次いで「里浦町」（50.0%）、「撫養町」（48.8%）の順で、それらの地域では「週に数日利用したい」と回答した人は2割未満にとどまった。「週に数日利用したい」がもっとも多いのは、「瀬戸町」（30.8%）、次いで「大津町」（26.1%）、「北灘町」（25.0%）の順でいずれも2割以上が希望しており、居住地域によって利用希望の傾向に差があった。



↓『利用したい』と回答した人のみ

◆長期休暇中の教育・保育事業の利用したい時間帯（何時から何時まで）

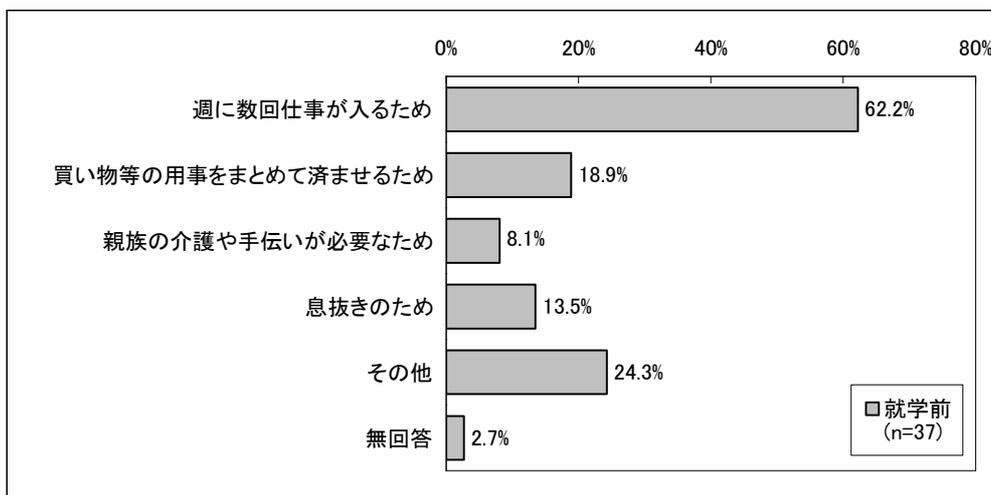
長期休暇中の教育・保育事業の利用したい時間帯については、希望開始時刻は「8 時頃」が 67.7%と最も多く、平均希望開始時刻は 8 時 08 分である。また、希望終了時刻は「18 時台」が 37.7%と最も多く、平均希望終了時刻は 17 時 09 分である。



↓『休みの期間中、週に数日利用したい』と回答した人のみ

問 2 1 - 1 毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。【○はあてはまるものすべて】

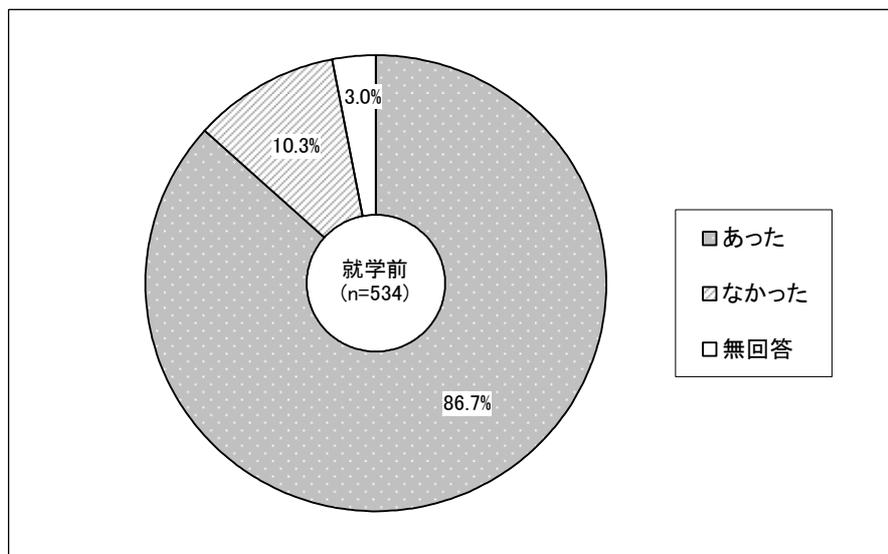
幼稚園利用者が長期休暇中に「週に数日利用したい」理由については、「週に数回仕事が入るため」(62.2%) がもっとも多い。



## 8 病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）

問22 この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで保育所、幼稚園等を休まなければならなかったことはありますか。また、休まなければならなかった場合はその対処方法を選択し、その日数はおおよそ何日かをお答えください。（半日程度の場合も1日とカウントしてください）

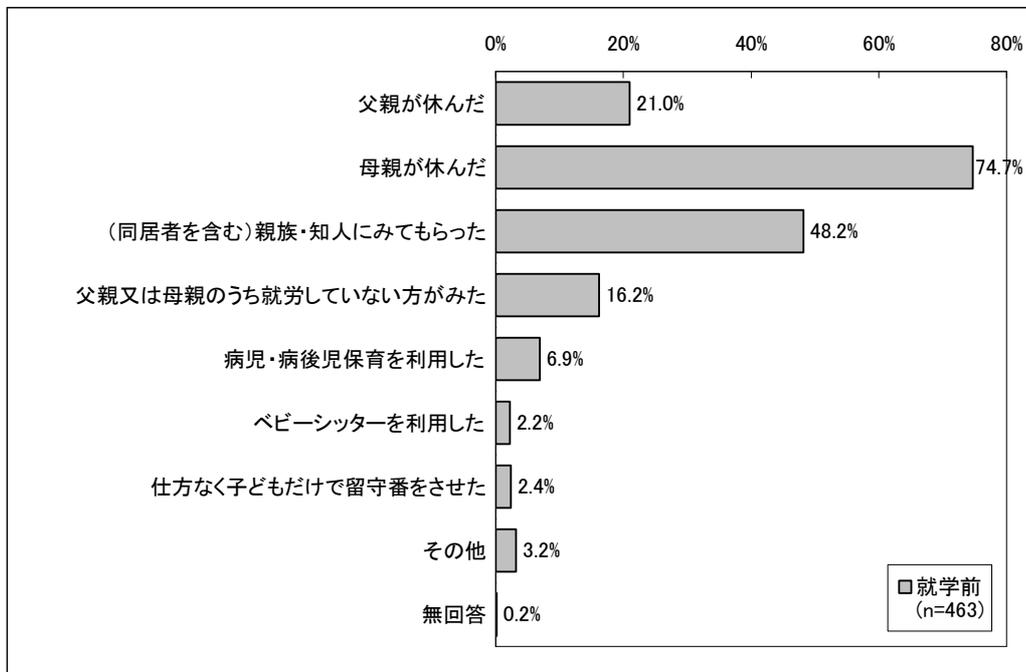
この1年間で、お子さんが病気やケガで保育所、幼稚園等を休まなければならなかったことについては、「あった」と回答した人は86.7%と大半を占めている。



↓『あった』と回答した人のみ

◆休まなければならなかった場合の対処方法【○はあてはまるものすべて】

休まなければならなかった場合の対処方法については、「母親が休んだ」(74.7%)が最も多く、次いで「親族・知人にみてもらった」(48.2%)、「父親が休んだ」(21.0%)である。



また、それぞれの年間延べ日数については、最も回答の多かった「母親が休んだ」の年間平均延べ日数は8.3日となっており、次いで回答の多かった「(同居者を含む)親族・知人に預けた」の年間平均延べ日数は6.8日となっている。

上段：回答数 下段：%	年間平均延べ日数	年間1日	年間2日	年間3~5日	年間6~10日	年間11~20日	年間21~30日	年間31日以上	無回答
父親が休んだ	3.3日 (n=97)	28 28.9	24 24.7	28 28.9	8 8.2	2 2.1	0 0.0	0 0.0	7 7.2
母親が休んだ	8.3日 (n=346)	40 11.6	48 13.9	105 30.3	90 26.0	32 9.2	12 3.5	11 3.2	8 2.3
(同居者を含む)親族・知人に預けた	6.8日 (n=223)	25 11.2	38 17.0	83 37.2	46 20.6	14 6.3	9 4.0	2 0.9	6 2.7
父親又は母親のうち就労していない方が見た	5.7日 (n=75)	11 14.7	13 17.3	24 32.0	15 20.0	3 4.0	2 2.7	0 0.0	7 9.3
病児・病後児保育を利用した	4.6日 (n=32)	5 15.6	3 9.4	10 31.3	5 15.6	1 3.1	0 0.0	0 0.0	8 25.0
ベビーシッターを利用した	2.0日 (n=10)	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 80.0
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	4.0日 (n=11)	2 18.2	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 72.7
その他	9.6日 (n=15)	2 13.3	2 13.3	3 20.0	1 6.7	2 13.3	2 13.3	0 0.0	3 20.0

◆問9で『いずれもない』と回答した人の休まなければならなかった場合の対処方法

【○はあてはまるものすべて】

問9で子どもをみてくれる人について「いずれもない」と回答した人の対処方法については、「母親が休んだ」(77.1%)と回答した人が最も多く、次いで「父親が休んだ」(25.7%)、「父親又は母親のうち就労していない方がみた」(22.9%)の順となっている。

	全体	父親が休んだ	母親が休んだ	人(同居者を含む)にみてもらった	親族・知人	父親又は母親のうち就労していない方がみた	病児・病後児保育を利用した	ベビーシッターを利用した	仕事をさなく子どもだけで留守	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)											
全体	463 100.0	97 21.0	346 74.7	223 48.2	75 16.2	32 6.9	10 2.2	11 2.4	15 3.2	1 0.2	
日常的に親族にみてもらえる	138 100.0	17 12.3	94 68.1	86 62.3	12 8.7	5 3.6	1 0.7	2 1.4	4 2.9	-	
緊急時に親族にみてもらえる	303 100.0	74 24.4	235 77.6	149 49.2	54 17.8	24 7.9	9 3.0	10 3.3	10 3.3	1 0.3	
日常的にみてもらえる友人・知人がいる	11 100.0	2 18.2	8 72.7	5 45.5	2 18.2	-	-	-	-	-	
緊急時にみてもらえる友人・知人がいる	58 100.0	10 17.2	43 74.1	21 36.2	13 22.4	1 1.7	-	1 1.7	1 1.7	-	
いずれもない	35 100.0	9 25.7	27 77.1	1 2.9	8 22.9	4 11.4	-	-	1 2.9	-	
無回答	10 100.0	2 20.0	8 80.0	7 70.0	-	1 10.0	-	-	-	-	

◆問9で『いずれもない』と回答した人の『病児・病後児保育を利用した』日数

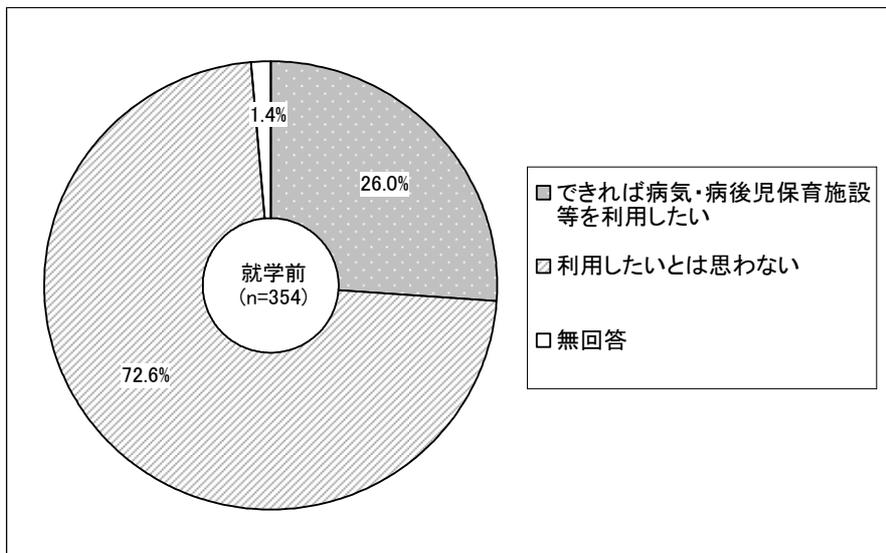
問9で子どもをみてくれる人について「いずれもない」と回答した人の『病児・病後児保育を利用した』日数については、平均年間日数は5.8日(回答者4人)であった。

	全体	年1日	年2日	年3日	年6日	年1日	年2日	年3日	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)									
全体	32 100.0	5 15.6	3 9.4	10 31.3	5 15.6	1 3.1	-	-	8 25.0
日常的に親族にみてもらえる	5 100.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	-	-	-	-
緊急時に親族にみてもらえる	24 100.0	4 16.7	3 12.5	4 16.7	4 16.7	1 4.2	-	-	8 33.3
日常的にみてもらえる友人・知人がいる	-	-	-	-	-	-	-	-	-
緊急時にみてもらえる友人・知人がいる	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-
いずれもない	4 100.0	-	-	3 75.0	1 25.0	-	-	-	-
無回答	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-

↓『父親が休んだ』または『母親が休んだ』と回答した人のみ

問22-1 その際、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と思われましたか。思われた場合はその場合の日数と、望ましい事業形態を、思わなかった場合はその理由をお答えください。  
 ※病児・病後児保育施設等の利用には一日あたり2,000円（昼食代等を除く）の利用者負担と利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

子どもが病気やケガで保育サービスが利用できなかった際の病後児・病児保育の利用意向については、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した人は26.0%、「利用したいとは思わない」と回答した人は72.6%であった。



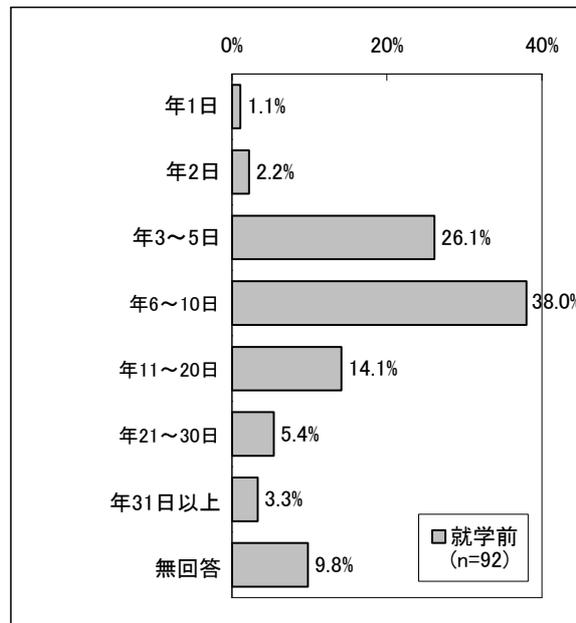
問9で「いずれもない」と回答した人については、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」(55.6%)が「利用したいとは思わない」(44.4%)を11.2ポイント上回った。

	全体	施設等を利用したい	利用したいとは思わない	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)				
全体	354 100.0	92 26.0	257 72.6	5 1.4
日常的に親族にみてもらえる	97 100.0	16 16.5	80 82.5	1 1.0
緊急時に親族にみてもらえる	239 100.0	62 25.9	172 72.0	5 2.1
日常的に友人・知人がいる	9 100.0	1 11.1	8 88.9	-
緊急時に友人・知人がいる	44 100.0	6 13.6	38 86.4	-
いずれもない	27 100.0	15 55.6	12 44.4	-
無回答	8 100.0	2 25.0	6 75.0	-

## ↓ 『できれば病児・病後児保育施設等を利用したい』と回答した人のみ

## ◆希望日数（年間）【数字を記入】

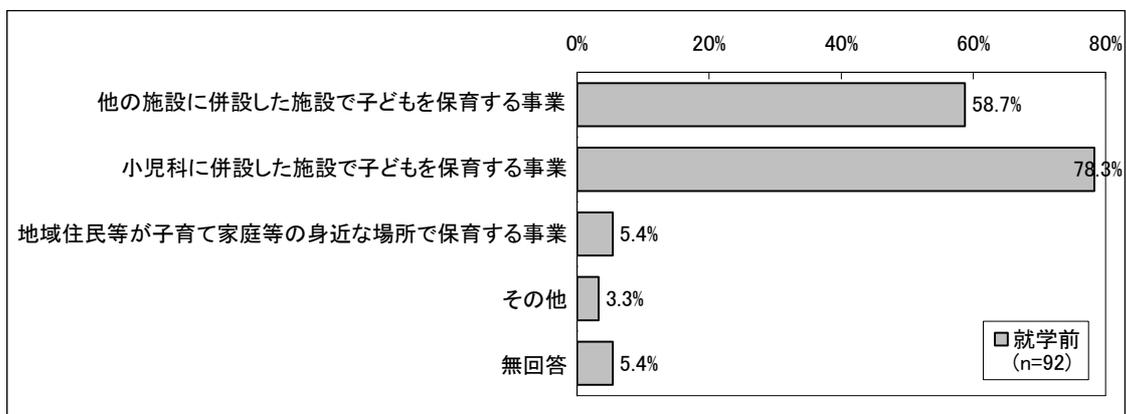
「できれば病児・病後児保育を利用したいと思った」と回答した人の年間の利用希望日数については、「年6～10日」が38.0%と最も多く、次いで「年3～5日」（26.1%）となっており、年間の平均利用希望日数は12.2日であった。



## ↓ 『できれば病児・病後児保育施設等を利用したい』と回答した人のみ

## ◆希望する事業形態【〇はあてはまるものすべて】

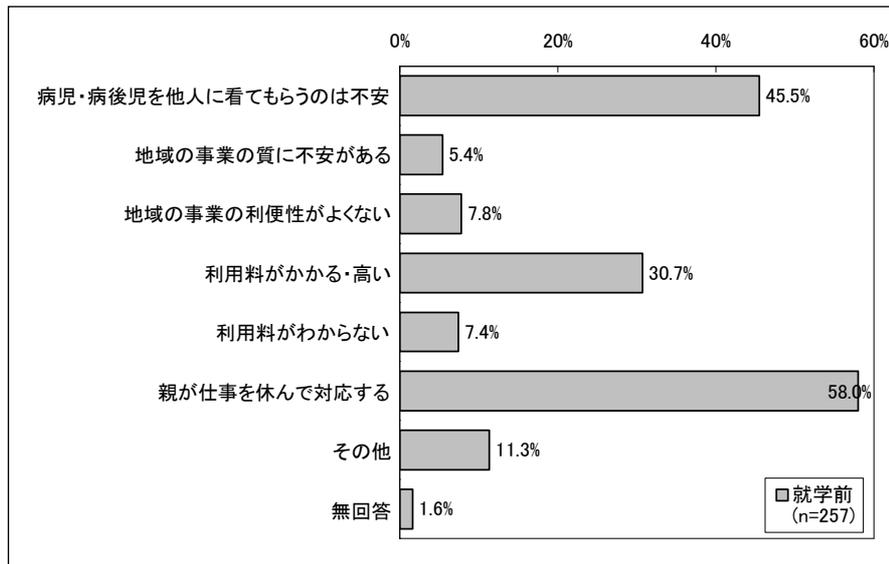
この1年間で、子どもが病気やケガで保育サービスが利用できず、「父親が休んだ」「母親が休んだ」と回答した人のうち、その際に希望する事業形態については、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（78.3%）が最も多く、次いで「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」（58.7%）であった。



↓『利用したいとは思わない』と回答した人のみ

◆利用したいとは思わない理由【〇はあてはまるものすべて】

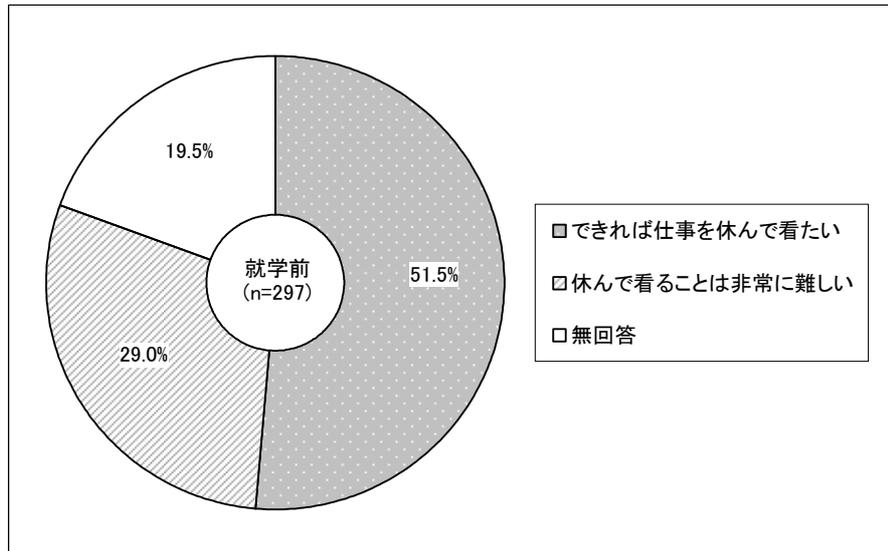
利用したいとは思わない理由としては、「親が仕事を休んで対応する」(58.0%)がもっとも多く、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」の声も45.5%と多かった。「利用料がかかる・高い」という理由も30.7%あった。



## ↓ 『父親が休んだ』 または 『母親が休んだ』 以外を回答した人のみ

問 2 2 - 2 その際「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思いましたか。  
また、その場合の仕事を休んで見たかった日数とその理由をお答えください。

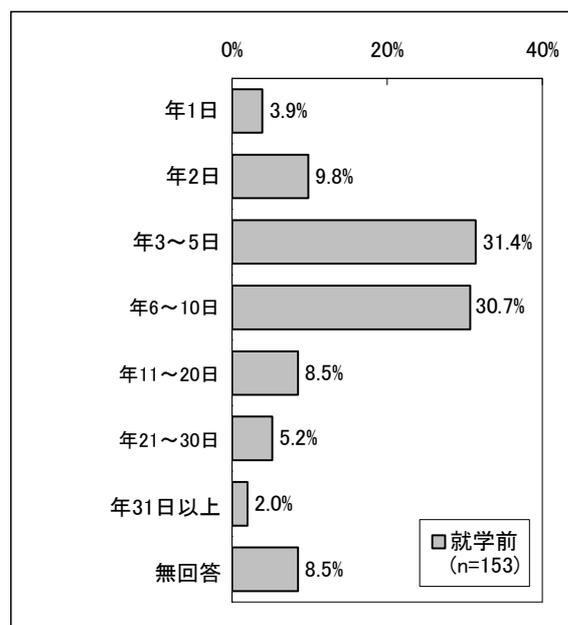
この1年間で、子どもが病気やケガで保育サービスが利用できなかった時に、父親または母親が仕事を休んだ以外の対処方法を取った人のうち、「できれば仕事を休んで看たい」と思った人は5割強、「休んで看ることは非常に難しい」と回答した人は3割弱である。



## ↓ 『できれば仕事を休んで看たい』 と回答した人のみ

## ◆ 仕事を休んで見たかった日数【数字を記入】

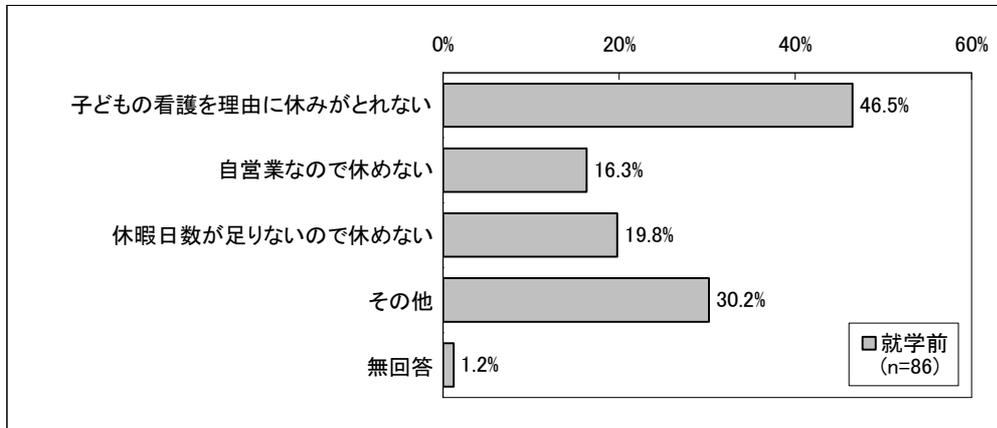
この1年間で、子どもが病気やケガで保育サービスが利用できなかった時に、「できれば仕事を休んで看たい」希望の年間日数については、「年3～5日」(31.4%)が最も多く、次いで「年6～10日」(30.7%)となっている。仕事を休んで看たい平均希望日数は9.0日であった。



↓『休んで見ることは非常に難しい』と回答した人のみ

◆非常に難しい理由【〇はあてはまるものすべて】

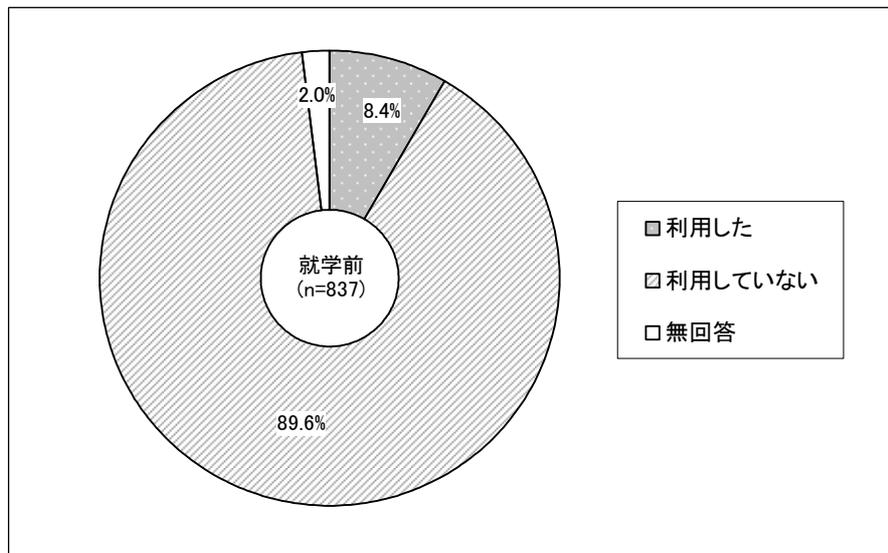
「休んで見ることは非常に難しい」理由については、「子どもの看護を理由に休みがとれない」（46.5%）がもっとも多かった。



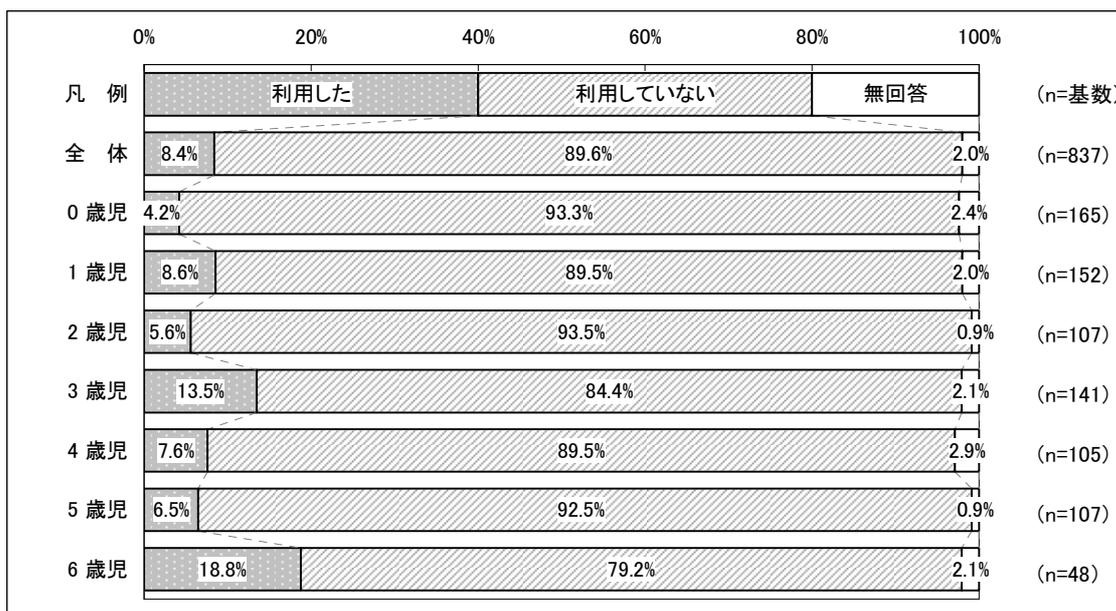
## 9 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問23 この1年間に、あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不特定の就労等の目的（日中の定期的な保育や病気のため以外）で不定期に利用している事業はありますか。また、その日数はおおよそ何日ですか（半日程度の場合も1日とカウントしてください）。

この1年間に、お子さんを不定期に預ける事業については、「利用していない」と回答した人が89.6%と大半を占めている。「利用した」と回答した人（8.4%）は1割に満たなかった。



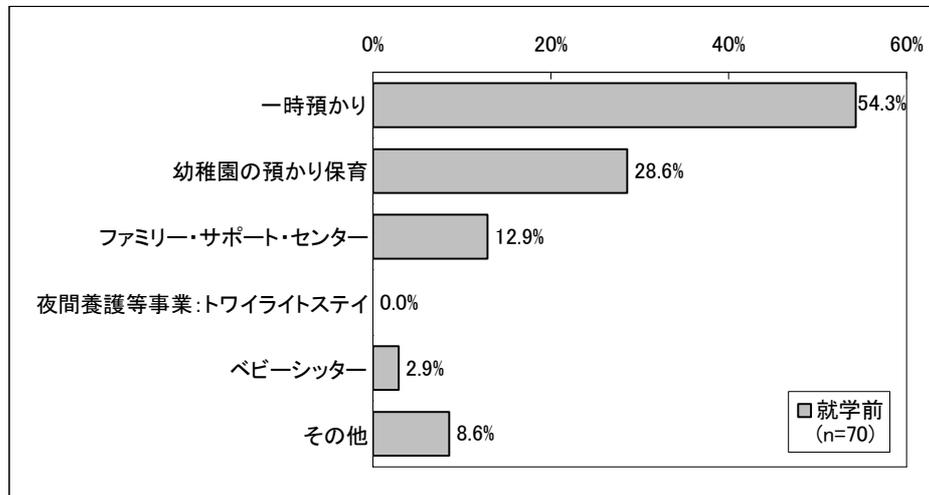
年齢別にみると、「6歳児」（18.8%）がもっとも多く「0歳児」（4.2%）がもっとも少なかったが、その他年齢の利用率にはバラつきがあることから、年齢が大きいほど利用率が高いといったような、利用率と年齢に関連性はあまりない。



↓『利用した』と回答した人のみ

◆不定期に利用している事業【〇はあてはまるものすべて】

不定期に利用している事業については、「一時預かり」と回答した人が 54.3%と最も多く、次いで「幼稚園の預かり保育」(28.6%)となっている。



◆不定期に利用している事業それぞれの年間延べ日数【数字を記入】

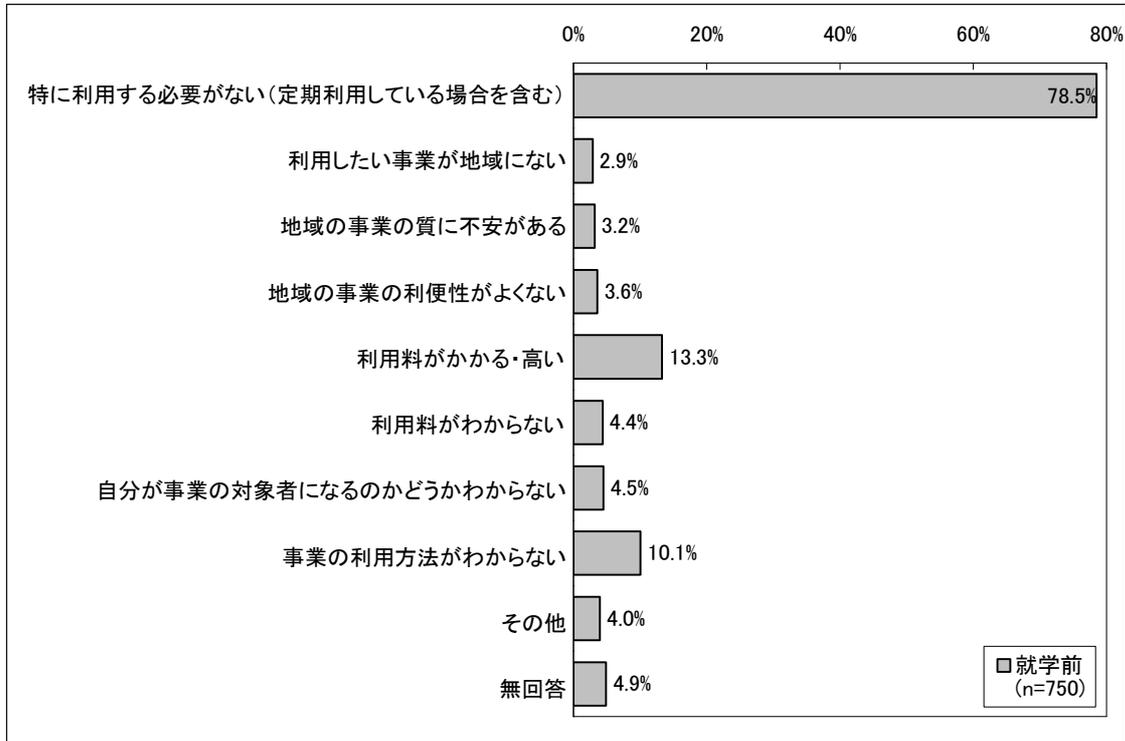
また、不定期に利用している事業それぞれの年間延べ日数については、最も回答の多かった「一時預かり」の年間平均延べ日数は 34.4 日となっており、次いで回答の多かった「幼稚園の預かり保育」の年間平均延べ日数は 143.0 日となっている。

上段：回答数 下段：%	年間平均延べ日数	年間 1日	年間 2日	年間 3~5日	年間 6~10日	年間 11~20日	年間 21~30日	年間 31日以上	無回答
一時預かり (n=38)	34.4日	3 7.9	3 7.9	6 15.8	3 7.9	6 15.8	3 7.9	13 34.2	1 2.6
幼稚園の預かり保育 (n=20)	143.0日	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	1 5.0	13 65.0	4 20.0
ファミリー・サポート・センター (n=9)	1.8日	6 66.7	1 11.1	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
夜間養護等事業 トワイライトステイ	- (-)	-	-	-	-	-	-	-	-
ベビーシッター (n=2)	35.0日	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
その他 (n=6)	32.0日	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	1 16.7	0 0.0	2 33.3	1 16.7

## ↓ 『利用していない』と回答した人のみ

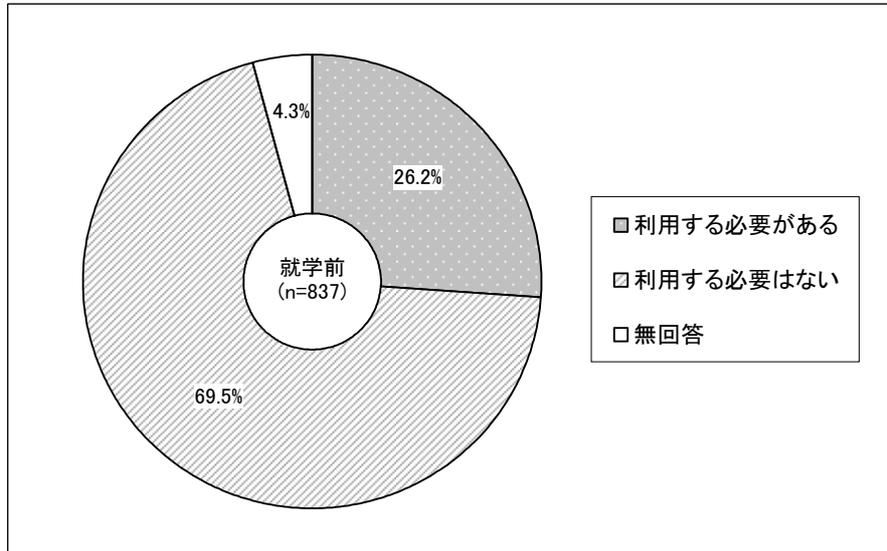
## ◆ 利用していない理由【〇はあてはまるものすべて】

この1年間に子どもを不定期に預ける事業を「利用していない」理由については、「特に利用する必要がない」が78.5%で大半を占めた。その他の理由に「利用料がかかる・高い」(13.3%)や「事業の利用方法がわからない」(10.1%)が1割程度あった。



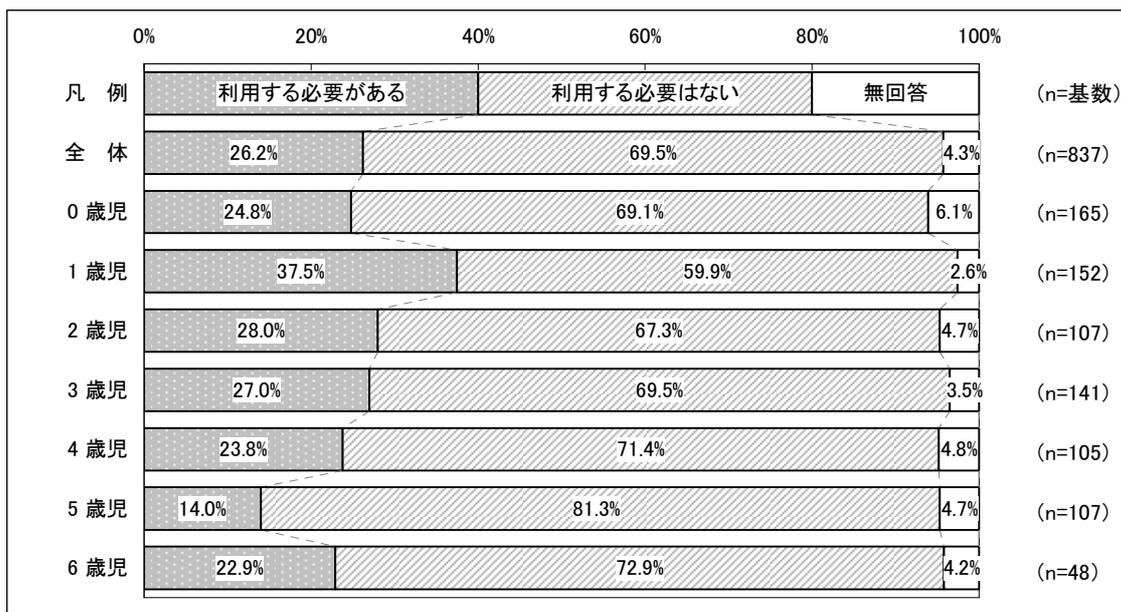
問24 あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で事業を利用する必要があると思いますか。また、その目的は何ですか。必要な日数はおおよそ何日ですか。※事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で子どもを預ける事業の利用する必要性については、「利用する必要はない」と回答した人が約7割で「利用する必要がある」と回答した人は3割未満であった。



年齢別でみると、利用する必要がある人については、「1歳児」(37.5%)がもっとも多く、平均を10ポイント上回る。一方で利用する必要がない人については、「5歳児」がもっとも高く、平均を10ポイント下回る結果となった。

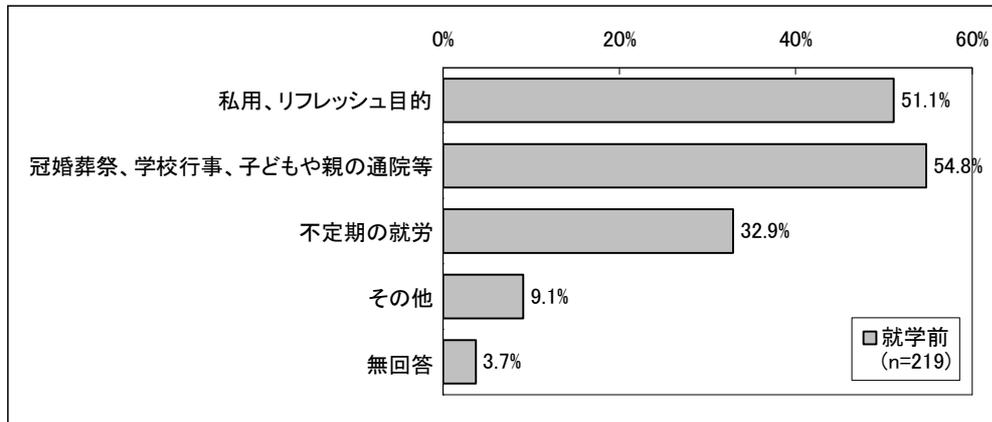
「1歳児」と「5歳児」を除く他の年齢においては、利用希望に大差はなかった。



## ↓ 『利用する必要がある』と回答した人のみ

## ◆希望する利用目的【○はあてはまるものすべて】

希望する利用目的について、最も多かったのが「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」のやむを得ない事情で 54.8%であるが、次いで多かった「私用、リフレッシュ目的」(51.1%) と僅差である。



## ◆希望する利用目的それぞれの年間延べ日数【数字を記入】

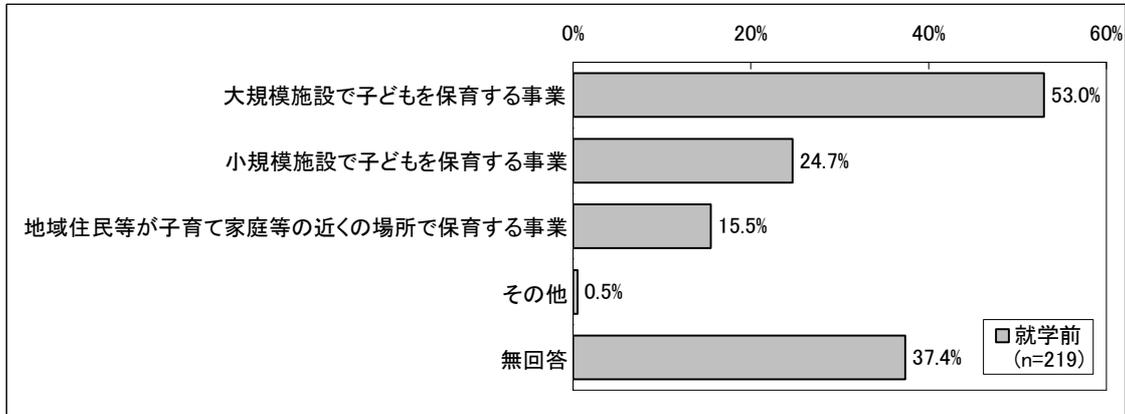
希望する利用目的それぞれの年間延べ日数については、最も回答の多かった「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」の年間平均延べ日数は 7.8 日となっており、次いで回答の多かった「私用、リフレッシュ目的」の年間平均延べ日数は 20.2 日となっている。

上段：回答数 下段：%	年間平均 延べ日数	年間 1日	年間 2日	年間 3~5日	年間 6~10日	年間 11~20日	年間 21~30日	年間 31日以上	無回答
私用、リフレッシュ目的	20.2日 (n=112)	5 4.5	4 3.6	18 16.1	18 16.1	21 18.8	7 6.3	16 14.3	23 20.5
冠婚葬祭、学校行事、 子どもや親の通院等	7.8日 (n=120)	12 10.0	8 6.7	36 30.0	20 16.7	15 12.5	4 3.3	1 0.8	24 20.0
不定期の就労	32.0日 (n=72)	0 0.0	1 1.4	17 23.6	11 15.3	5 6.9	8 11.1	16 22.2	14 19.4
その他	22.7日 (n=20)	0 0.0	2 10.0	1 5.0	5 25.0	4 20.0	1 5.0	3 15.0	4 20.0

↓『利用する必要がある』と回答した人のみ

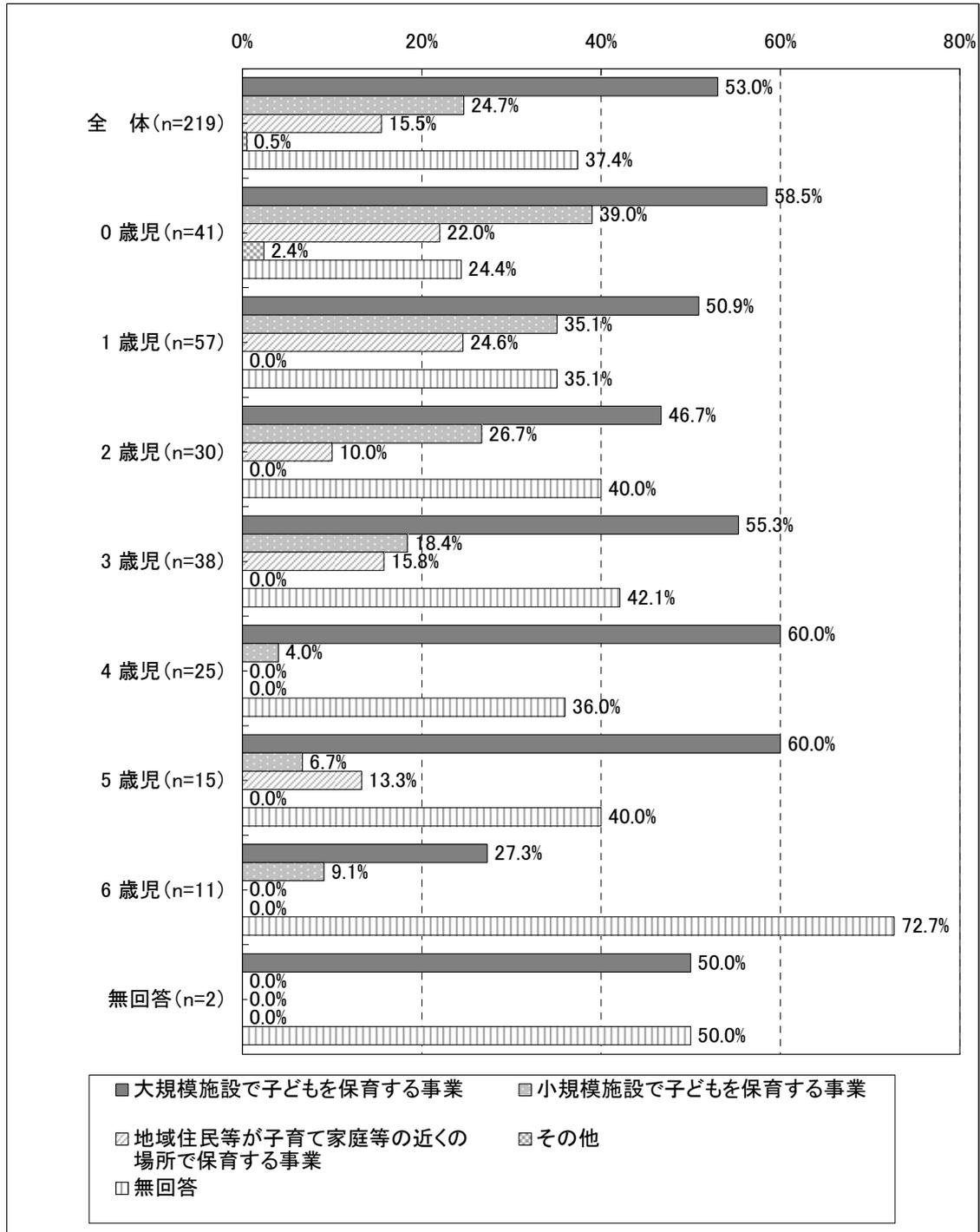
◆希望する事業形態【〇はあてはまるものすべて】

希望する事業形態については、最も多かったのが「大規模施設で子どもを保育する事業」(53.0%)であった。



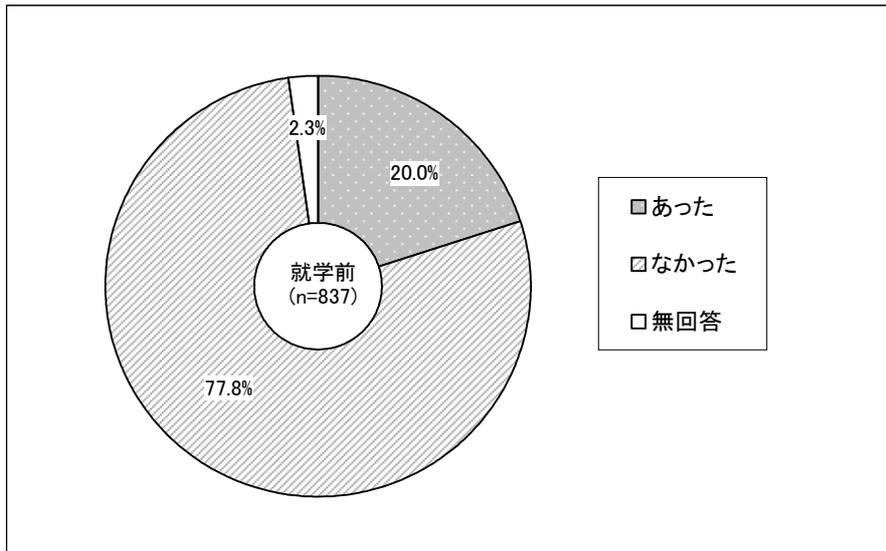
## ◆ 年齢別

希望する事業形態について年齢別にみると、回答の多かった「大規模施設で子どもを保育する事業」では『4歳児』『5歳児』の割合が高く、次いで多かった「小規模施設で子どもを保育する事業」では『0歳児』『1歳児』『2歳児』の割合が高い。



問25 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて名のお子さんを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。また、あった場合、その対処方法は何ですか。その日数はおおよそ何日ですか。

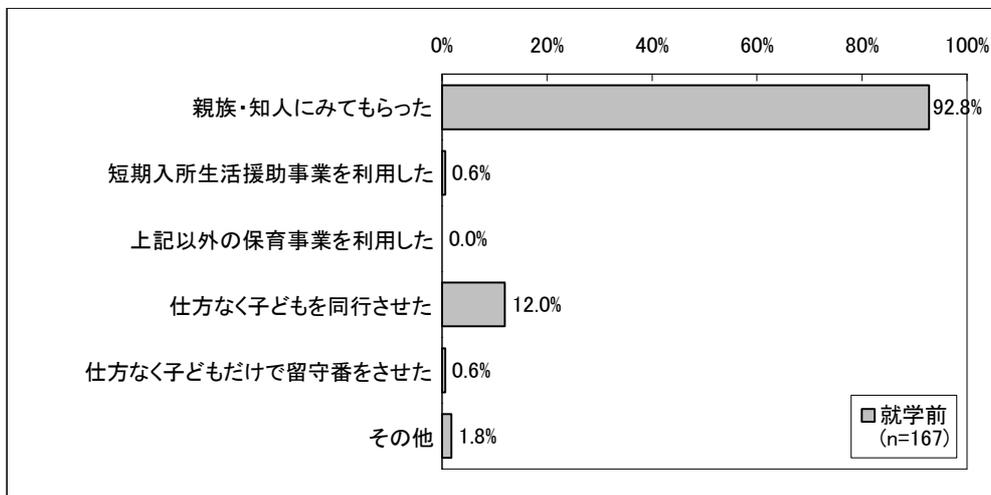
この1年間に、お子さんを泊りがけで家族以外に預けなければならなかったことについては、「なかった」（77.8%）が8割弱を占めており、「あった」（20.0%）を57ポイント上回る結果となっている。



↓ 『あった』と回答した人のみ

◆ 1年間の対処方法【○はあてはまるものすべて】

子どもを泊りがけで家族以外に預けた場合の対処方法については、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が92.8%と大半を占め最も多く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」は12.0%にとどまっております、ほとんどの人が身近な人に預けるか、もしくは保護者自身が看ている結果が得られた。事業を利用したと回答した人は1名であった。



## ◆子どもを泊りがけで家族以外に預けた場合の対処方法それぞれの年間延べ日数【数字を記入】

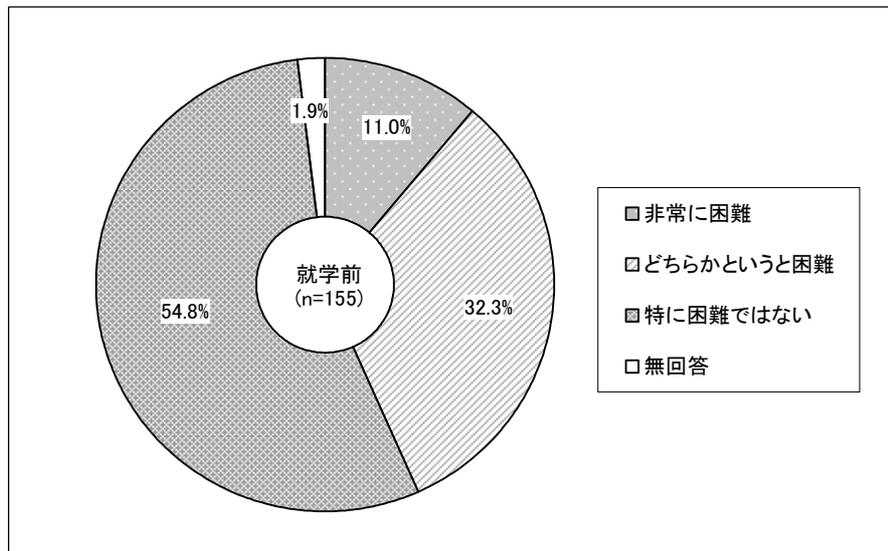
子どもを泊りがけで家族以外に預けた場合の対処方法それぞれの年間延べ日数については、最も回答の多かった「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」の年間平均延べ日数は10.0日となっており、次いで回答の多かった「仕方なく子どもを同行させた」の年間平均延べ日数は2.4日となっている。

上段：回答数 下段：%	年間平均 延べ日数	年間 1日	年間 2日	年間 3~5日	年間 6~10日	年間 11~20日	年間 21~30日	年間 31日以上	無回答
(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった	10.0日 (n=155)	37 23.9	21 13.5	37 23.9	25 16.1	10 6.5	6 3.9	10 6.5	9 5.8
短期入所生活援助事業を 利用した	7.0日 (n=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
短期入所生活援助事業以 外の保育事業を利用した	- (-)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
仕方なく子どもを 同行させた	2.4日 (n=20)	7 35.0	4 20.0	4 20.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 20.0
仕方なく子どもだけで 留守番をさせた	1.0日 (n=1)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	7.7日 (n=3)	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0

↓『(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった』と回答した人のみ

問25-1 その場合の困難度はどの程度でしたか。【〇は1つだけ】

子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならなかった時の対処方法として、親族や知人にみてもらった場合の困難度については、「特に困難ではない」(54.8%)がもっとも多くなっているものの、「非常に困難」(11.0%)、「どちらかという困難」(32.3%)を合わせると4割以上の方が親族や知人に預けることについて困難であるという結果となっている。

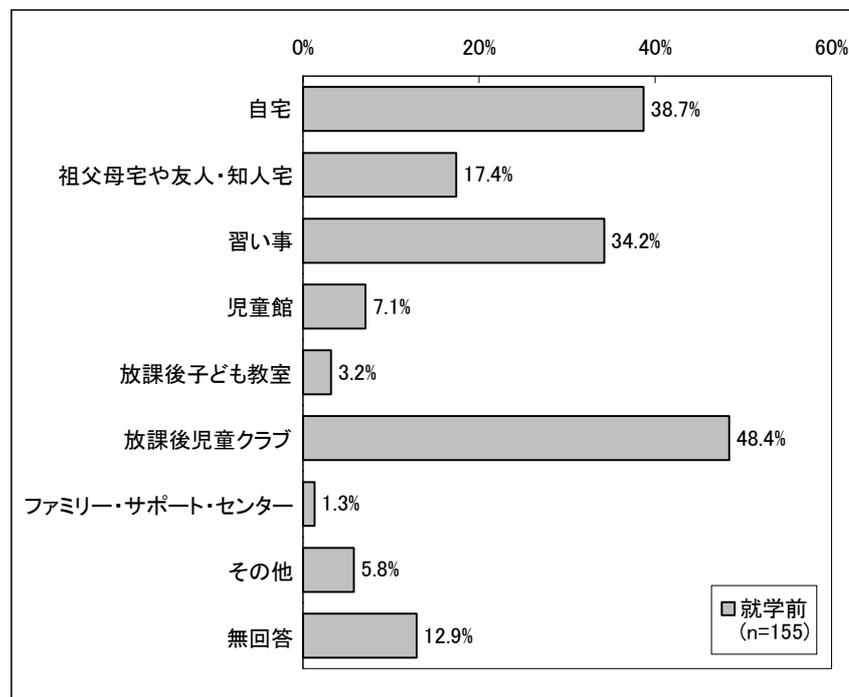


## 10 小学校就学後の放課後の過ごし方について

問 26～29 は、来年度就学予定の児童を持つ方のみ【無回答を除いた有効回答のみの集計】

問 26 あて名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。【○はあてはまるものすべて】また、希望する週あたり日数は何日ですか。【数字を記入】  
「放課後児童クラブ」の場合は、利用を希望する時間もご記入ください。

小学校低学年（1～3年生）のうちに放課後に過ごさせたい場所については、「放課後児童クラブ」が48.4%と半数近く占め、次いで「自宅」（38.7%）、「習い事」（34.2%）の順となっている。

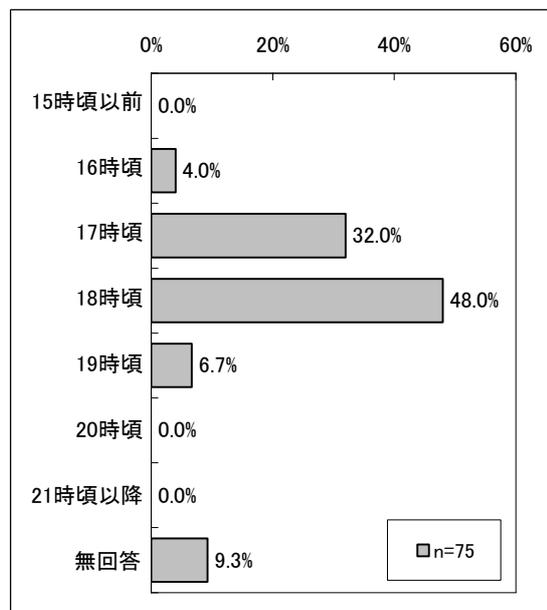


◆小学校低学年に放課後の過ごさせたい場所それぞれの週当たりの希望日数【数字を記入】

小学校低学年（1～3年生）のうちに放課後に過ごさせたい場所それぞれの週当たりの希望日数については、最も回答の多かった「放課後児童クラブ」の週平均希望日数は週4.8日となっており、次いで回答の多かった「自宅」の週平均希望日数は週3.4日、「習い事」の週平均希望日数は週2.2日となっている。

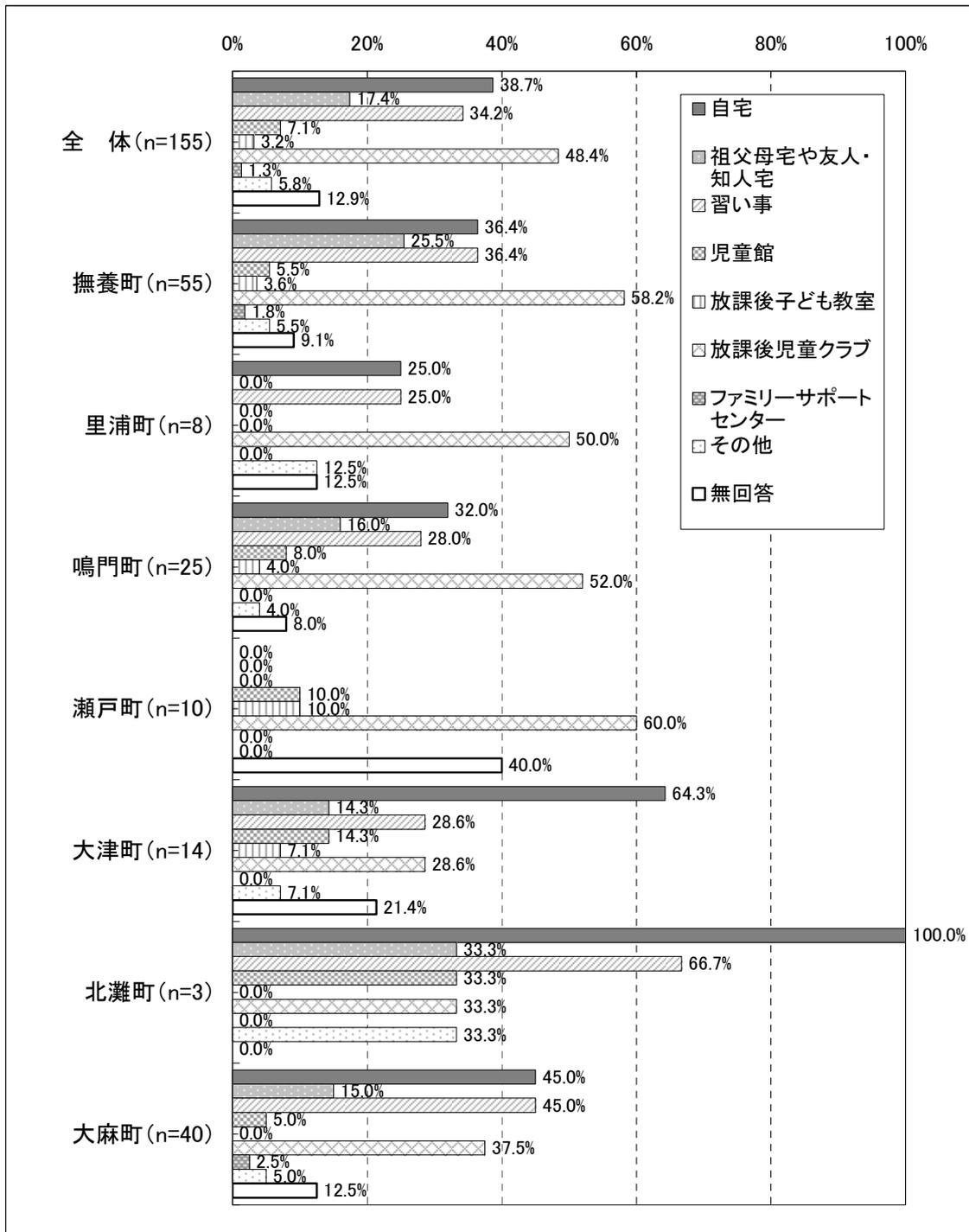
上段：回答数 下段：%	週平均 希望日数	週 1日	週 2日	週 3日	週 4日	週 5日	週 6日	週 7日	無回答
自宅 (n=60)	3.4日	6 10.0	9 15.0	21 35.0	2 3.3	18 30.0	1 1.7	1 1.7	2 3.3
祖父母宅や友人・知人宅 (n=27)	2.2日	12 44.4	5 18.5	2 7.4	1 3.7	5 18.5	0 0.0	0 0.0	2 7.4
習い事 (n=53)	2.2日	13 24.5	25 47.2	9 17.0	3 5.7	3 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
児童館 (n=11)	4.6日	0 0.0	1 9.1	1 9.1	0 0.0	7 63.6	1 9.1	0 0.0	1 9.1
放課後子ども教室 (n=5)	3.3日	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
放課後児童クラブ (n=75)	4.8日	0 0.0	1 1.3	7 9.3	3 4.0	49 65.3	8 10.7	0 0.0	7 9.3
ファミリーサポート センター (n=2)	1.0日	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
その他 (n=9)	2.1日	1 11.1	3 33.3	4 44.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1

また、放課後児童クラブの利用を希望する時間については、「18時まで」が48.0%と最も多く、次いで「17時まで」(32.0%)となっており、平均利用希望時間は17時38分となっている。



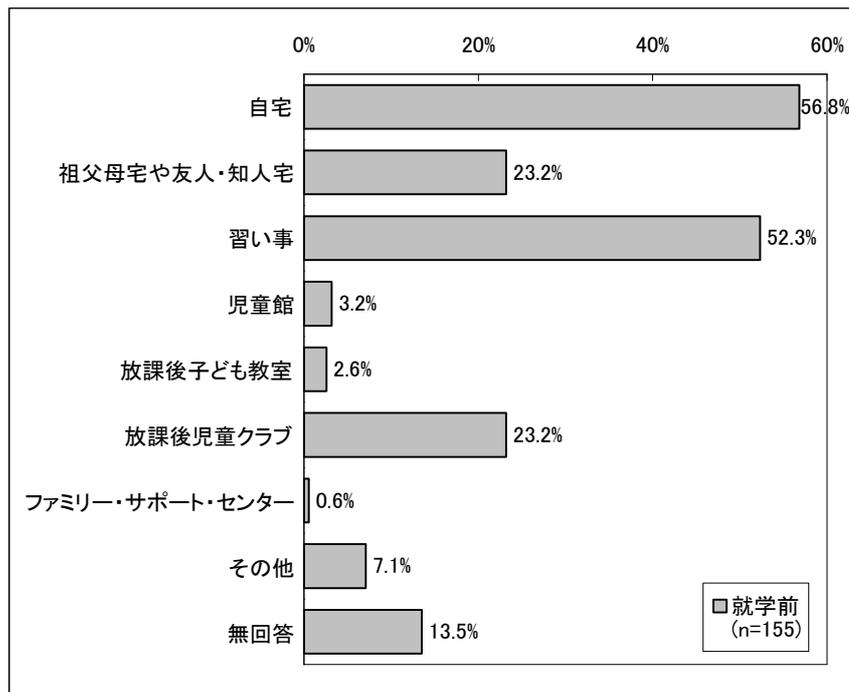
◆居住地区別（小学校低学年に放課後の過ごさせたい場所）【○はあてはまるものすべて】

小学校低学年（1～3年生）のうちに放課後に過ごさせたい場所について、居住地区別にみると、大麻町では『自宅』『習い事』がともに45.0%で最も多くなっており、その他の地区（撫養町、里浦町、鳴門町、瀬戸町、大津町、北灘町）では『放課後児童クラブ』が最も多くなっている。



問27 あて名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】また、希望する週あたり日数は何日ですか。【数字を記入】  
 「放課後児童クラブ」の場合は、利用を希望する時間もご記入ください。

小学校高学年（4～6年生）になったら放課後に過ごさせたい場所については、「自宅」が56.8%と半数以上を占め、次いで「習い事」（52.3%）、「祖父母宅や友人・知人宅」「放課後児童クラブ」（ともに23.2%）の順となっている。

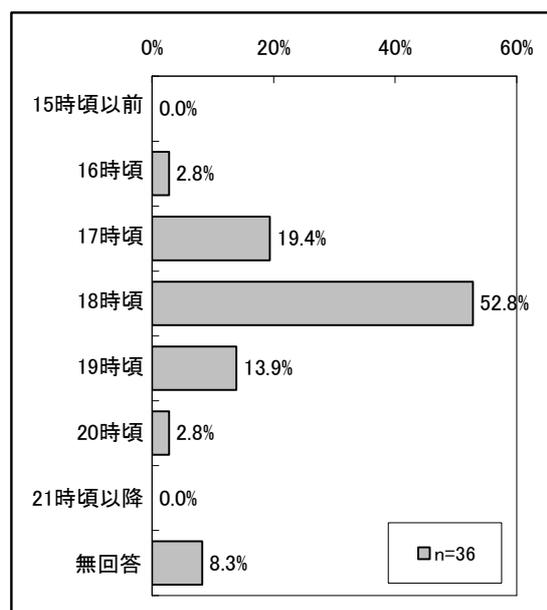


## ◆小学校高学年に放課後の過ごさせたい場所それぞれの週当たりの希望日数【数字を記入】

小学校高学年（4～6年生）になったら放課後に過ごさせたい場所それぞれの週当たりの希望日数については、最も回答の多かった「自宅」の週平均希望日数は週 3.6 日となっており、次いで回答の多かった「習い事」の週平均希望日数は週 2.6 日、「祖父母宅や友人・知人宅」の週平均希望日数は週 2.6 日、「放課後児童クラブ」の週平均希望日数は週 3.9 日となっている。

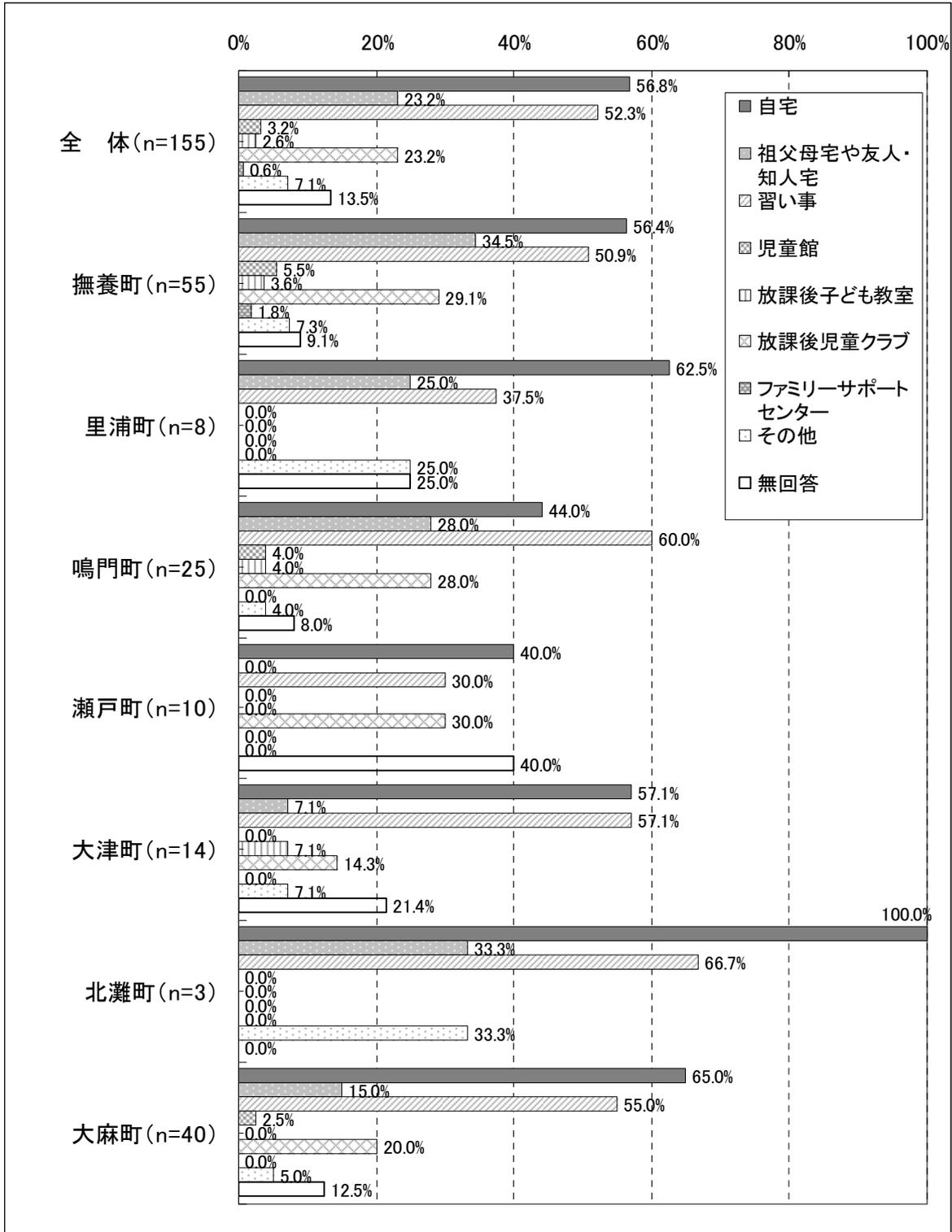
上段：回答数 下段：%	週平均 希望日数	週 1日	週 2日	週 3日	週 4日	週 5日	週 6日	週 7日	無回答
自宅	3.6日 (n=88)	10 11.4	13 14.8	17 19.3	7 8.0	33 37.5	1 1.1	2 2.3	5 5.7
祖父母宅や友人・知人宅	2.6日 (n=36)	10 27.8	8 22.2	5 13.9	2 5.6	8 22.2	0 0.0	0 0.0	3 8.3
習い事	2.6日 (n=81)	12 14.8	30 37.0	22 27.2	3 3.7	9 11.1	1 1.2	0 0.0	4 4.9
児童館	3.6日 (n=5)	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
放課後子ども教室	4.3日 (n=4)	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
放課後児童クラブ	3.9日 (n=36)	2 5.6	6 16.7	5 13.9	1 2.8	17 47.2	2 5.6	0 0.0	3 8.3
ファミリーサポート センター	- (n=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
その他	1.8日 (n=11)	3 27.3	4 36.4	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1

また、放課後児童クラブの利用を希望する時間については、「18時まで」が 52.8%と最も多く、次いで「17時まで」(19.4%)となっており、平均利用希望時間は 17 時 56 分となっている。



◆居住地区別（小学校高学年に放課後の過ごさせたい場所）【○はあてはまるものすべて】

小学校高学年（4～6年生）になったら放課後に過ごさせたい場所について、居住地区別にみると、鳴門町（60.0%）および大津町（57.1%）では『習い事』が最も多くなっており、その他の地区（撫養町、里浦町、瀬戸町、北灘町、大麻町）では『自宅』が最も多くなって

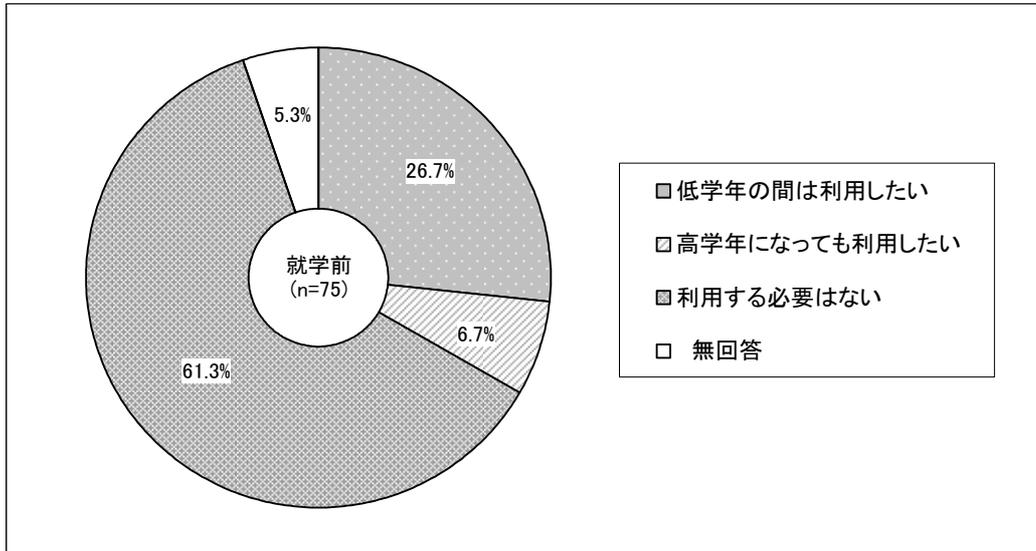


↓ 小学校就学後に『放課後児童クラブ』で過ごさせたいと回答した人のみ

問 2 8 あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。【〇は1つだけ】

(1) 土曜日

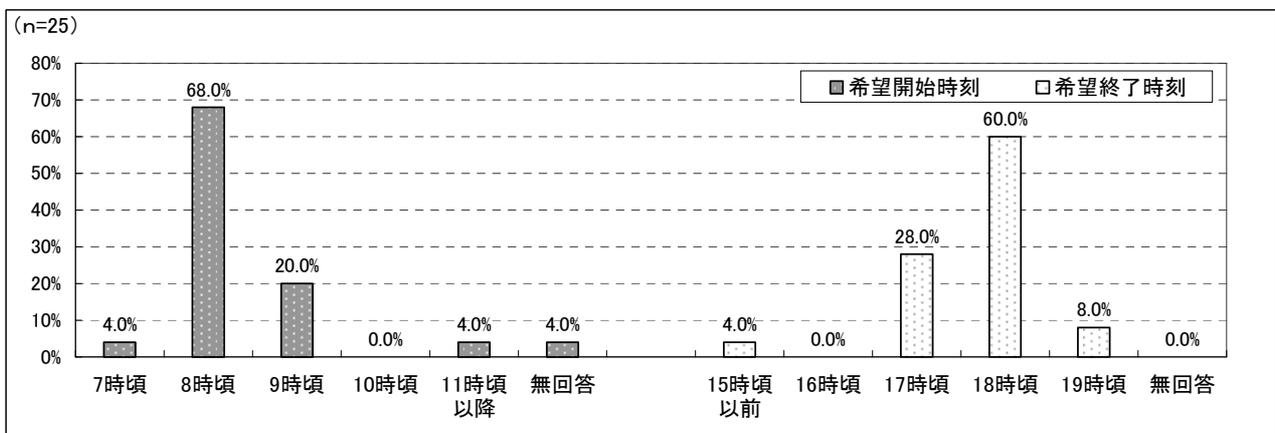
小学校入学以降の土曜日の放課後児童クラブの利用意向については、「利用する必要はない」が61.3%と6割を超えており、「低学年の間」(26.7%)と「高学年になっても」(6.7%)を合わせた『利用したい』(33.4%)を27.9ポイント上回る結果となっている。



↓ 『利用したい』と回答した人のみ

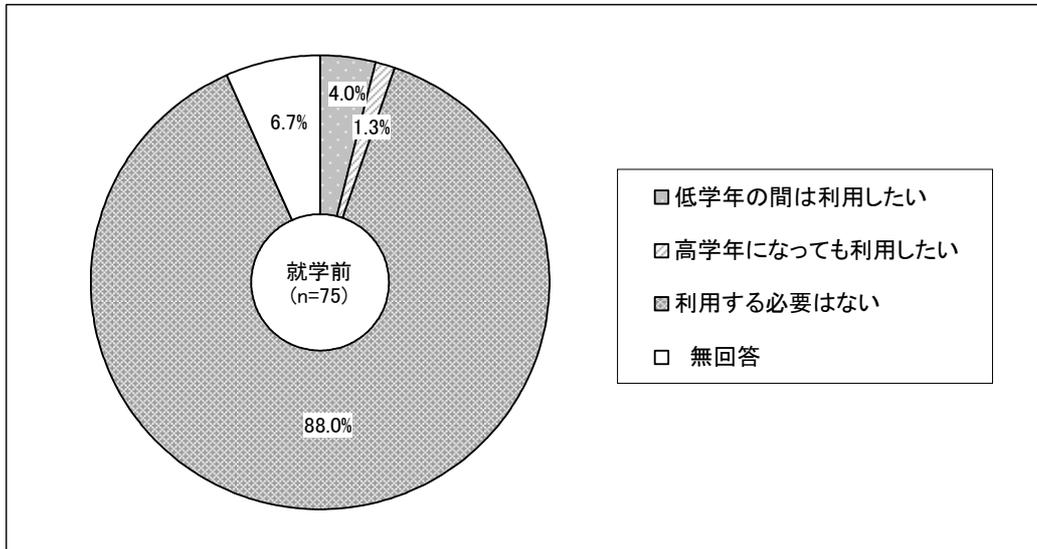
◆ 土曜日の放課後児童クラブの利用したい時間帯 (何時から何時まで)

土曜日の放課後児童クラブの利用したい時間帯については、希望開始時刻は「8 時頃」が68.0%と最も多く、平均希望開始時刻は8時28分である。また、希望終了時刻は「18 時頃」が60.0%と最も多く、平均希望終了時刻は17時34分である。



(2) 日曜・祝日

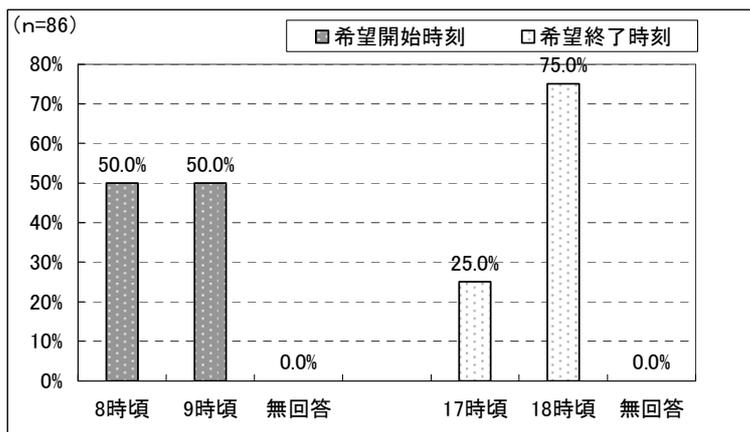
小学校入学以降の日曜・祝日の放課後児童クラブの利用意向については、「利用する必要はない」が 88.0%と 9 割近く、「低学年の間」(4.0%)と「高学年になっても」(1.3%)を合わせた『利用したい』(5.3%)を大幅に上回る結果となっている。



↓ 『利用したい』 と回答した人のみ

◆ 日曜・祝日の放課後児童クラブの利用したい時間帯 (何時から何時まで)

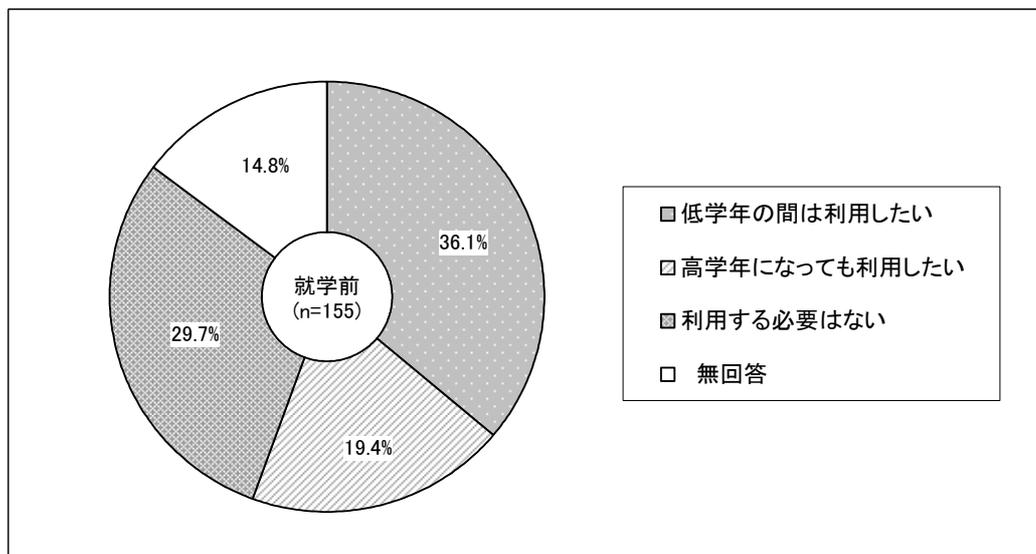
日曜・祝日の放課後児童クラブの利用したい時間帯については、希望開始時刻は「8 時頃」「9 時頃」が 50.0%と最も多く、平均希望開始時刻は 8 時 30 分である。また、希望終了時刻は「18 時頃」が 75.0%と最も多く、平均希望終了時刻は 17 時 45 分である。



↓ 問 29 はあて名のお子さんが 5 歳以上の方全員におうかがいします。

問 29 あて名のお子さんについて、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。【○は 1 つだけ】また、希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。【数字を記入】※これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

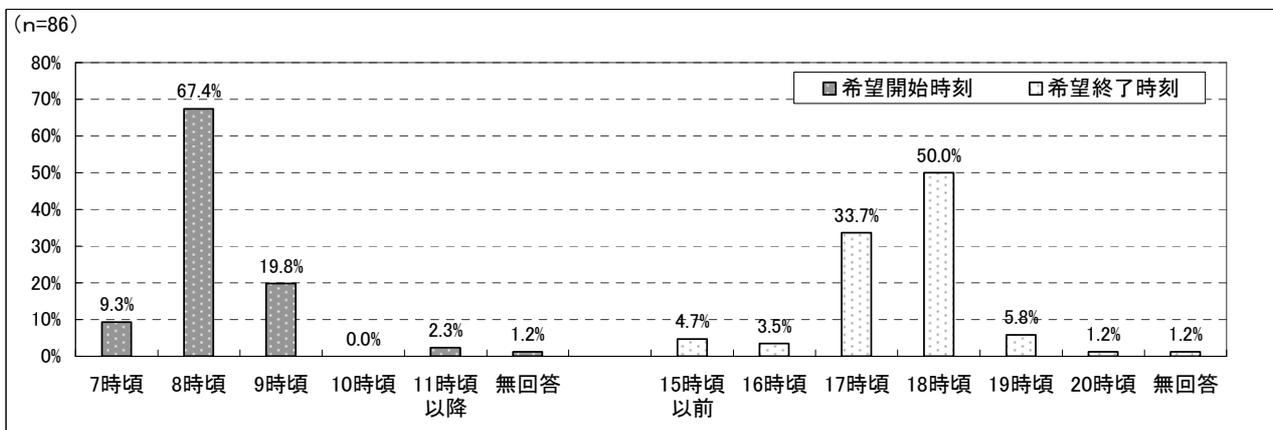
小学校入学以降の長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望については、「低学年の間は利用したい」(36.1%) がもっとも多く、「高学年になっても利用したい」(19.4%) を合わせた『利用したい』は 55.5% となっており、「利用する必要はない」を 25.8 ポイント上回る結果となっている。



↓ 『利用したい』と回答した人のみ

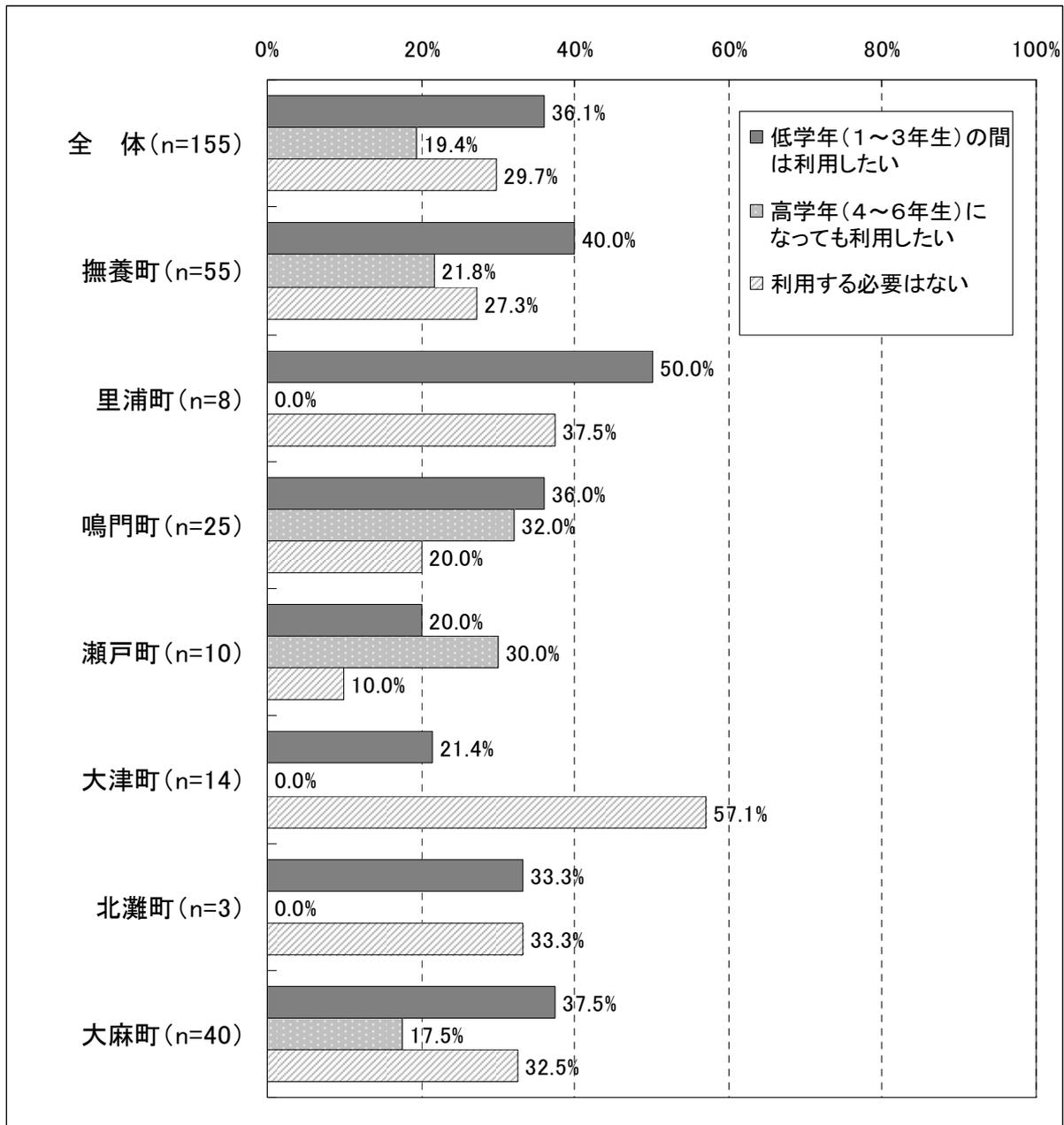
◆ 長期休暇中の放課後児童クラブの利用したい時間帯 (何時から何時まで)

長期休暇中の放課後児童クラブの利用したい時間帯については、希望開始時刻は「8 時頃」が 67.4% と最も多く、平均希望開始時刻は 8 時 16 分 である。また、希望終了時刻は「18 時頃」が 50.0% と最も多く、平均希望終了時刻は 17 時 31 分 である。



◆居住地区別（長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望）【○はあてはまるものすべて】

小学校入学以降の長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望について、居住地区別にみると、大津町では『利用する必要はない』（57.1%）、瀬戸町では『高学年（4～6年生）になっても利用したい』（30.0%）、その他の地区（撫養町、里浦町、鳴門町、北灘町、大麻町）では『低学年（1～3年生）の間は利用したい』が最も多くなっている。



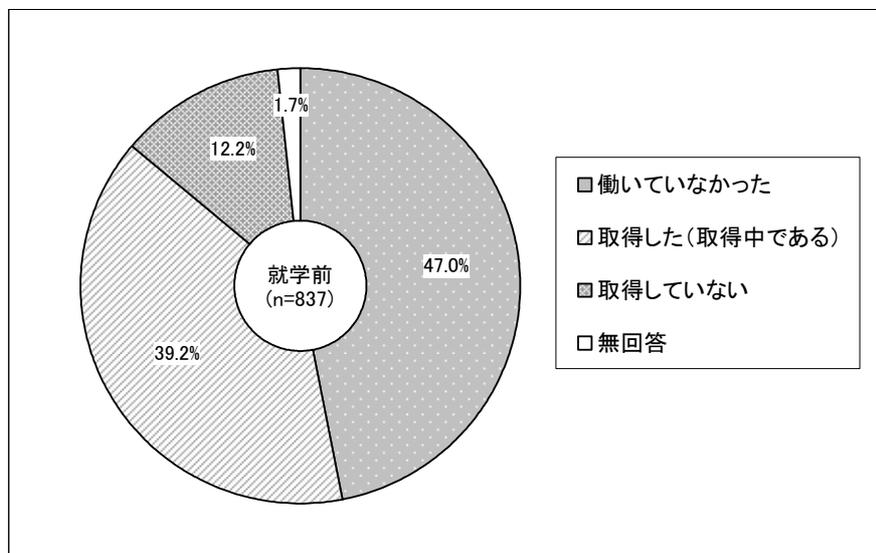
## 1 1 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

問30 あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについてお答えください。また、取得していない方はその理由をお答えください。

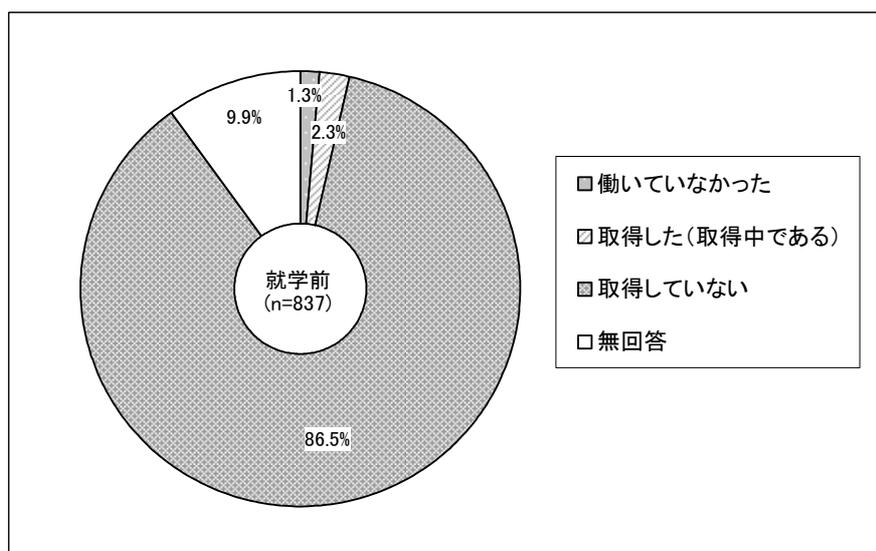
育児休業の取得状況については、母親はお子さんが生まれた時に「働いていなかった」が47.0%でもっとも多く、父親は「取得していない」が86.5%でもっとも多い。

また、「取得した（取得中である）」と回答した人は、母親が4割（39.2%）に対し、父親は1割に満たず、わずか2.3%にとどまった。

### ◆母親の育児休業の取得状況【〇は1つだけ】



### ◆父親の育児休業の取得状況【〇は1つだけ】



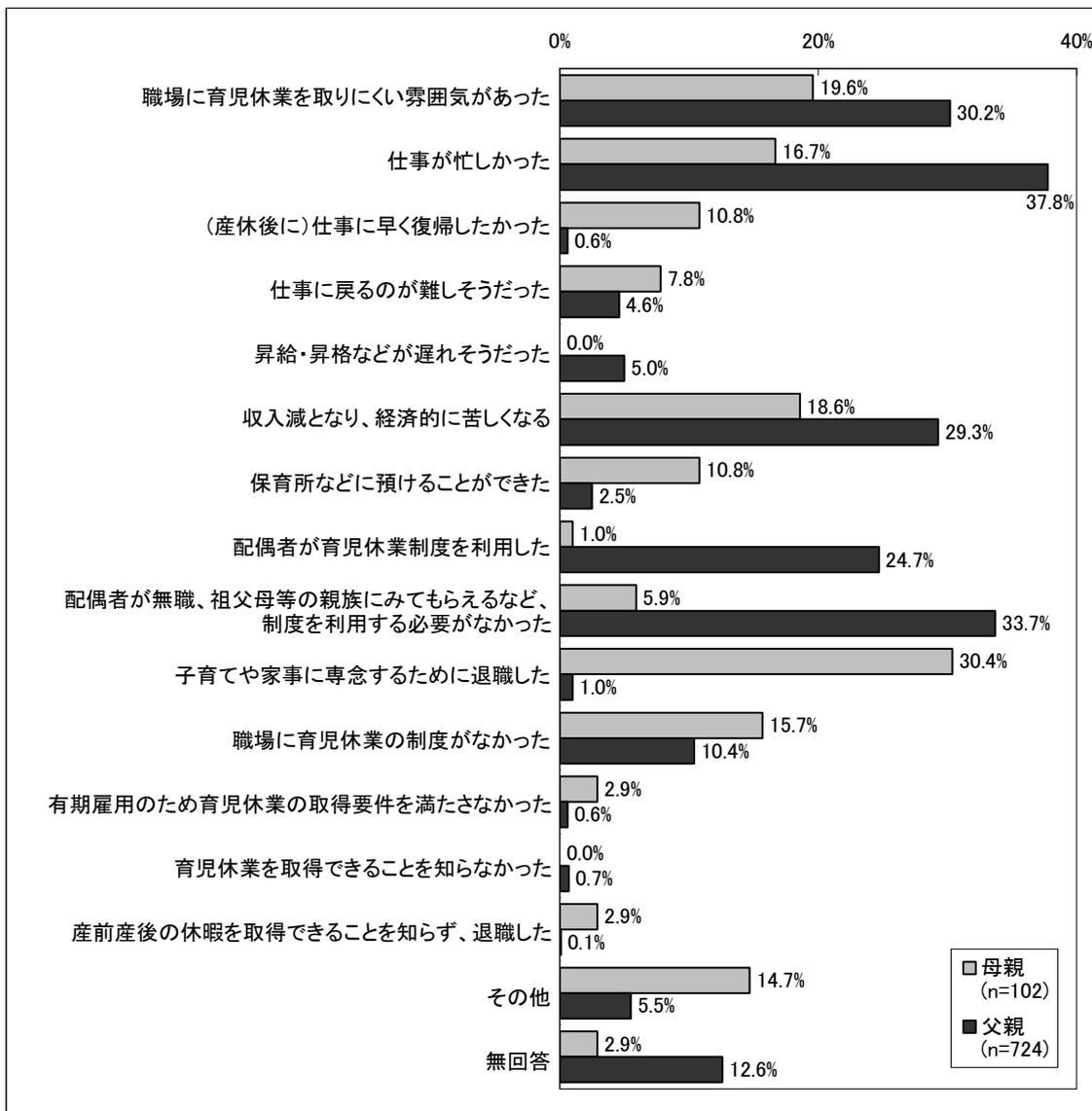
↓問 30 で『取得していない』と回答した人のみ

◆育児休業を取得していない理由【〇はあてはまるものすべて】

育児休業を「取得していない」理由については、回答の多い順では、母親は「子育てや家事に専念するために退職した」(30.4%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(19.6%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(18.6%)の順となっている。

一方、父親は「仕事が忙しかった」(37.8%)、「配偶者や親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(33.7%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(30.2%)の順となっている。

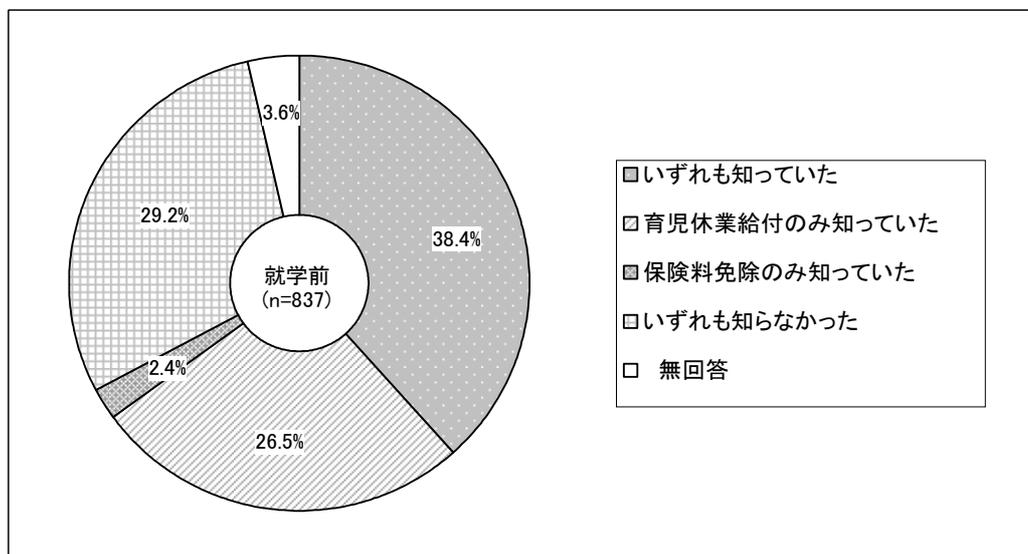
母親、父親の共通項目として上位に「職場に取りにくい雰囲気があった」があることや、「職場に育児休業の制度がなかった」の項目も母親、父親共に10%以上超えるなど、職場環境に起因する回答が目立った。



問30-1 子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6カ月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存知ですか。 【〇は1つだけ】

育児休業給付の仕組みや保険料免除については、「いずれも知っていた」（38.4%）と回答した人が4割近く占めているが、「いずれも知らなかった」（29.2%）と回答した人が3割いた。

また、「保険料免除のみ知っていた」と回答した人は2.4%と、「育児休業給付のみ知っていた」人の10分の1以下であった。



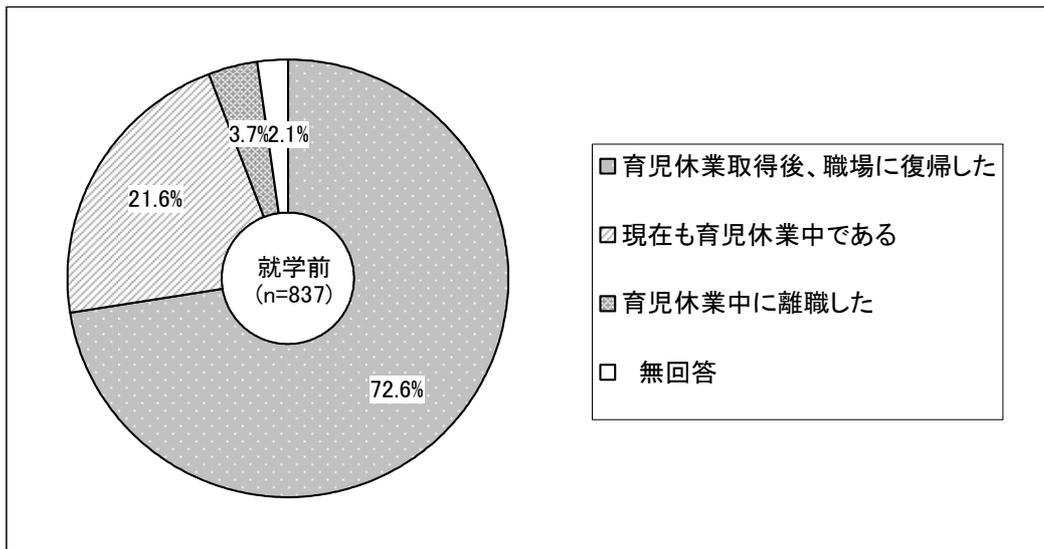
↓問 30 で『取得した（取得中である）』と回答した人のみ

問 30-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

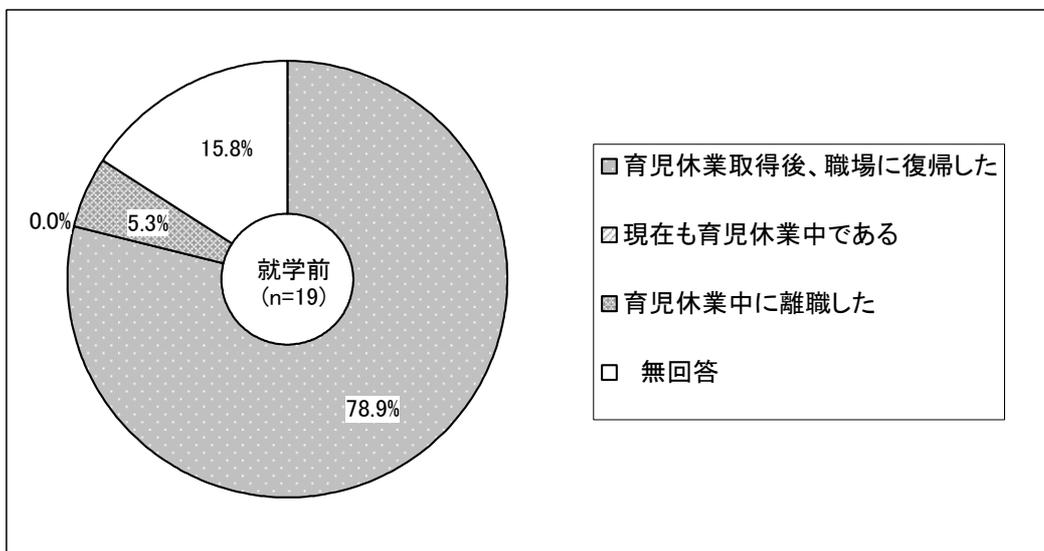
【〇は1つだけ】

育児休業取得後の職場復帰については、母親（72.6%）、父親（78.9%）ともに「育児休業取得後、職場に復帰した」がもっとも多く7割を超えた。「現在も育児休業中」は母親が21.6%に対し、父親は0%となっており、「育児休業中に離職した」は、共に1割未満であった。

◆母親の育児休業取得後の職場復帰



◆父親の育児休業取得後の職場復帰

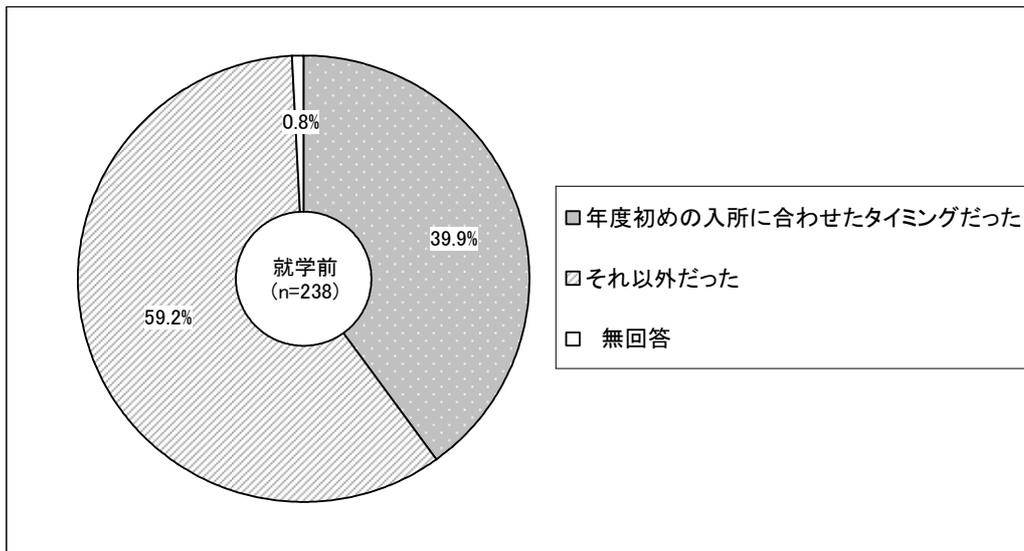


↓問 30-2 で『育児休業取得後、職場に復帰した』と回答した人のみ

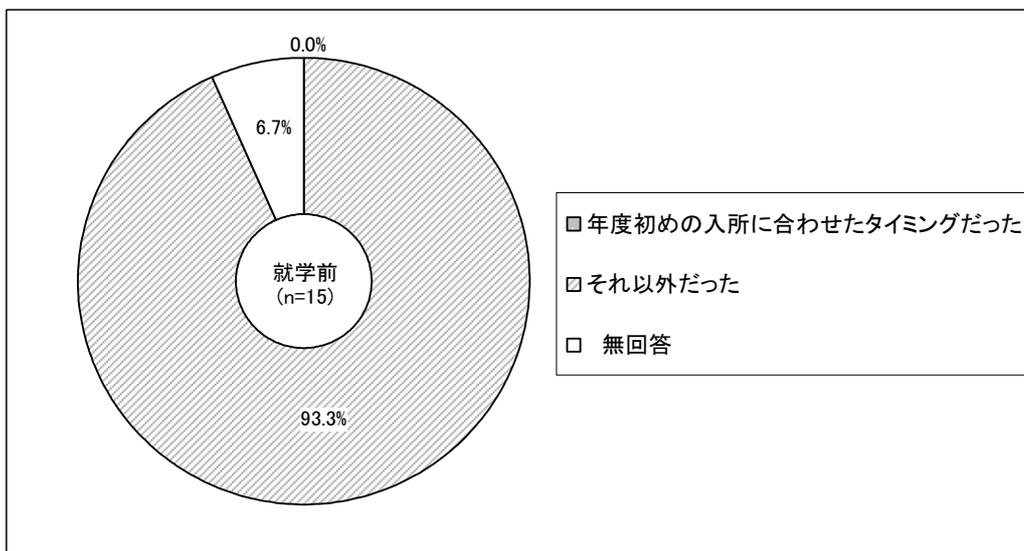
問 30-3 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。 【〇は1つだけ】

育児休業から職場に復帰したタイミングとしては、母親（59.2%）、父親（93.3%）ともに「年度初めの入所以外のタイミングだった」と回答した人が多く、「年度初めの入所に合わせたタイミング」と回答した父親はゼロであった。

◆母親の育児休業から職場復帰したタイミング



◆父親の育児休業から職場復帰したタイミング

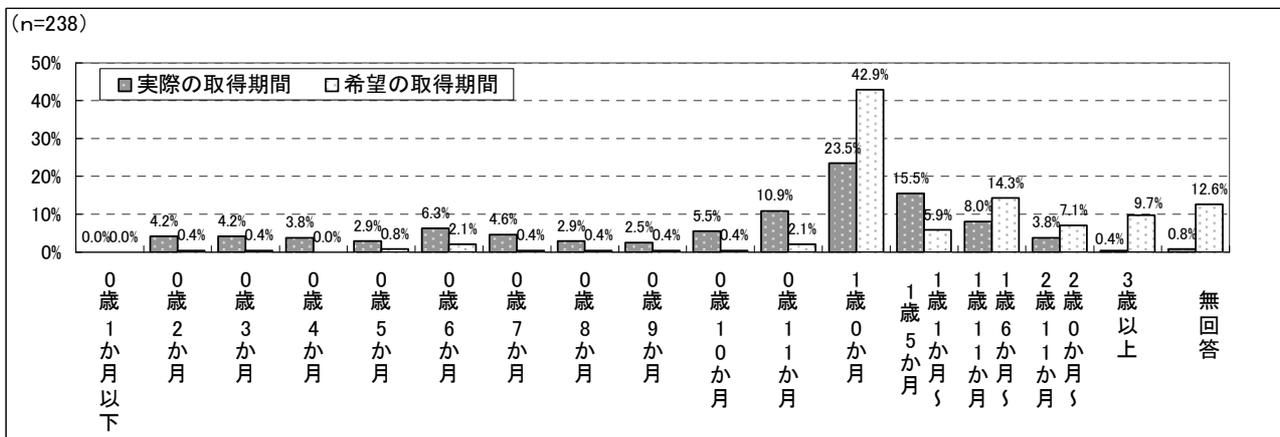


↓問 30-2 で『育児休業取得後、職場に復帰した』と回答した人のみ

問 30-4 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何か月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何か月のときまで取りたかったですか。 【数字を記入】

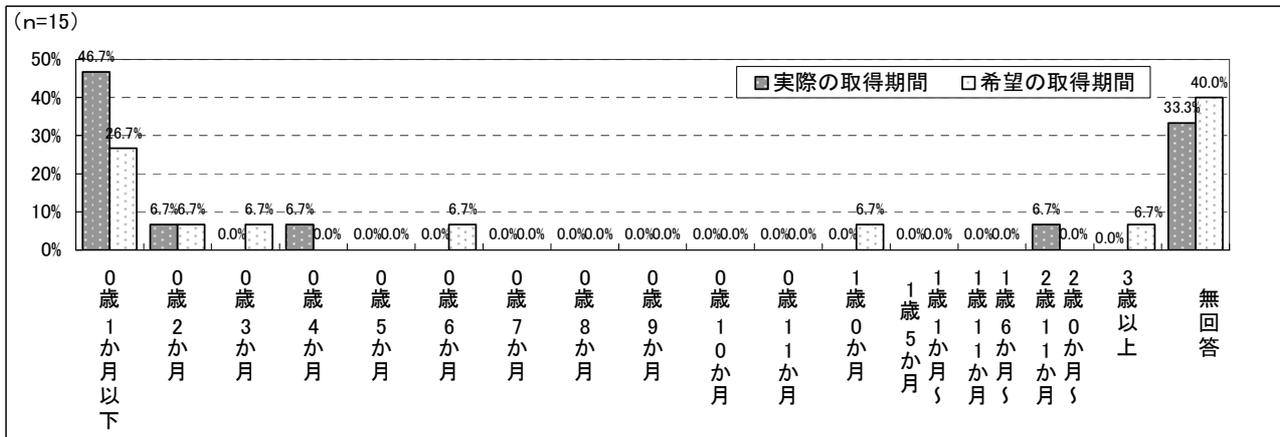
◆母親の育児休業から職場復帰した時のお子さんの年齢

母親の育児休業から職場復帰した時のお子さんの年齢については、「1歳0か月」が23.5%と最も多く、次いで「1歳1か月～1歳5か月」(15.5%)、「0歳11か月」(10.9%)の順となっている。また、母親が職場復帰を希望するお子さんの年齢については、「1歳0か月」が42.9%と最も多く、次いで「1歳6か月～1歳11か月」(14.3%)、「3歳以上」(9.7%)の順となっている。



◆父親の育児休業から職場復帰した時のお子さんの年齢

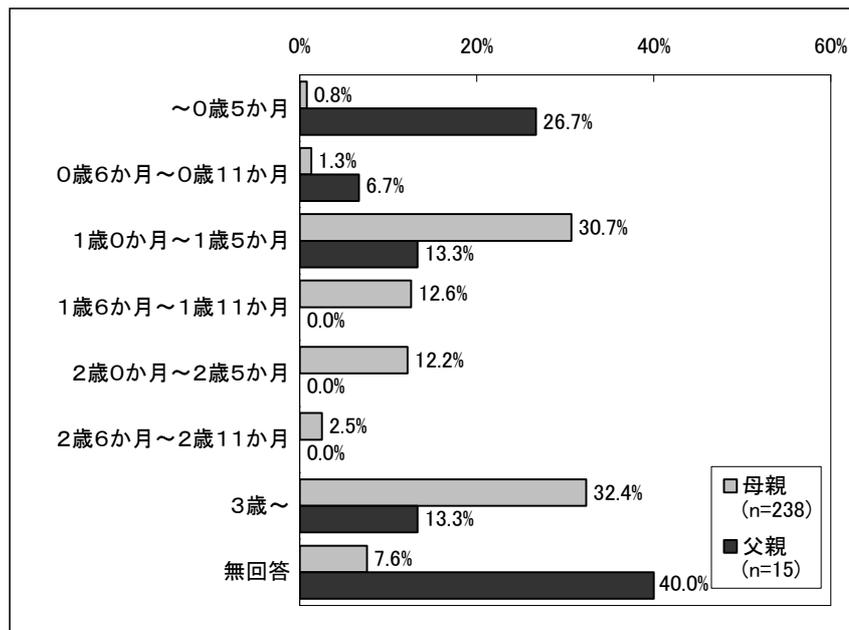
父親の育児休業から職場復帰した時のお子さんの年齢については、「0歳1か月以下」が46.7%と突出している。また、父親が職場復帰を希望するお子さんの年齢についても、実際の取得期間と同様に「0歳1か月以下」が26.7%と最も多くなっている。



## ↓問 30-2 で『育児休業取得後、職場に復帰した』と回答した人のみ

問 30-5 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何か月のときまで取りたかったですか。【数字を記入】

3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の希望するお子さんの年齢については、母親は「3歳以上」が32.4%と最も多く、次いで「1歳0か月～1歳5か月」(30.7%)となっている。一方、父親は「0歳5か月以下」が26.7%と最も多くなっている。

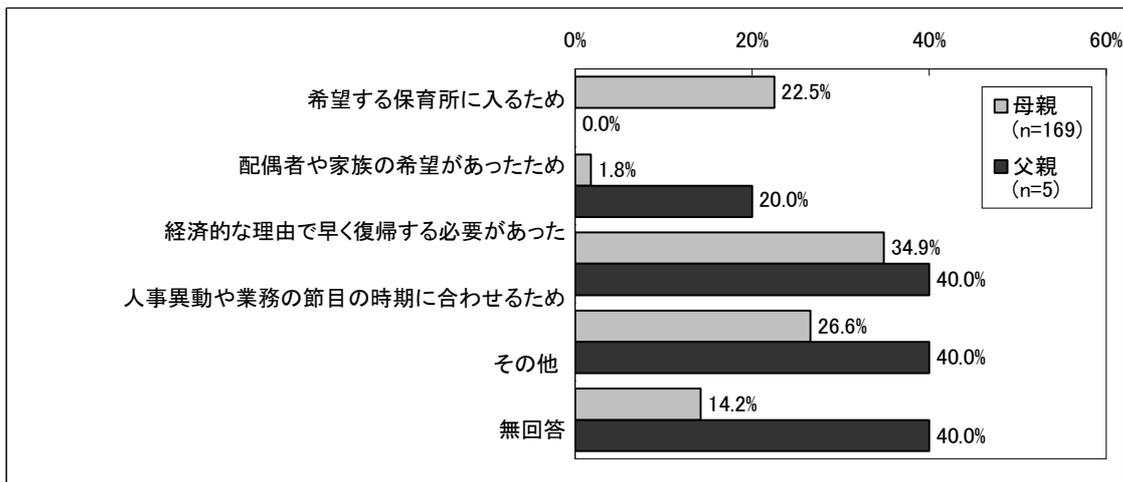


問30-6 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

(1) 「希望」より早く復帰した方

【〇はあてはまるものすべて】

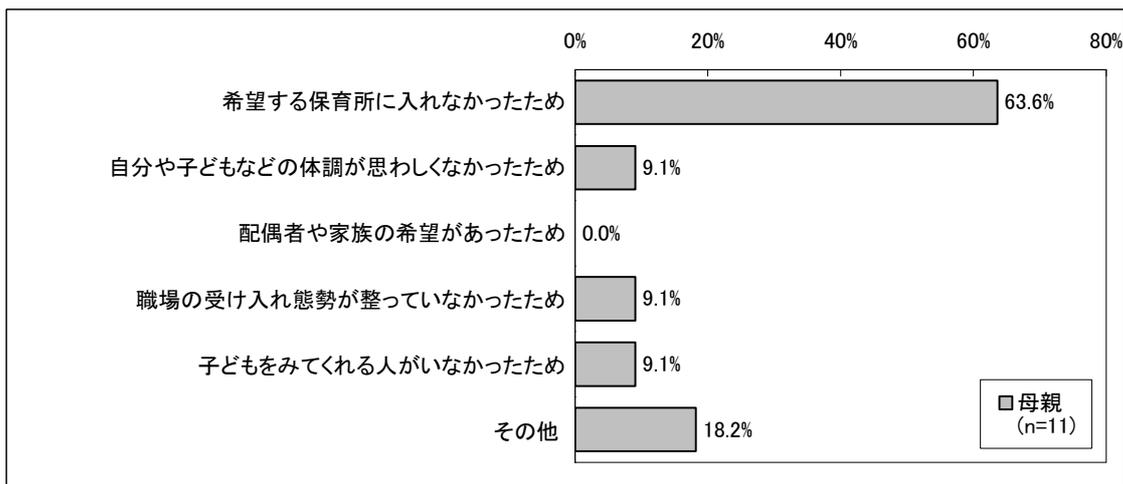
希望の時期に職場復帰しなかった理由については、母親は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が34.9%と最も多く、父親は「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が40.0%と最も多くなっている。



(2) 「希望」より遅く復帰した方

【〇はあてはまるものすべて】

希望の時期に職場復帰しなかった理由については、母親は「希望する保育所に入れなかったため」が63.6%と大半を占めている。一方、父親については、該当者が無かった。



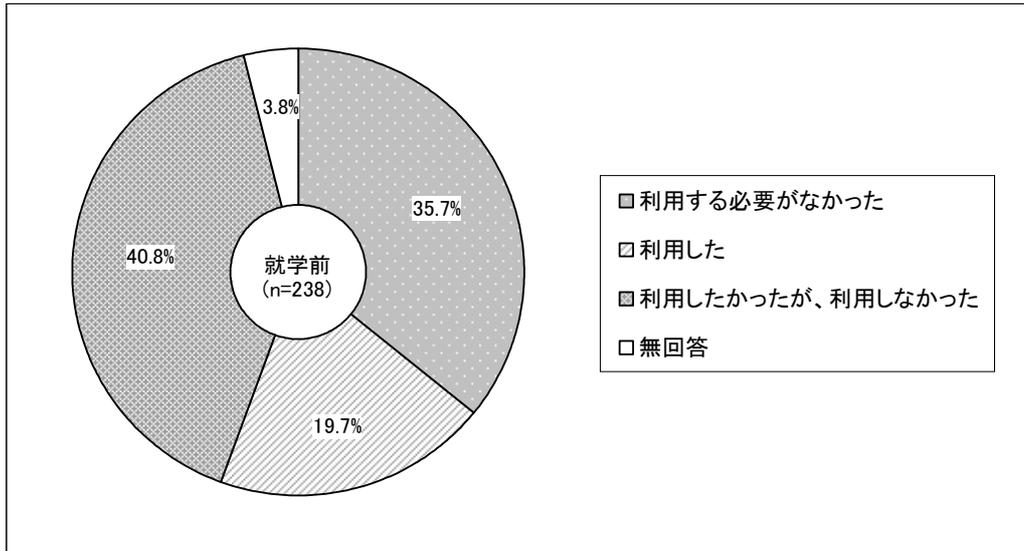
## ↓ 問 30-2 で『育児休業取得後、職場に復帰した』と回答した人のみ

問 30-7 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。

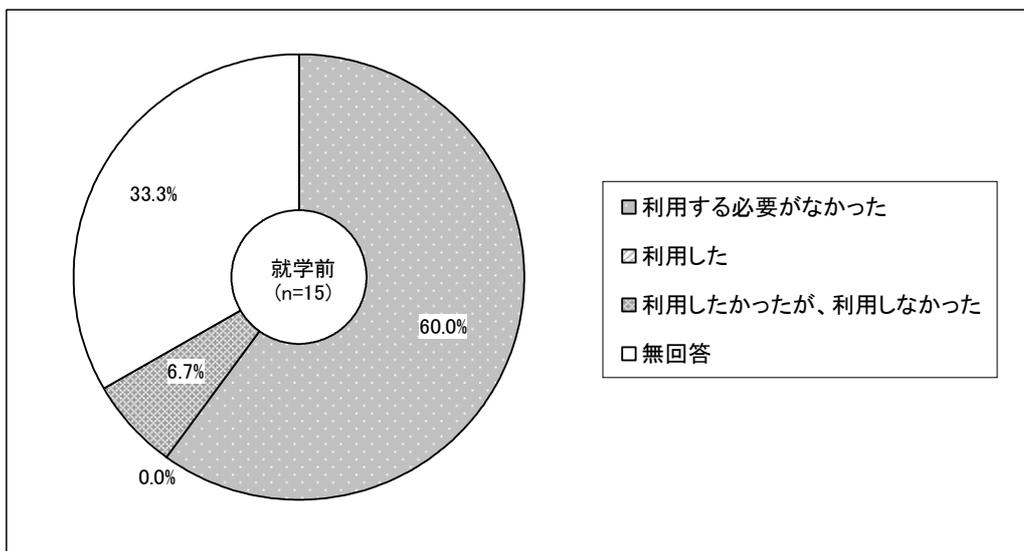
【〇は1つだけ】

育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用については、母親は「利用したかったが、利用しなかった」が 40.8% と最も多く、一方で父親は「利用する必要がなかった」が 60.0% と最も多くなっている。

## ◆ 母親の短時間制度の利用有無



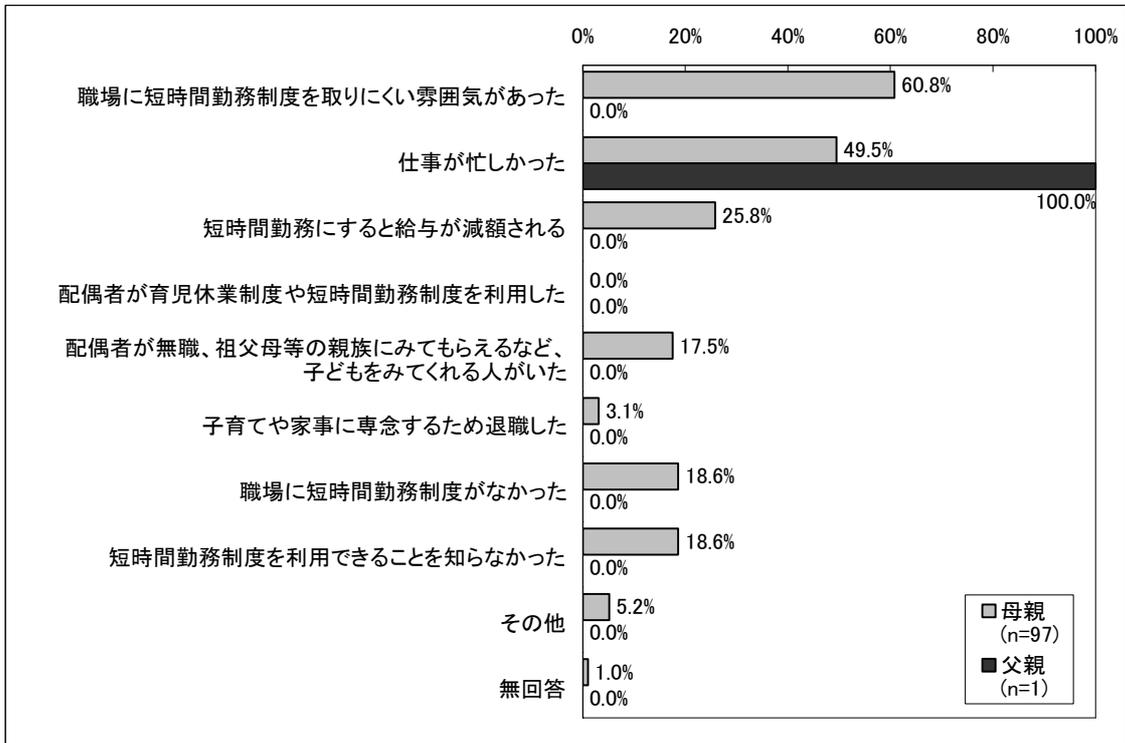
## ◆ 父親の短時間制度の利用有無



↓問 30-7 で『利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）』と回答した人のみ

**問 30-8 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。**

短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由については、母親は「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 60.8%と最も多く、一方で父親は「仕事が忙しかった」が 100.0%（回答者は 1 名のみ）となっている。

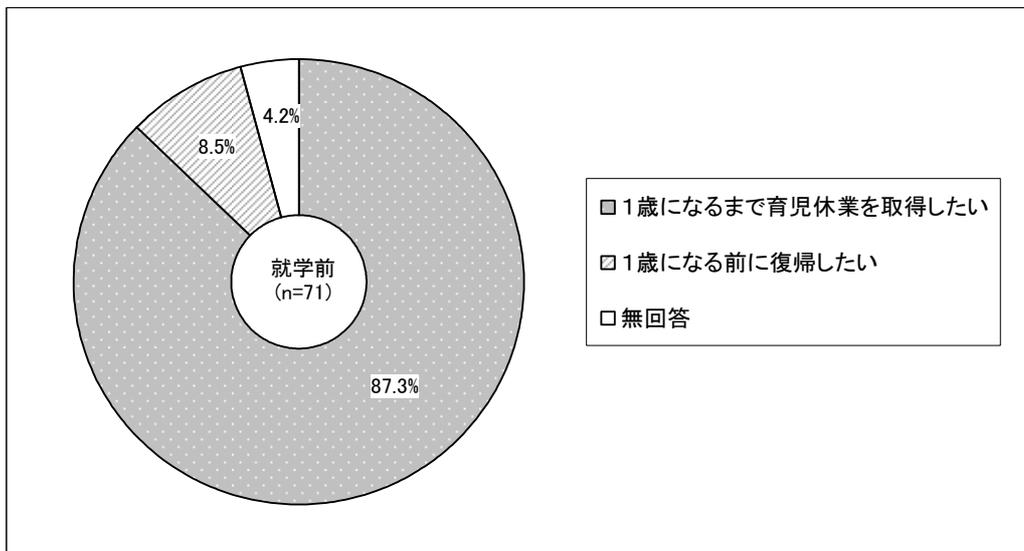


## ↓問 30-2 で『現在も育児休業中である』と回答した人のみ

問 30-9 あて名のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる保育事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。

お子さんが1歳になったときに必ず利用できる保育事業があった場合、1歳になるまで育児休業の取得希望については、母親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」が87.3%と大半を占めている。一方、父親については、該当者が無かった。

## ◆母親の育児休業の取得希望

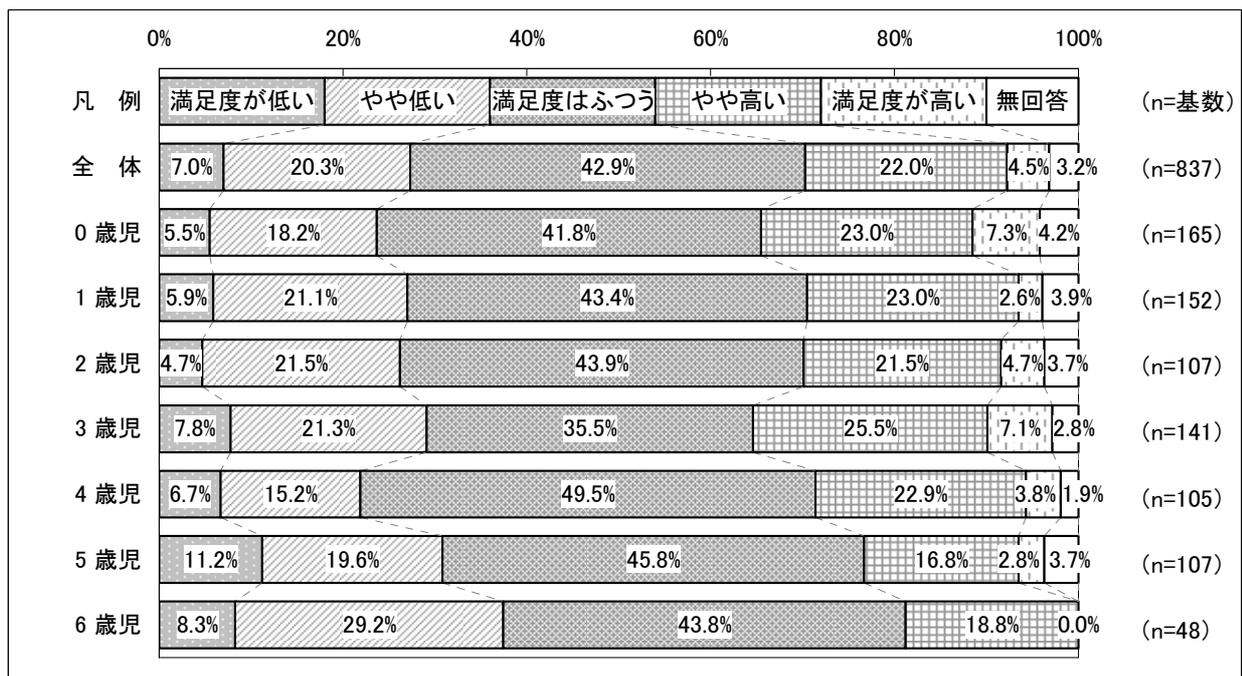


問3 1 鳴門市の子育て環境や支援の満足度について、1～5の5段階評価でお答えください。【1～5のうち、あてはまる番号に1つに○】

鳴門市の子育て環境や支援の満足度については、「満足度が高い」は0歳児（7.3%）が最も高く、次いで3歳児（7.1%）2歳児（4.7%）の順となっている。6歳児に関しては「満足度が高い」と回答した人は一人もいなかった。また、「満足度が高い」と「やや高い」を合わせてみると、3歳児（32.6%）が最も高く、次いで0歳児（30.3%）4歳児（26.7%）の順となっており、いずれも平均より高くなっている。

「満足度が低い」は5歳児（11.2%）が最も高く、次いで6歳児（8.3%）3歳児（7.8%）の順となっており、いずれも平均より高くなっている。また、「満足度が低い」と「やや低い」を合わせてみると、6歳児（37.5%）が最も高く、次いで5歳児（30.8%）3歳児（29.1%）の順となっており、いずれも平均より高くなっている。

全体的にみると若干のバラつきはあるものの、年齢が高くなるにつれて満足度が低くなっている傾向にある。



**調査結果**  
**<小学校児童>**

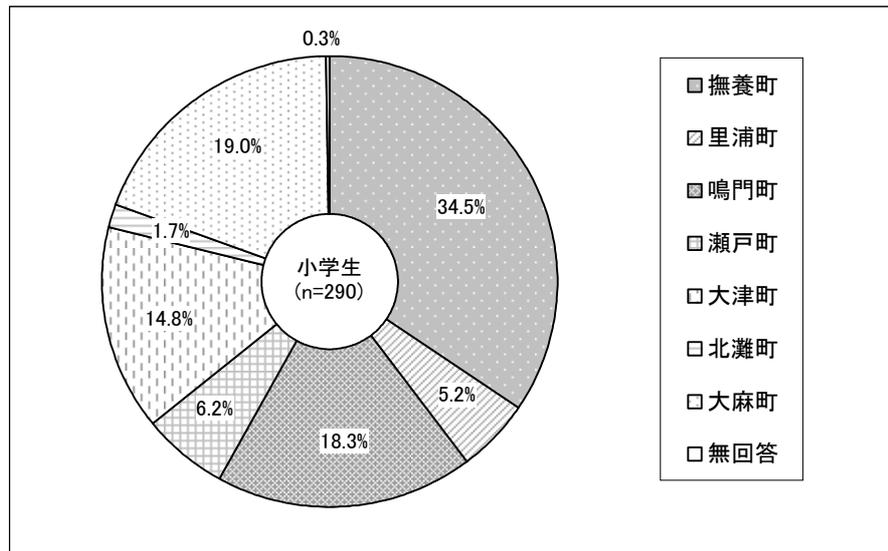


## 1 お住まいの地域について

問1 お住まいの地区はどちらですか。

【〇は1つだけ】

お住まいの地区については、「撫養町」が34.5%と最も多く、次いで「大麻町」(19.0%)、「鳴門町」(18.3%)の順となっている。

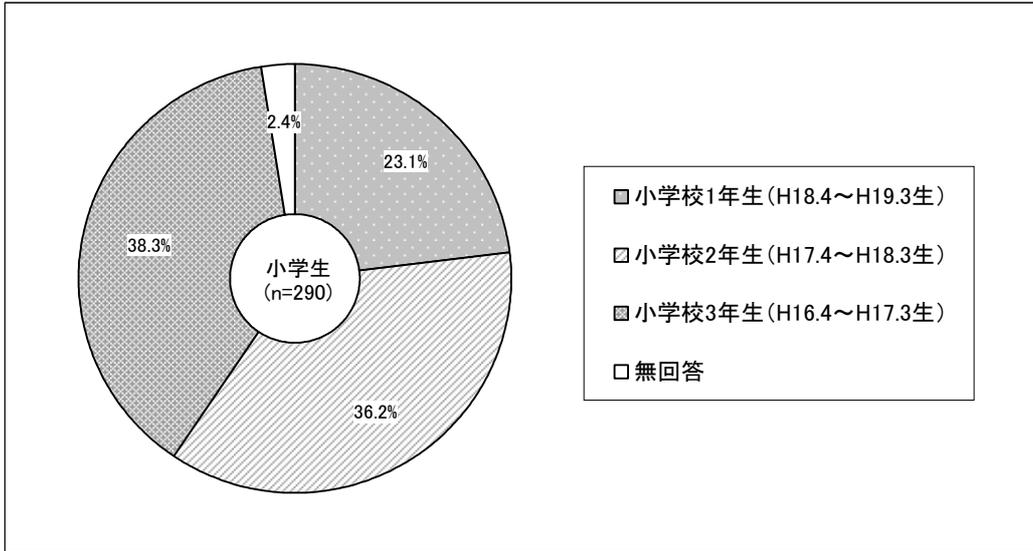


地域	回答数(人)	構成比(%)
撫養町	100	34.5
里浦町	15	5.2
鳴門町	53	18.3
瀬戸町	18	6.2
大津町	43	14.8
北灘町	5	1.7
大麻町	55	19.0
無回答	1	0.3
計	290	100.0

## 2 封筒のあて名のお子さんをご家族の状況について

問2 あて名のお子さんの生年月をご記入ください。(H25. 4. 1 現在) 【数字で記入】

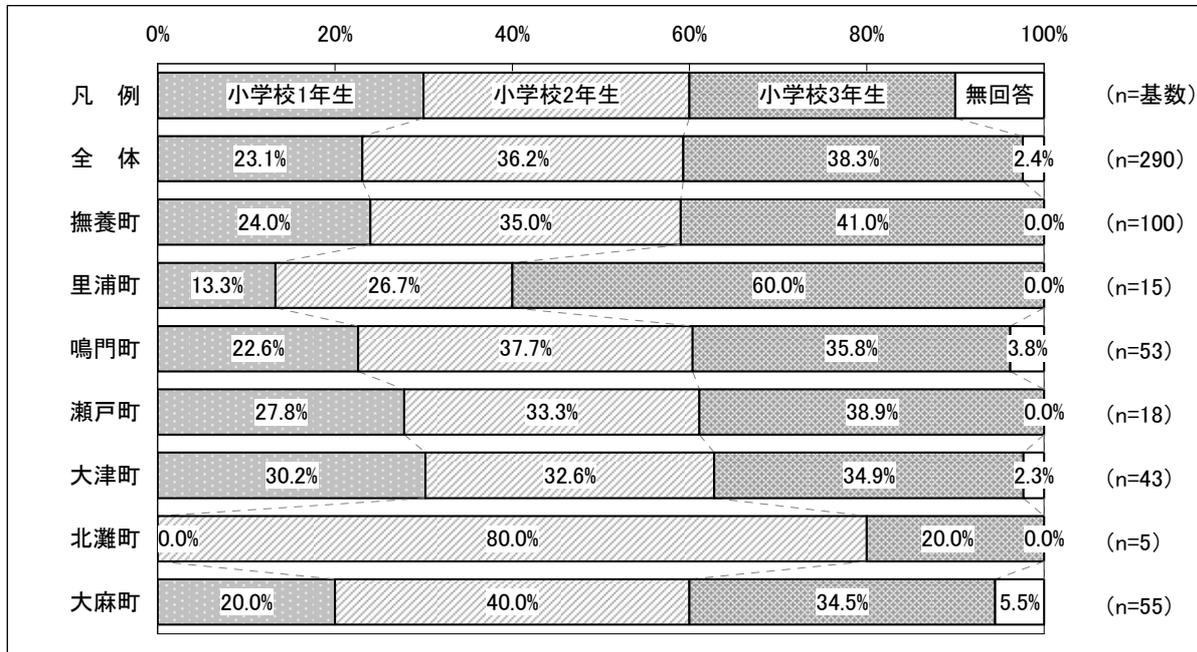
お子さんの年齢については、「小学校3年生」が38.3%で最も多く、次いで「小学校2年生」(36.2%)、「小学校1年生」(23.1%)の順となっている。



生年月	回答数(人)	構成比(%)
小学校1年生 (H18.4~H19.3)	67	23.1
小学校2年生 (H17.4~H18.3)	105	36.2
小学校3年生 (H16.4~H17.3)	111	38.3
無回答	7	2.4
計	290	100.0

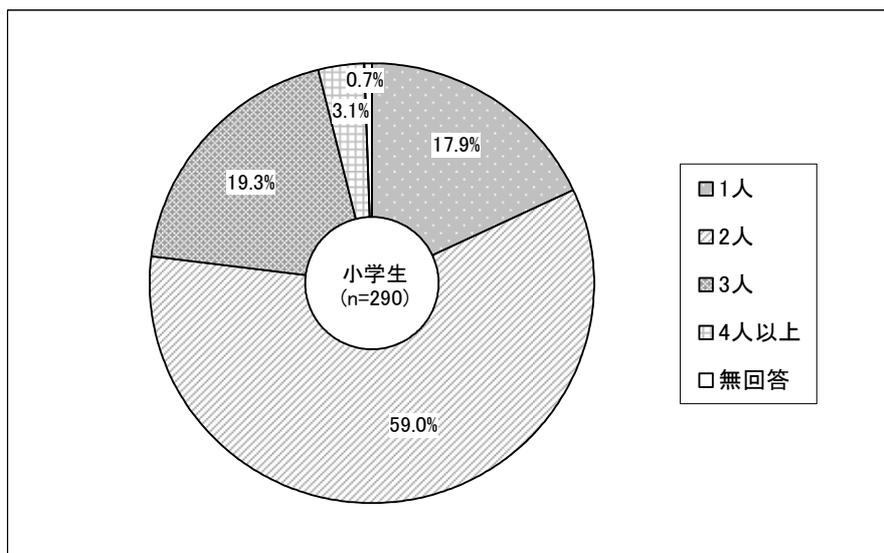
お住まいの地区別のお子さんの年齢の分布は以下のとおりである。

「里浦町」の「小学校3年生」のように極端に比率が高い。また、「北灘町」の「小学校1年生」(0.0%)のように回答がない年齢があるなど、地区ごとでみると偏りがある。

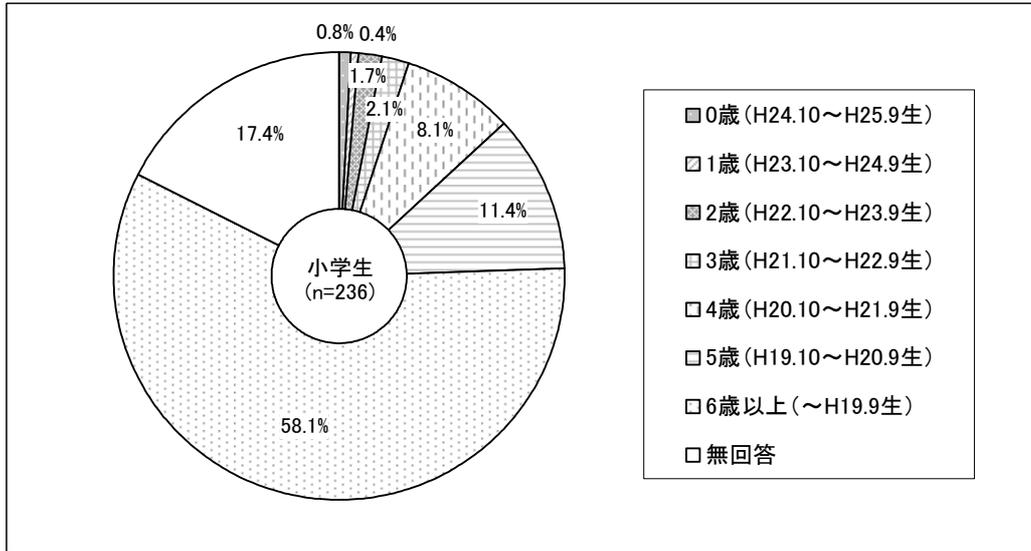


問3 あて名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。あて名のお子さんを含めた人数をご記入ください。また、2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月月をご記入ください。【数字を記入】

お子さんのきょうだい人数については、「2人」が59.0%と最も多く、次いで「3人」(19.3%)、「1人」(17.9%)となっており、お子さんの平均人数は2.1人となっている。

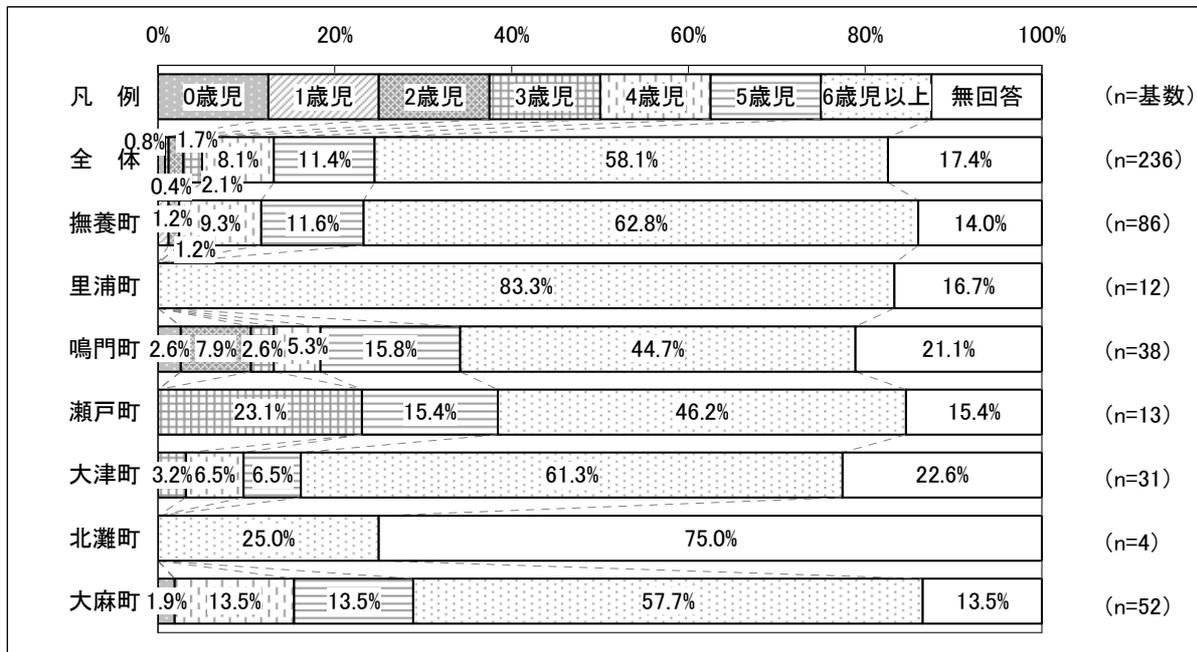


また、お子さんが2人以上いる場合の一番小さいお子さんの年齢（H25. 4. 1 現在）は、「6歳以上」が58.1%と最も多く、次いで「5歳」（11.4%）となっている。



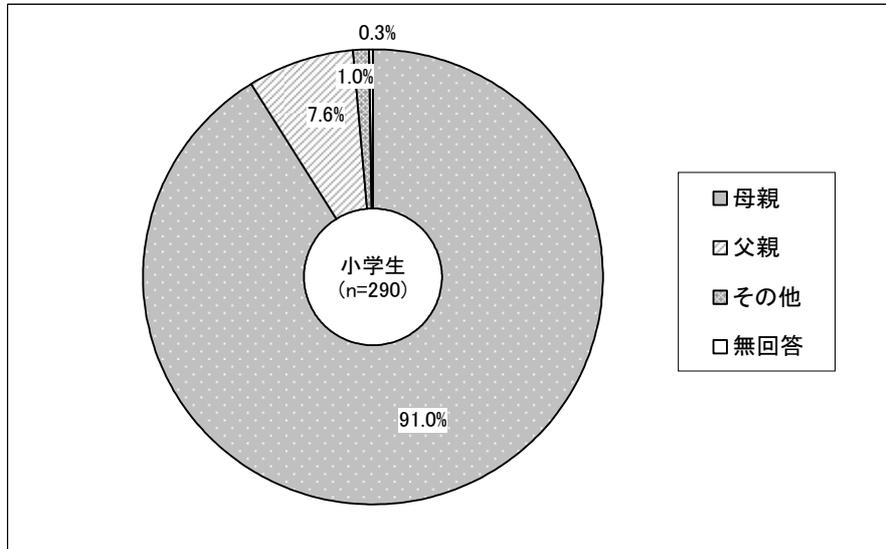
お住まいの地区別の一番小さいお子さんの年齢の分布は以下のとおりである。

「里浦町」の「6歳児以上」や「瀬戸町」の「3歳児」のように極端に比率が高い地区があった。



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。あて名のお子さんからみた関係でお答えください。 【〇は1つだけ】

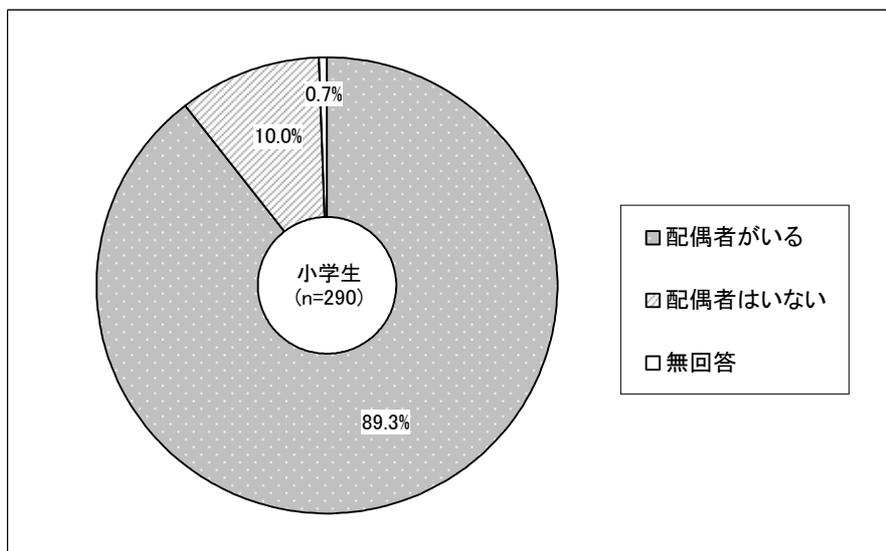
この調査票の回答者については、「母親」が91.0%と9割以上を占めている。



問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

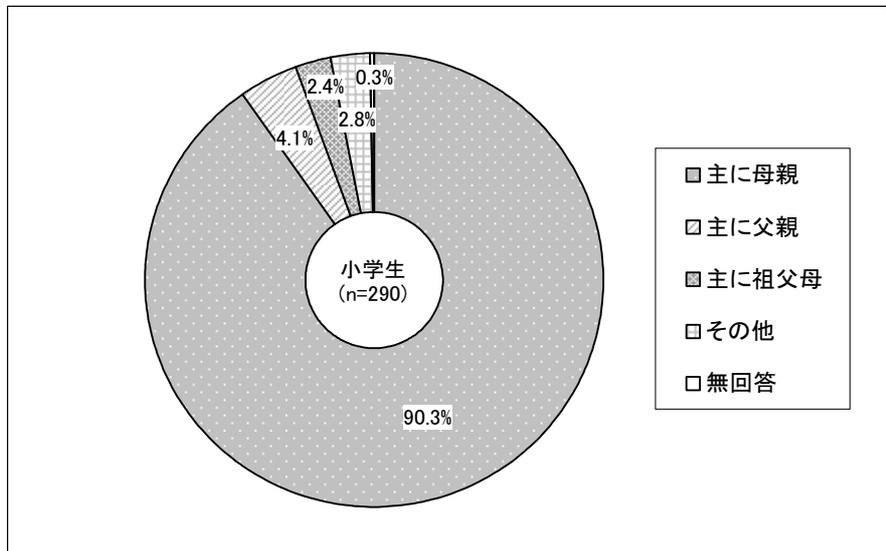
【〇は1つだけ】

この調査票にご回答いただく方の配偶関係については、「配偶者がいる」が89.3%と9割近くを占めている。



問6 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。【〇は1つだけ】

お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っている方については、「主に母親」が 90.3% と 9割以上を占めている。

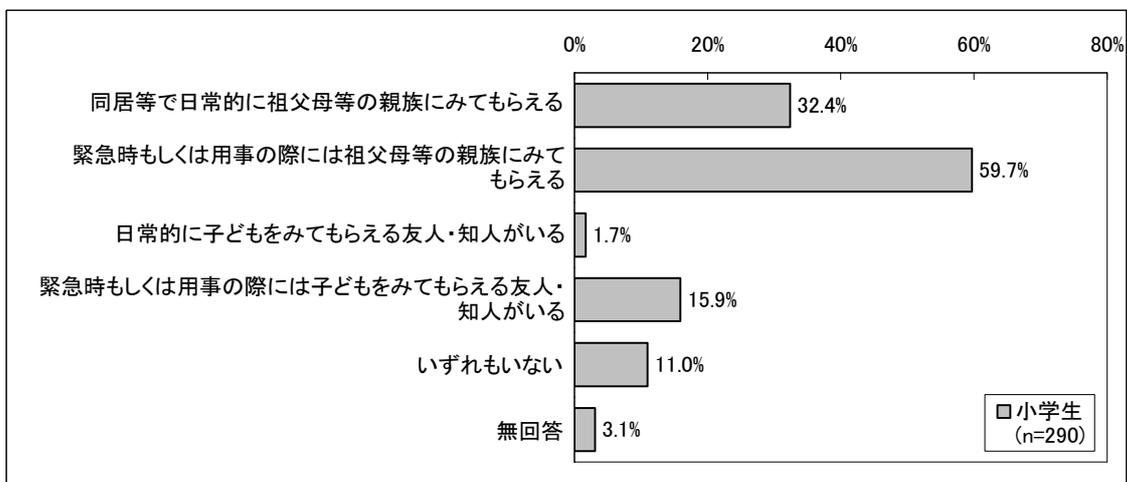


### 3 子どもの育ちをめぐる環境について

問7 日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。

◆みてもらえる人の有無【〇はあてはまるものすべて】

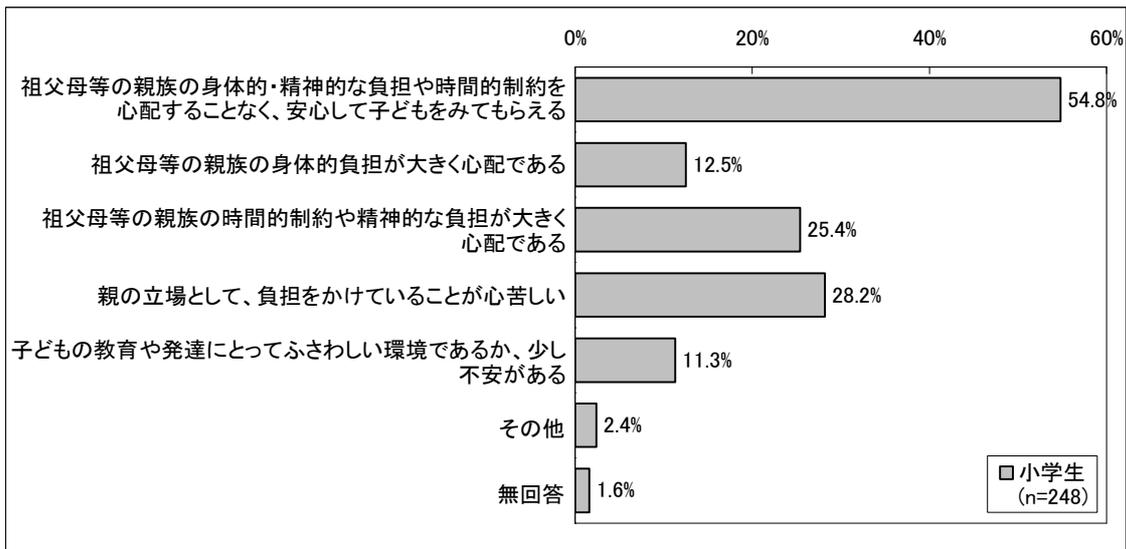
お子さんをみてもらえる親族・知人については、「祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した人は「緊急時」(59.7%)、「日常的に」(32.4%)であった。一方、「友人・知人にみてもらえる」と回答した人は「緊急時」(15.9%)、「日常的に」(1.7%)であることから大半の人は親族にみてもらうことが多いという結果であった。また、みてもらえる人が「いずれもない」(11.0%)と回答した人は1割であった。



↓『親族にみてもらえる』と回答した人のみ

◆親族にみてもらっている状況【〇はあてはまるものすべて】

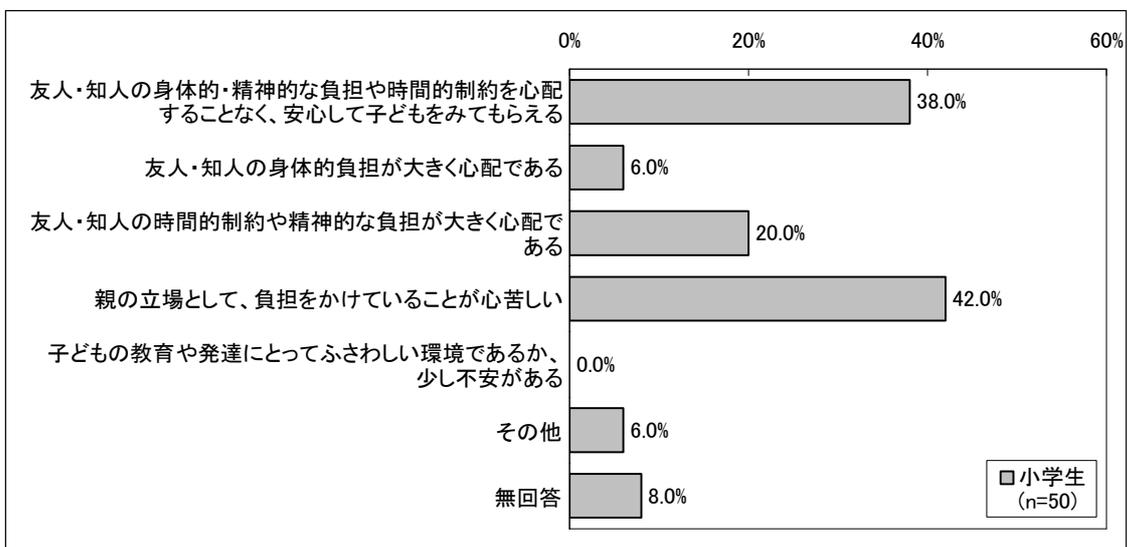
親族にみてもらっている状況については、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人は54.8%と半数以上を占め、「親の立場として負担をかけていることが心苦しい」と回答した人が28.2%と3割程度いた。



↓『友人・知人にみてもらえる』と回答した人のみ

◆友人・知人にみてもらっている状況【〇はあてはまるものすべて】

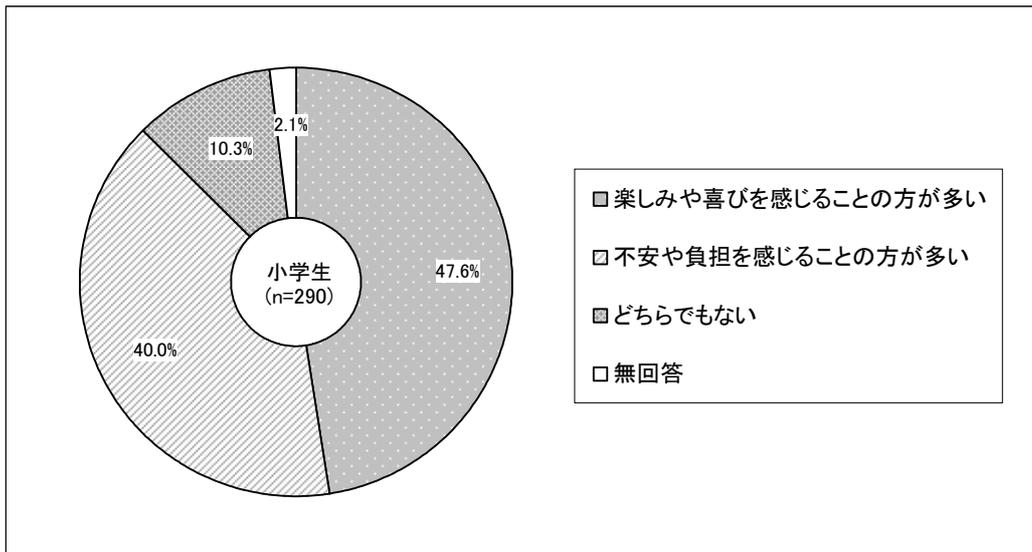
友人・知人にみてもらっている状況については、「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」と回答した人が42.0%で最も多いものの、「友人や知人の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人も38.0%と僅差であった。



問8 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）について、どのように感じていますか。  
また、「2. 不安や負担を感じることの方が多い」場合はその理由をお答えください。

◆子育て（教育を含む）について【〇は1つだけ】

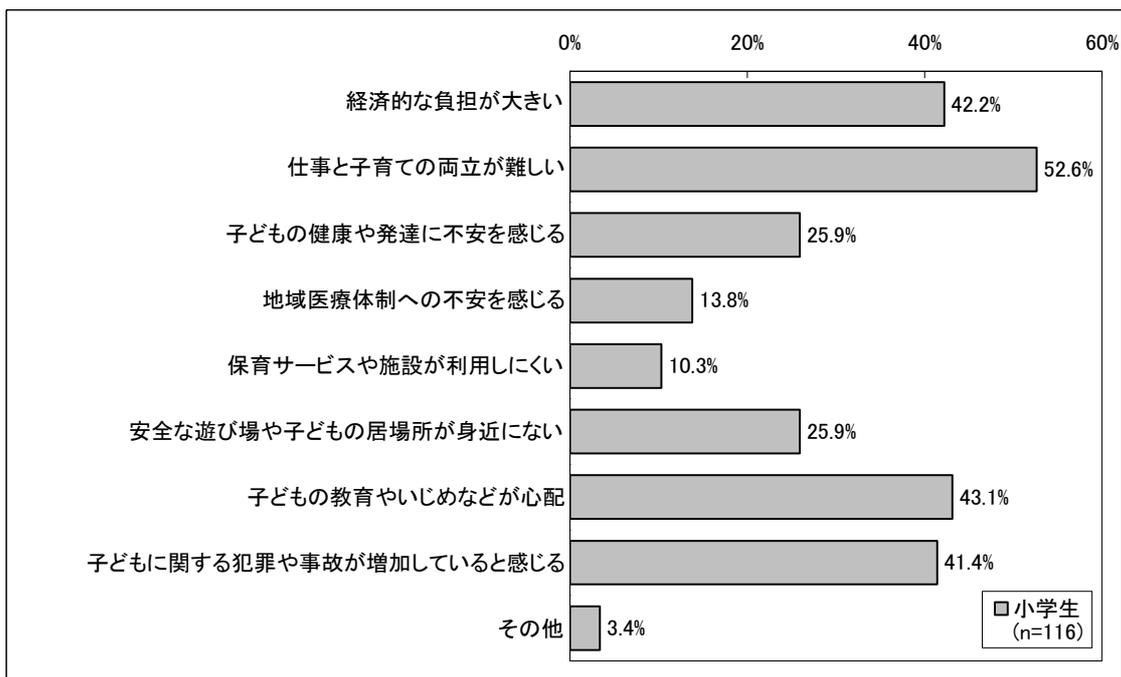
お子さんの子育て（教育を含む）については、「楽しみや喜びを感じることの方が多い」と回答した人は半数以下で、「不安や負担を感じることの方が多い」と回答した人は4割である。就学前児童と比べると、「楽しみや喜びを感じることの方が多い」は1割以上減り、「不安や負担を感じることの方が多い」が1割増える結果となった。



↓『不安や負担を感じることの方が多い』と回答した人のみ

◆不安や負担を感じる理由【〇はあてはまるものすべて】

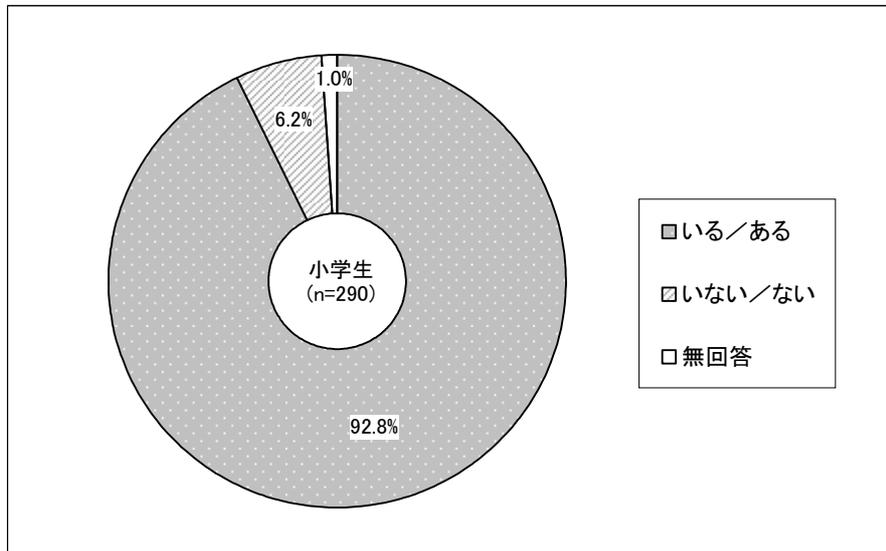
不安や負担を感じる理由については、「仕事と子育ての両立が難しい」（52.6%）が最も多く、次いで「子どもの教育やいじめなどが心配」、「経済的な負担が大きい」、「子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じる」がいずれも40%を超えている。



問9 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

◆相談先の有無【○は1つだけ】

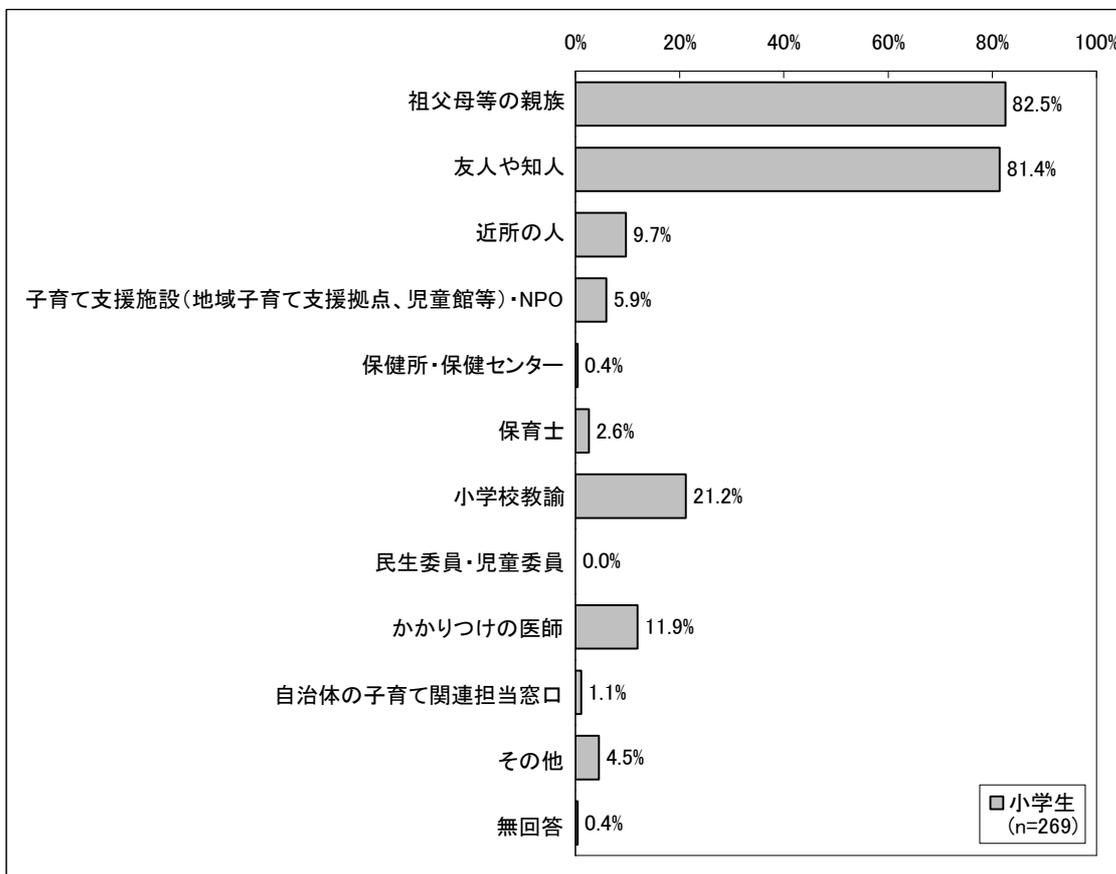
相談先の有無については、気軽に相談できる人/場所が「いる/ある」が92.8%と回答した。



↓『いる/ある』と回答した人のみ

◆相談相手（場所）【○はあてはまるものすべて】

相談相手については、「祖父母等の親族」(82.5%)、「友人や知人」(81.4%)が突出している。



## 4 保護者の就労状況について

問 11・12 保護者（母親・父親）の現在の就労状況（自営業・家族従事者含む）をおうかがいします。（※父子家庭・母子家庭などで、ひとり親の場合はそれぞれ回答不要です。）

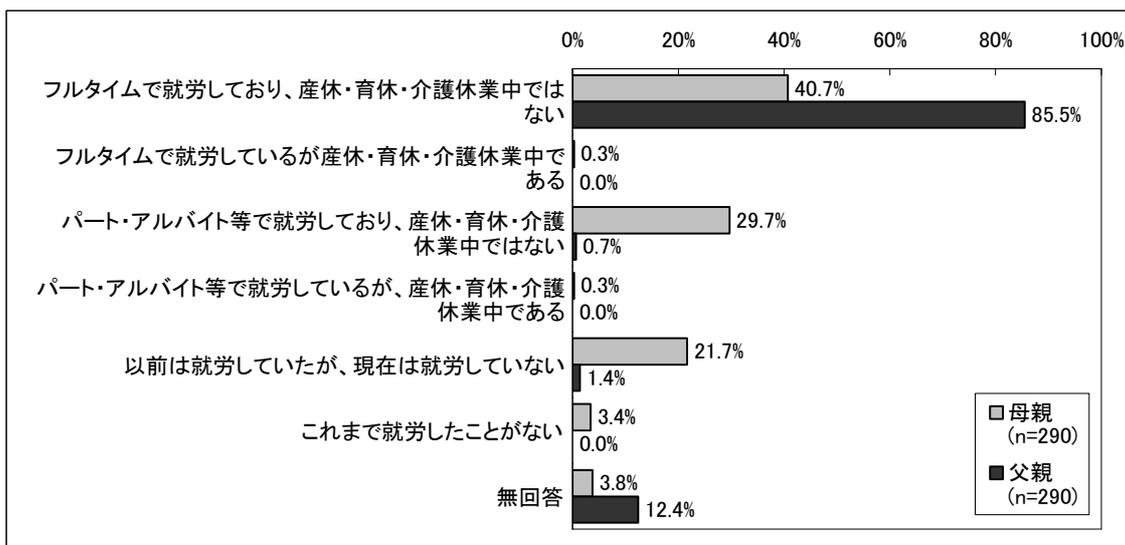
- （1）保護者（母親・父親）の就労状況と就労時間（残業時間を含む）をお答えください。就労日数や、就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。また、産休・育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況についてお答えください。就労時間の表記は、必ず（例）08時～18時のように、24時間制でお答えください。  
 （※フルタイムとは1週5日程度、1日8時間程度の就労のこと。）  
 （※パート・アルバイト等とはフルタイム以外の就労のこと。）

### ◆現在の就労状況【○は1つだけ】

母親の現在の就労状況については、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が40.7%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(29.7%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(21.7%)の順となっている。

父親の現在の就労状況については、「フルタイムで就労している」が85.5%と大半を占めている。母親と違い、「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」「これまで就労したことがない」と回答した人はいなかった。

また、「フルタイム就労で産休・育休・介護休業中」と回答した人はゼロだった。



↓『就労している』と回答した人のみ

◆現在の就労日数（1週当たり）および就労時間（1日当たり）【数字で記入】

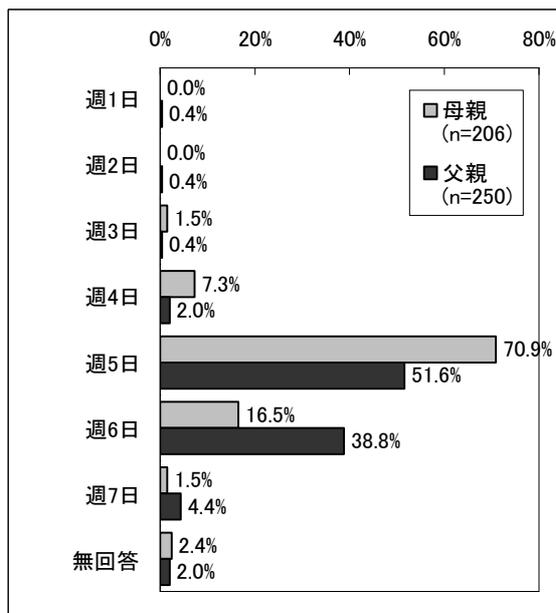
母親の就労日数（1週当たり）については、「週5日」が70.9%と最も多く、次いで「週6日」（16.5%）となっており、平均就労日数は週5.1日となっている。

父親の就労日数（1週当たり）については、「週5日」が51.6%と最も多く、次いで「週6日」（38.8%）となっており、平均就労日数は週5.4日となっている。

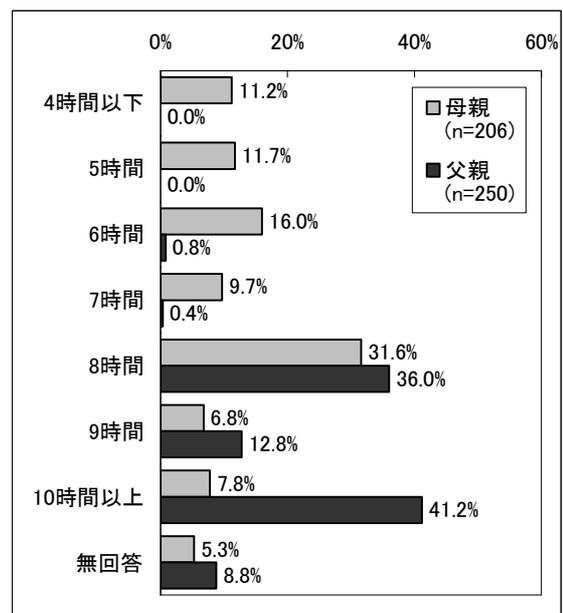
母親の就労時間（1日当たり）については、「8時間」が31.6%と最も多く、次いで「6時間」（16.0%）、「5時間」（11.7%）の順となっており、平均就労時間は6時間49分となっている。

父親の就労時間（1日当たり）については、「10時間以上」が41.2%と最も多く、次いで「8時間」（36.0%）、「9時間」（12.8%）の順となっており、平均就労時間は9時間36分となっている。

【現在の就労日数（1週当たり）】



【現在の就労時間（1日当たり）】



## ↓『就労している』と回答した人のみ

## ◆家を出る時間および帰宅時間【数字で記入】

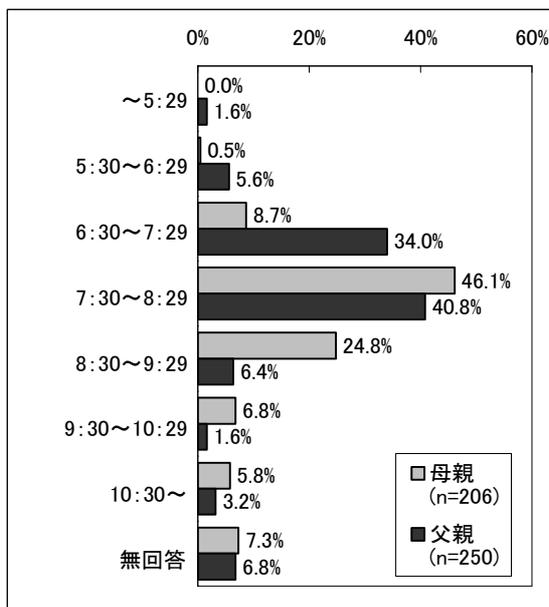
母親の家を出る時間については、「7:30～8:29」が46.1%と最も多く、次いで「8:30～9:29」(24.8%)、「6:30～7:29」(8.7%)の順となっており、平均出宅時間は8時22分となっている。

父親の家を出る時間については、「7:30～8:29」が40.8%と最も多く、次いで「6:30～7:29」(34.0%)、「8:30～9:29」(6.4%)の順となっており、平均出宅時間は7時30分となっている。

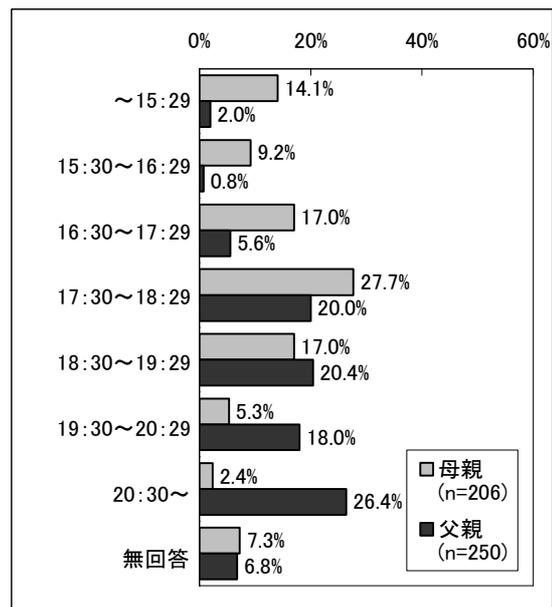
母親の帰宅時間については、「17:30～18:29」が27.7%と最も多く、次いで「16:30～17:29」「18:30～19:29」(ともに17.0%)の順となっており、平均帰宅時間は17時08分となっている。

父親の帰宅時間については、「20:30以降」が26.4%と最も多く、次いで「18:30～19:29」(20.4%)、「17:30～18:29」(20.0%)の順となっており、平均帰宅時間は19時12分となっている。

## 【家を出る時間】



## 【帰宅時間】



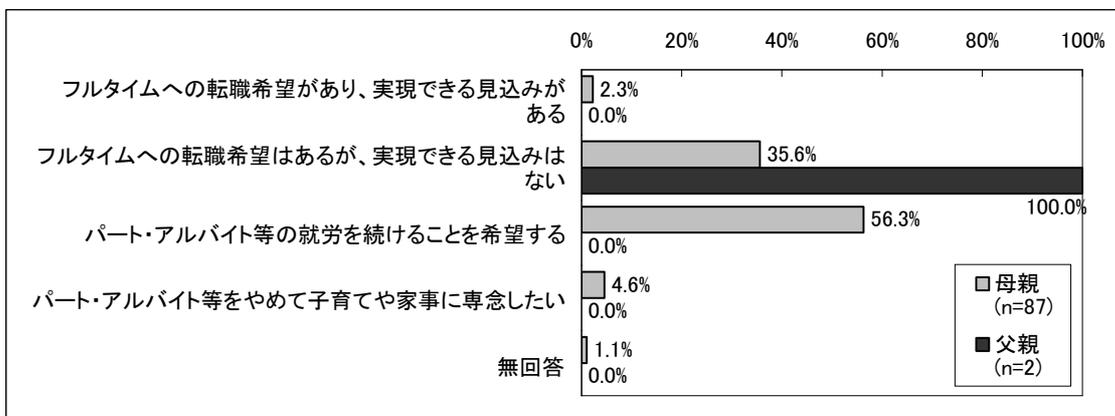
↓『パート・アルバイト等で就労』と回答した人のみ

(2) フルタイムへの転職希望はありますか。

【○は1つだけ】

母親のフルタイムへの転職希望については、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が 56.3%と最も多くなっているが、「フルタイムへの転職希望があり、実現できる見込みがある」(2.3%)と「フルタイムへの転職希望はあるが、実現できる見込みはない」(35.6%)を合わせると、パートタイム・アルバイト等で就労している母親の 4 割近く(37.9%)がフルタイムへの転職を希望しているとの結果となっている。

父親のフルタイムへの転職希望については、「フルタイムへの転職希望があり、実現できる見込みはない」が 100.0% (回答者は 2 人) となっている。



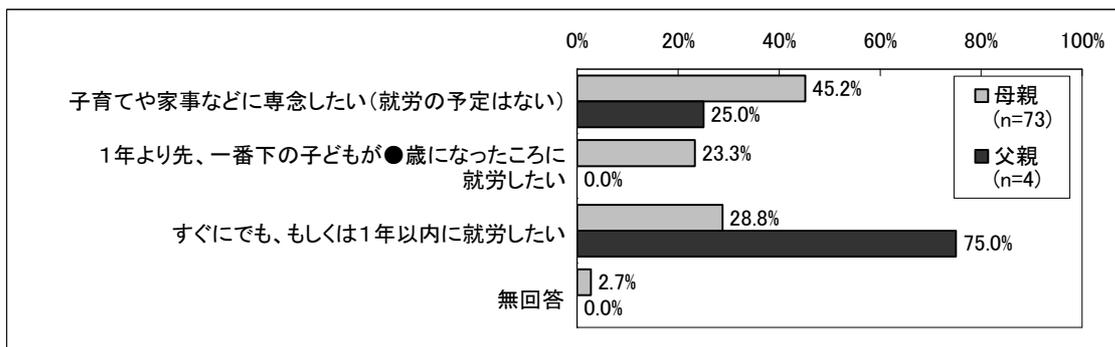
## ↓『現在就労していない』または『これまでに就労したことがない』と回答した人のみ

(3) 就労したいという希望はありますか。

【○は1つだけ】

母親の就労希望の有無については、「子育ては家事などに専念したい」が45.2%と最も多くものの、「1年より先、一番下の子どもが●歳になったころに就労したい」(23.3%)と「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(28.8%)を合わせると、半数以上(52.1%)の方が就労を希望していることがわかる。

父親の就労希望の有無については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が75.0% (回答者4人) が最も多くなっている。

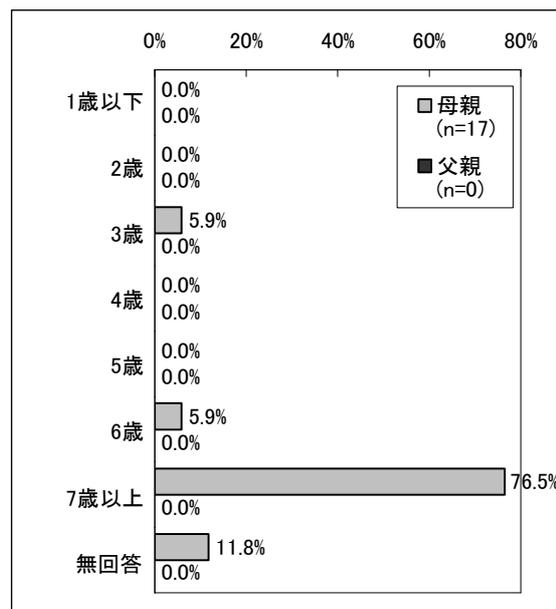


## ↓『1年より先、一番下の子どもが●歳になったころに就労したい』と回答した人のみ

## ◆就労を希望する上での、一番下の子どもの年齢の内訳【数字で記入】

母親の就労を希望する上での、一番下の子どもの年齢については、「7歳以上」になったころに就労したいと回答した人が76.5%と最も多くなっている。

父親については、回答が無かった。

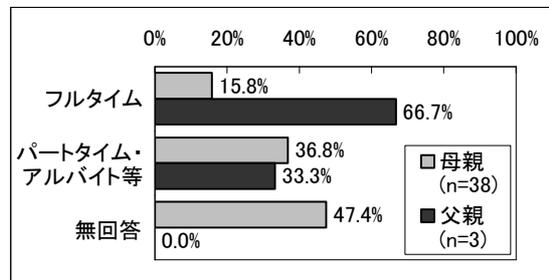


↓『就労したい』と回答した人のみ

◆希望する就労形態【○は1つだけ】

母親の希望する就労形態については、「パートタイム・アルバイト等」が36.8%と最も多い。

父親の希望する就労形態については、「フルタイム」が66.7%（回答者2人）と最も多い。



◆希望する就労日数および就労時間【数字で記入】

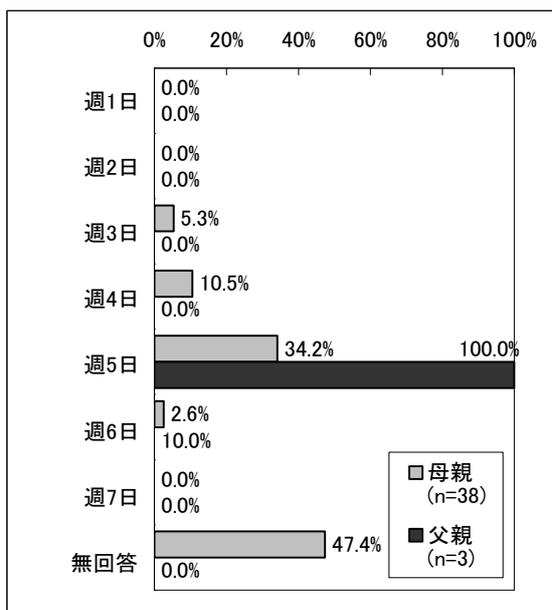
母親の希望する就労日数については、「週5日」が34.2%と最も多く、次いで「週4日」（10.5%）となっており、平均希望就労日数は週4.7日となっている。

父親の希望する就労日数については、「週5日」が100.0%（回答者3人）となっており、平均希望就労日数は週5.0日となっている。

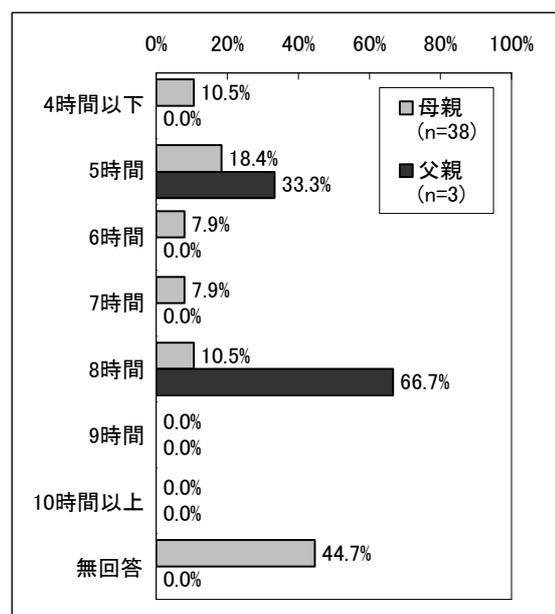
母親の希望する就労時間については、「5時間」が18.4%と最も多く、次いで「4時間以下」「8時間」（ともに10.5%）となっており、平均希望就労時間は5時間48分となっている。

父親の希望する就労時間については、「8時間」が66.7%と最も多く、次いで「5時間」（33.3%）となっており、平均希望就労時間は7時間00分となっている。

【希望する就労日数（1週当たり）】



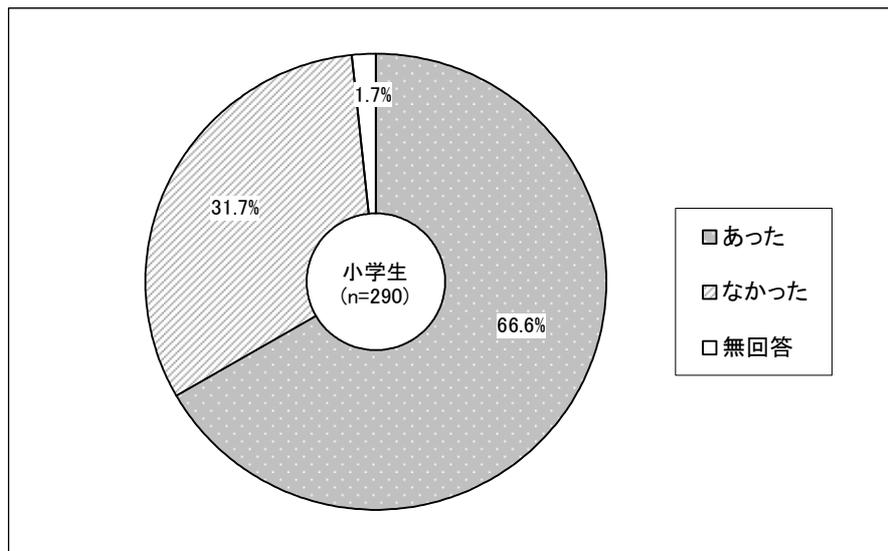
【希望する就労時間（1日当たり）】



## 5 病気の際の対応について

問13 この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことはありますか。また、休まなければならなかった場合はその対処方法を選択し、その日数はおおよそ何日かをお答えください。(半日程度の場合も1日とカウントしてください)

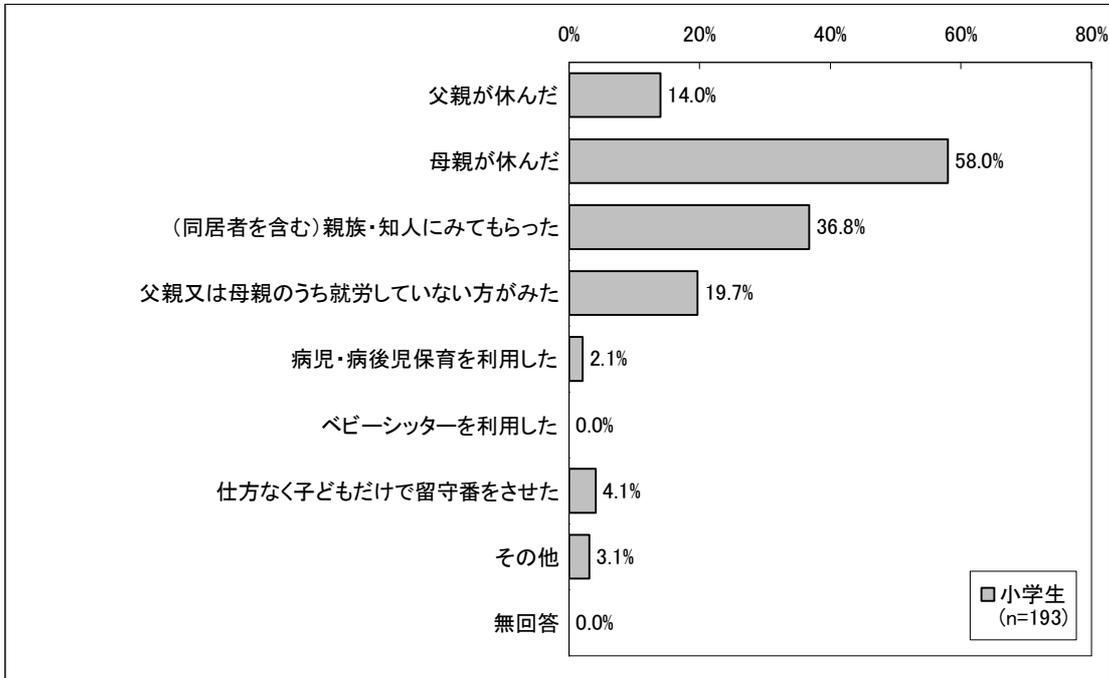
この1年間で、お子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことについては、「あった」と回答した人は66.6%と7割近くを占めている。



↓『あった』と回答した人のみ

◆休まなければならなかった場合の対処方法【○はあてはまるものすべて】

休まなければならなかった場合の対処方法については、「母親が休んだ」(58.0%)が最も多く、次いで「親族・知人にみてもらった」(36.8%)、「就労していない方がみた」(19.7%)の順となっている。



また、それぞれの年間延べ日数については、最も回答の多かった「母親が休んだ」の年間平均延べ日数は4.1日となっており、次いで回答の多かった「(同居者を含む)親族・知人に預けた」の年間平均延べ日数は3.9日となっている。

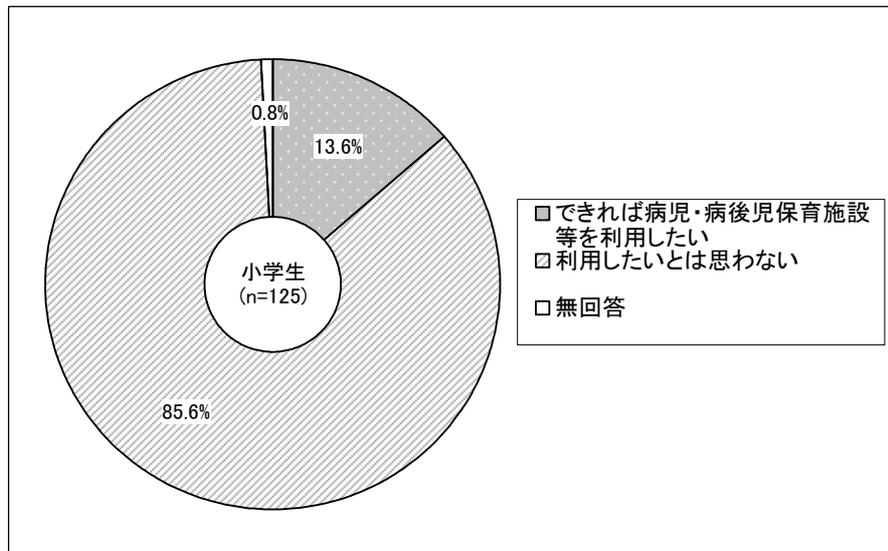
上段：回答数 下段：%	年間平均延べ日数	年間1日	年間2日	年間3~5日	年間6~10日	年間11~20日	年間21~30日	年間31日以上	無回答
父親が休んだ (n=27)	2.0日	10 37.0	11 40.7	6 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
母親が休んだ (n=112)	4.1日	24 21.4	25 22.3	44 39.3	13 11.6	3 2.7	2 1.8	0 0.0	1 0.9
(同居者を含む) 親族・知人に預けた (n=71)	3.9日	15 21.1	22 31.0	23 32.4	7 9.9	2 2.8	1 1.4	0 0.0	1 1.4
父親又は母親のうち 就労していない方が見た (n=38)	4.1日	8 21.1	3 7.9	15 39.5	8 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 10.5
病児・病後児保育を 利用した (n=4)	3.5日	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
ベビーシッターを 利用した (-)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
仕方なく子どもだけで 留守番をさせた (n=8)	2.1日	4 50.0	0 0.0	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5
その他 (n=6)	3.3日	0 0.0	1 16.7	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3

## ↓ 『父親が休んだ』 または 『母親が休んだ』 と回答した人のみ

問 13-1 その際、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と思われましたか。思われた場合はその場合の日数と、望ましい事業形態を、思わなかった場合はその理由をお答えください。

※病児・病後児保育施設等の利用には一日あたり 2,000 円（昼食代等を除く）の利用者負担と利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

子どもが病気やケガで保育サービスが利用できなかった際の病後児・病児保育の利用意向については、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した人は 13.6%、「利用したいとは思わない」と回答した人は 85.6%であった。



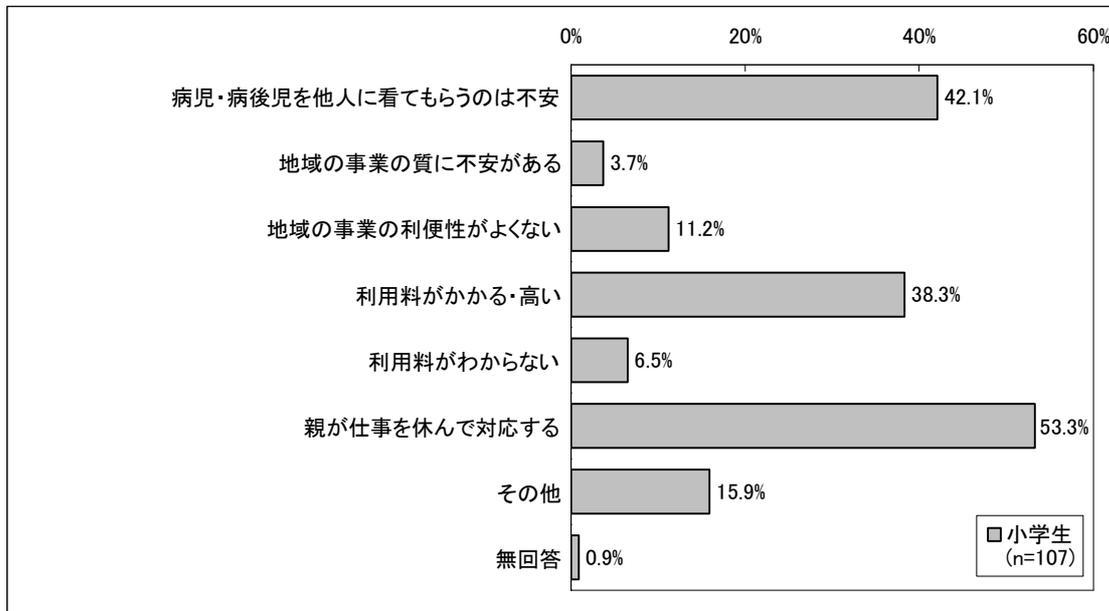
問 7 で「いずれもない」と回答した人については、「利用したいとは思わない」(72.7%) が「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」(27.3%) を 45.4 ポイント上回った。

	全体	施設等を利用したい	利用したいとは思わない	無回答
【表の見方】 上段=回答数 (人) 下段=比率 (%)				
全体	125 100.0	17 13.6	107 85.6	1 0.8
日常的に親族にみてもらえる	33 100.0	2 6.1	31 93.9	-
緊急時に親族にみてもらえる	85 100.0	11 12.9	73 85.9	1 1.2
日常的にみてもらえる友人・知人がいる	2 100.0	-	2 100.0	-
緊急時にみてもらえる友人・知人がいる	22 100.0	4 18.2	18 81.8	-
いずれもない	11 100.0	3 27.3	8 72.7	-
無回答	5 100.0	2 40.0	3 60.0	-

↓『利用したいとは思わない』と回答した人のみ

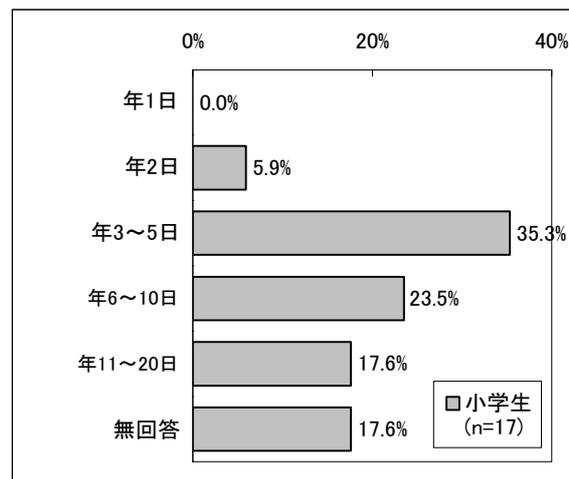
◆利用したいとは思わない理由【〇はあてはまるものすべて】

利用したいとは思わない理由としては、「親が仕事を休んで対応する」(53.3%)がもっとも多く、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」の声も42.1%と多かった。「利用料がかかる・高い」という理由も38.3%あった。



↓『できれば病児・病後児保育施設等を利用したい』と回答した人のみ

◆希望日数(年間)【数字を記入】

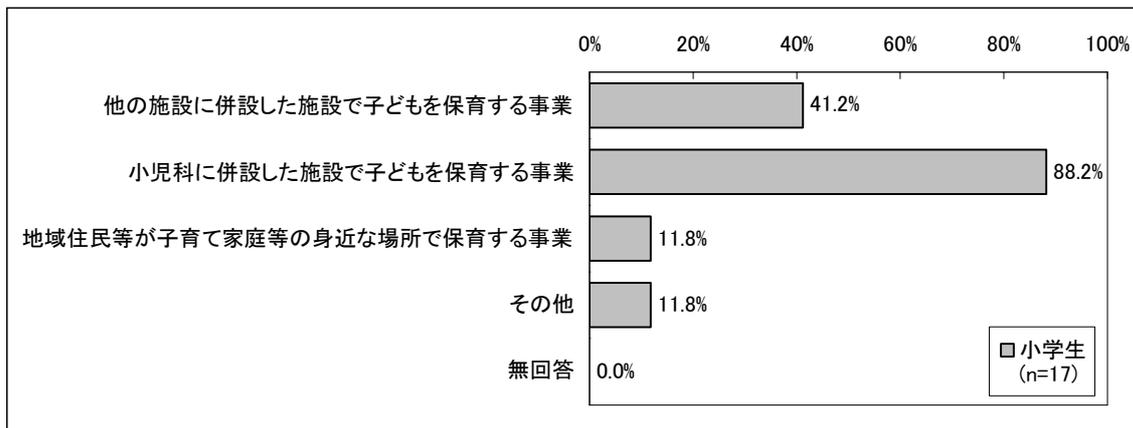


「できれば病児・病後児保育を利用したいと思った」と回答した人の年間の利用希望日数については、「年3~5日」が35.3%で最も多く、次いで「年6~10日」(23.5%)となっている。年間の平均利用希望日数は7.4日であった。

## ↓ 『できれば病児・病後児保育施設等を利用したい』と回答した人のみ

## ◆希望する事業形態【○はあてはまるものすべて】

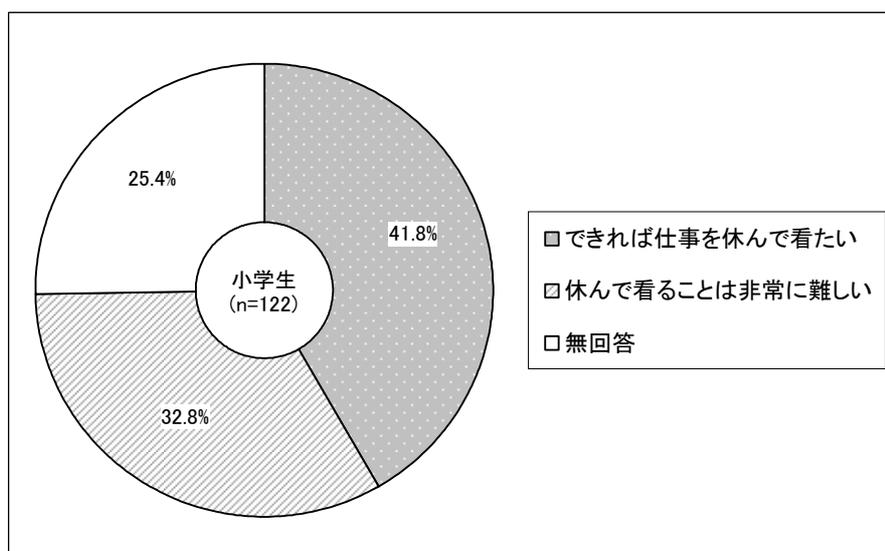
この1年間で、子どもが病気やケガで保育サービスが利用できず、「父親が休んだ」「母親が休んだ」と回答した人のうち、その際に希望する事業形態については、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」(88.2%)が最も多く、次いで「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」(41.2%)であった。



## ↓ 『父親が休んだ』または『母親が休んだ』以外を回答した人のみ

問13-2 その際「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思いましたか。また、その場合の仕事を休んで看たかった日数とその理由をお答えください。

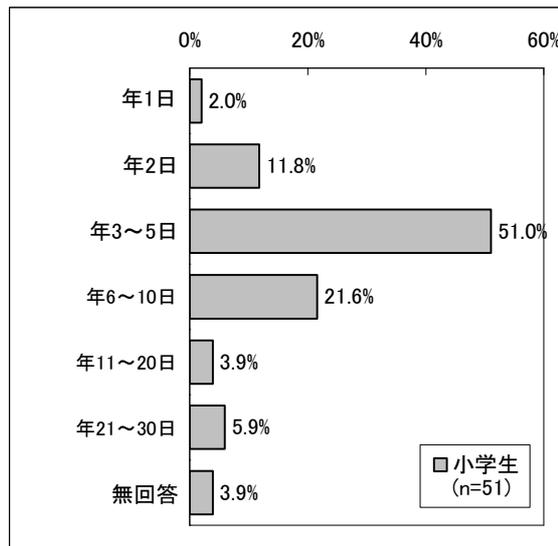
この1年間で、子どもが病気やケガで保育サービスが利用できなかった時に、父親または母親が仕事を休んだ以外の対処方法を取った人のうち、「できれば仕事を休んで看たい」と回答した人は4割強、「休んで看ることは非常に難しい」と回答した人は3割強である。



↓『できれば仕事を休んで看たい』と回答した人のみ

◆仕事を休んで見たかった日数

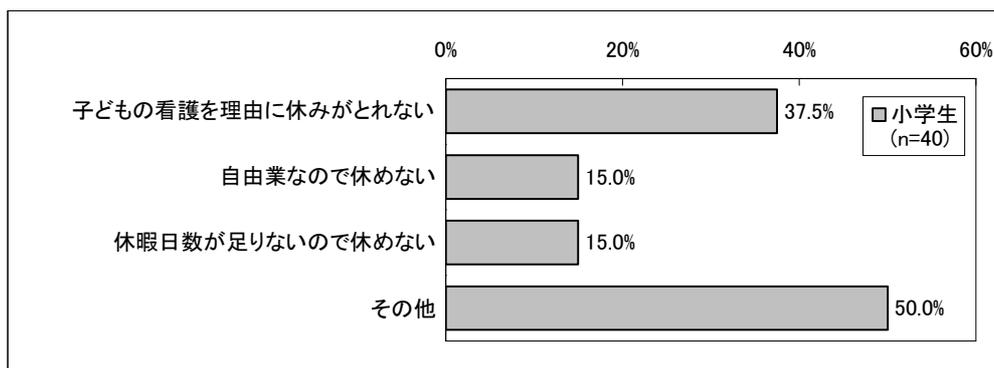
この1年間で、子どもが病気やケガで保育サービスが利用できなかった時に、「できれば仕事を休んで看たい」希望の年間日数については、「年3～10日」(51.0%)が最も多く、次いで「年6～10日」(21.6%)となっている。仕事を休んで看たい平均希望日数は7.0日であった。



↓『休んで見ることは非常に難しい』と回答した人のみ

◆非常に難しい理由【○はあてはまるものすべて】

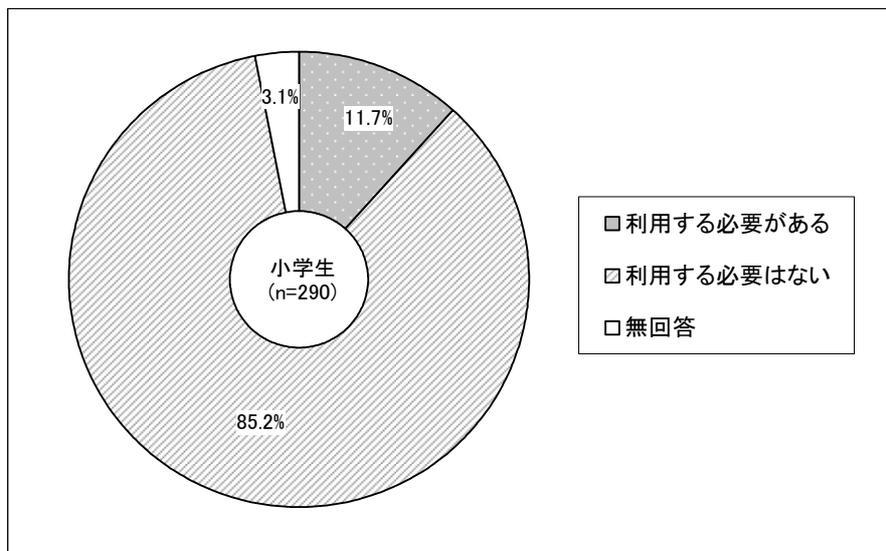
「休んで見ることは非常に難しい」理由については、「子どもの看護を理由に休みがとれない」(37.5%)が最も多かった。



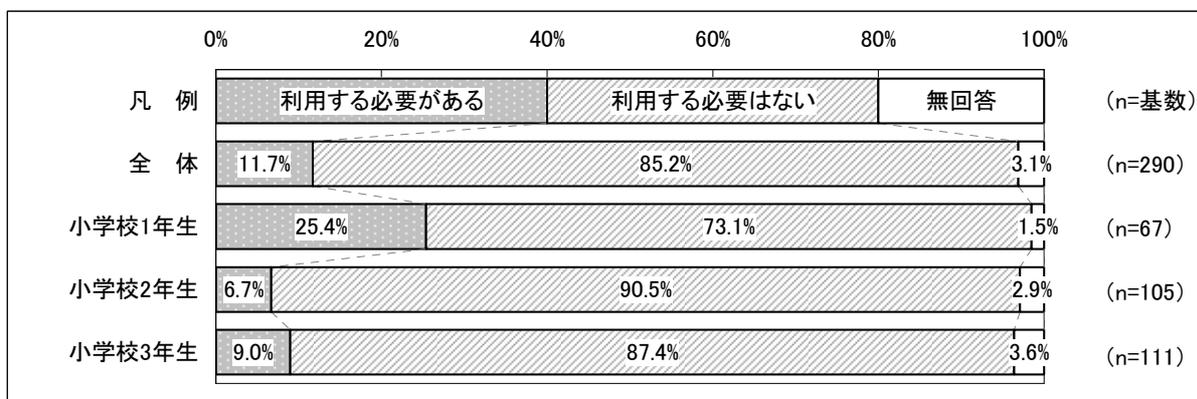
## 6 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問14 あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時預かり等の事業を利用する必要があると思いますか。また、その目的は何ですか。必要な日数はおおよそ何日ですか。

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で子どもを預ける事業の利用する必要性については、「利用する必要はない」と回答した人が8割強で、「利用する必要がある」と回答した人は1割強であった。



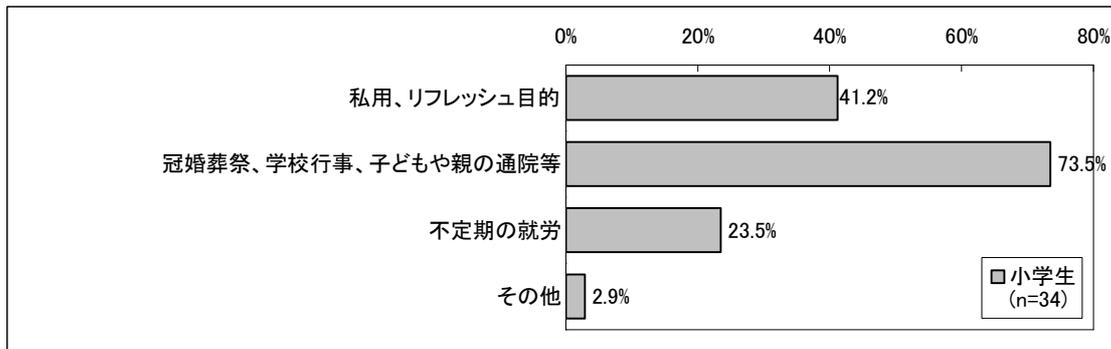
年齢別でみると、利用する必要がある人については、「小学校1年生」(25.4%)がもっとも多く、全体を10ポイント以上上回る。一方で利用する必要がない人については、「小学校2年生」が最も高く、全体を10ポイント以上上回る結果となった。



↓『利用する必要がある』と回答した人のみ

◆希望する利用目的【○はあてはまるものすべて】

希望する利用目的については、最も多かったのが「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」のやむを得ない事情で73.5%であるが、次いで「私用、リフレッシュ目的」(41.2%)となっている。



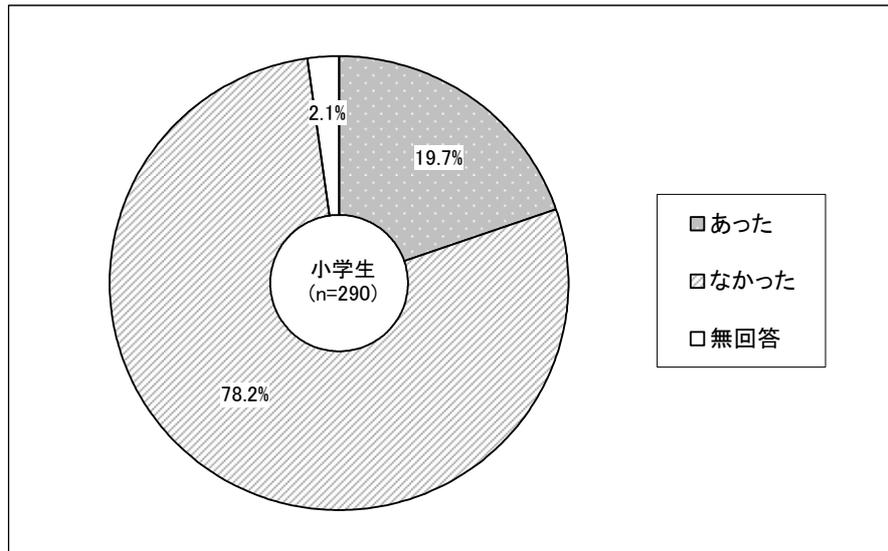
◆希望する利用目的それぞれの年間延べ日数【数字を記入】

希望する利用目的それぞれの年間延べ日数については、最も回答の多かった「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」の年間平均延べ日数は6.8日となっており、次いで回答の多かった「私用、リフレッシュ目的」の年間平均延べ日数は8.0日となっている。

上段：回答数 下段：%	年間平均延べ日数	年間1日	年間2日	年間3~5日	年間6~10日	年間11~20日	年間21~30日	年間31日以上	無回答
私用、リフレッシュ目的 (n=14)	8.0日	1	0	5	3	4	0	0	1
		7.1	0.0	35.7	21.4	28.6	0.0	0.0	7.1
冠婚葬祭、学校行事、 子どもや親の通院等 (n=25)	6.8日	1	5	9	3	0	1	1	5
		4.0	20.0	36.0	12.0	0.0	4.0	4.0	20.0
不定期の就労 (n=8)	15.3日	0	1	0	2	2	1	0	2
		0.0	12.5	0.0	25.0	25.0	12.5	0.0	25.0
その他 (n=1)	10.0日	0	0	0	1	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問15 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。また、あった場合、その対処方法は何ですか。その日数はおおよそ何日ですか。

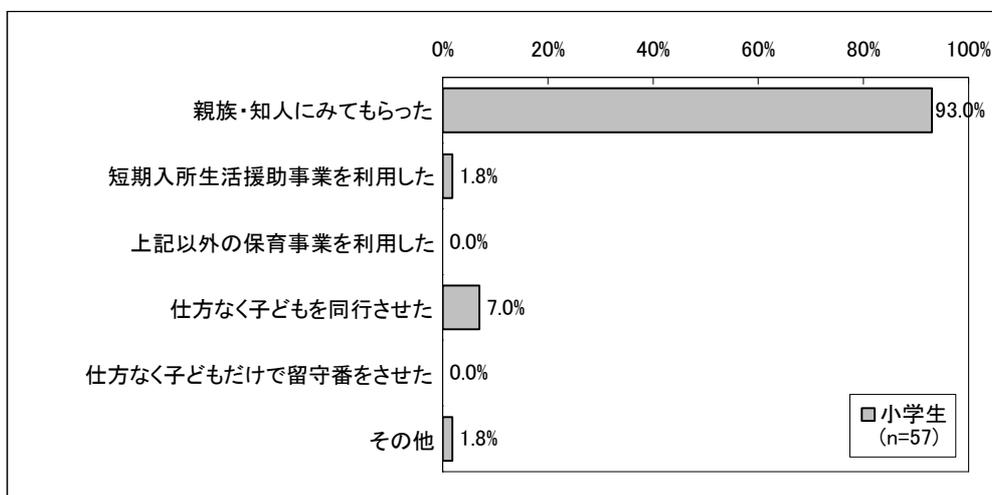
この1年間に、お子さんを泊りがけで家族以外に預けなければならなかったことについては、「なかった」（78.2%）が8割弱を占めており、「あった」（19.7%）を58.5ポイント上回る結果となっている。



#### ↓ 『あった』と回答した人のみ

##### ◆ 1年間の対処方法【○はあてはまるものすべて】

子どもを泊りがけで家族以外に預けた場合の対処方法については、「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」が93.0%と大半を占め最も多く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」は7.0%にとどまっております。ほとんどの人が身近な人に預けるか、もしくは保護者自身が看ている結果が得られました。事業を利用したと回答した人は1名であった。



◆子どもを泊りがけで家族以外に預けた場合の対処方法それぞれの年間延べ日数【数字を記入】

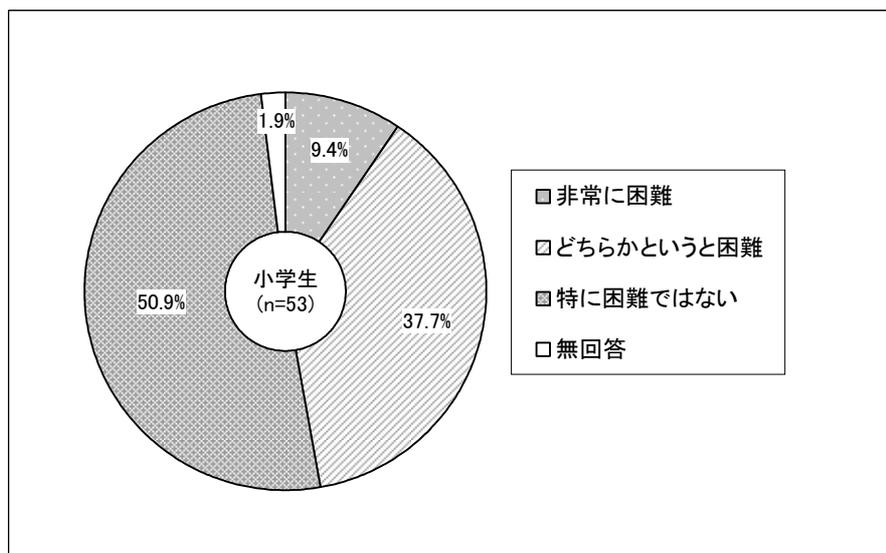
子どもを泊りがけで家族以外に預けた場合の対処方法それぞれの年間延べ日数については、最も回答の多かった「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」の年間平均延べ日数は4.6日となっており、次いで回答の多かった「仕方なく子どもを同行させた」の年間平均延べ日数は2.8日となっている。

上段：回答数 下段：%	年間平均延べ日数	年間1日	年間2日	年間3~5日	年間6~10日	年間11~20日	年間21~30日	年間31日以上	無回答
(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった (n=53)	4.6日	10 18.9	12 22.6	21 39.6	6 11.3	2 3.8	1 1.9	0 0.0	1 1.9
短期入所生活援助事業を利用した	10.0日 (n=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
短期入所生活援助事業以外の保育事業を利用した	- (-)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
仕方なく子どもを同行させた	2.8日 (n=4)	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0	0 0	0 0	0 0
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	- (-)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
その他	120.0日 (n=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

↓『(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった』と回答した人のみ

問15-1 その場合の困難度はどの程度でしたか。【〇は1つだけ】

子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならなかった時の対処方法として、親族や知人にみてもらった場合の困難度については、「特に困難ではない」(50.9%)がもっとも多くなっているものの、「非常に困難」(9.4%)、「どちらかという困難」(37.7%)を合わせると4割以上の方が親族や知人に預けることについて困難であるという結果となっている。

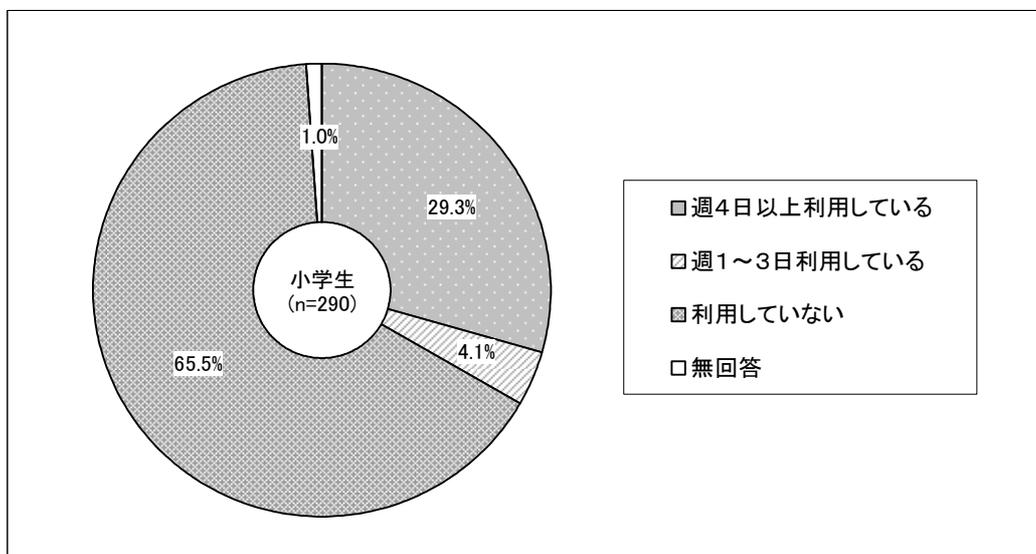


## 7 放課後の過ごし方について

問16 あて名のお子さんは、現在、放課後児童クラブ（学童保育）を利用していますか。利用されている場合は利用している時間帯と、利用している主な理由を、利用していない場合は利用していない主な理由をお答えください。平日・土曜日それぞれについてご記入ください。

### 平日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用状況

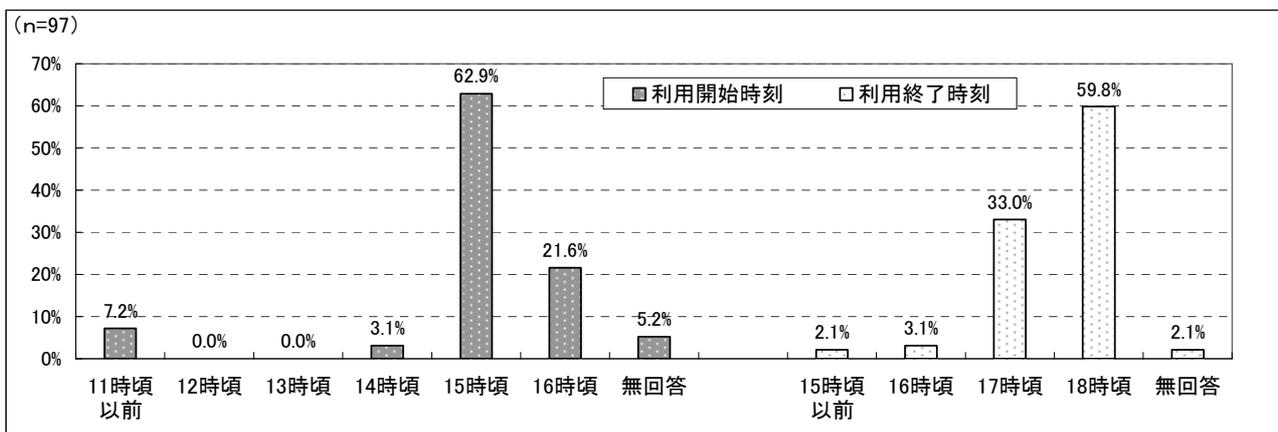
平日の放課後児童クラブの利用状況については、「利用していない」が65.5%と6割を超えており、「利用している」は「週4日以上」（29.3%）と「週1～3日」（4.1%）を合わせても33.4%で「利用していない」を32.1ポイント下回る結果となっている。



#### ↓ 『利用している』と回答した人のみ

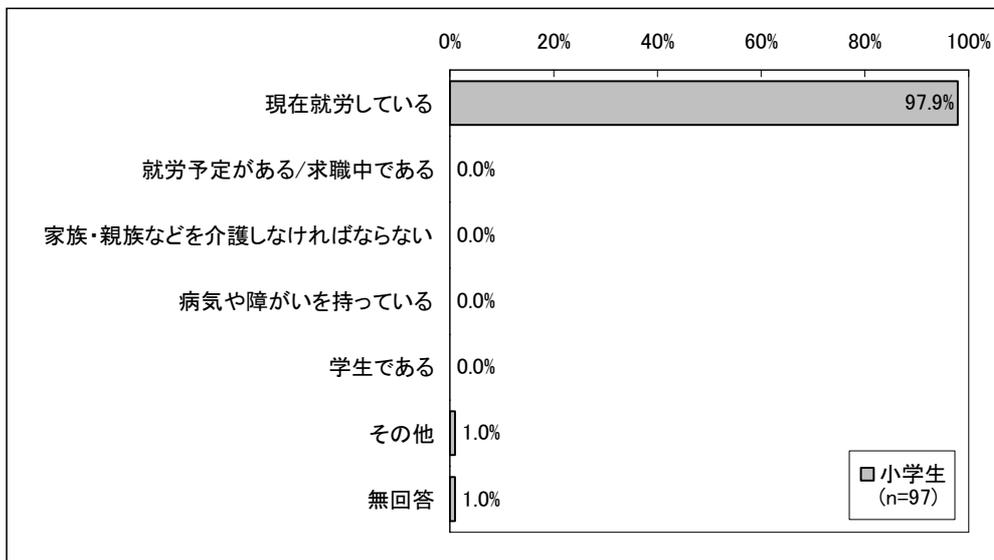
#### ◆ 平日の放課後児童クラブの利用している時間帯（何時から何時まで）

平日の放課後児童クラブの利用している時間帯については、利用開始時刻は「15時頃」が62.9%と最も多く、次いで「16時頃」（21.6%）となっており、利用終了時刻は「18時頃」が59.8%と最も多く、次いで「17時台」（33.0%）となっている。



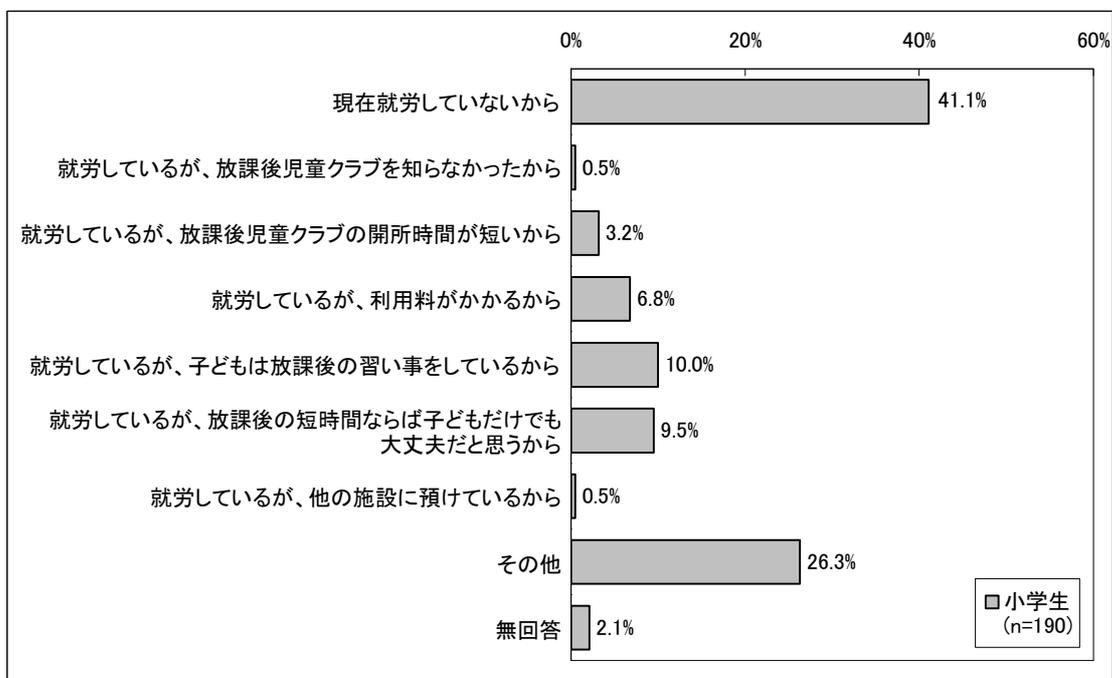
◆平日に放課後児童クラブの利用している理由

平日に放課後児童クラブを利用している理由については、「現在就労している」が 97.9%と大半を占めている。



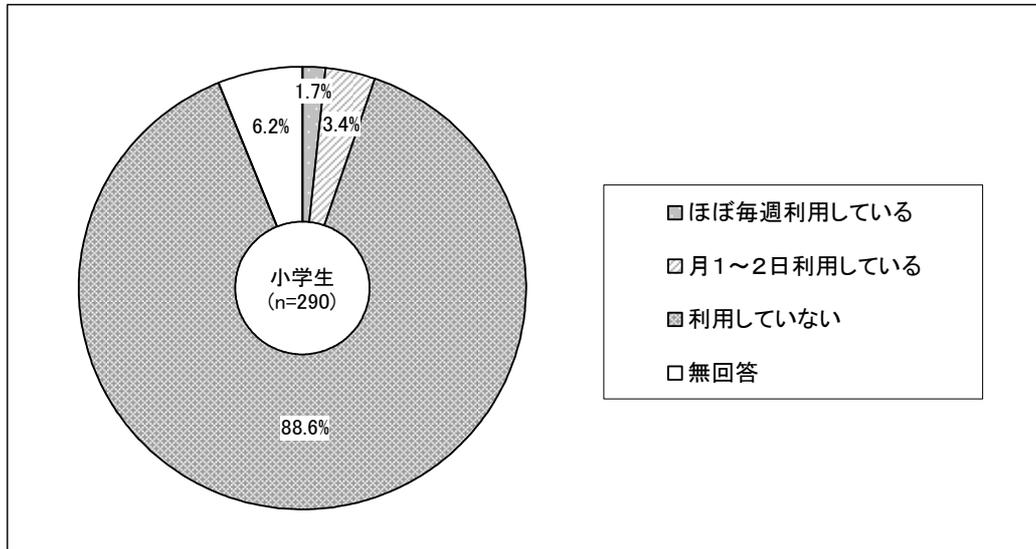
◆平日に放課後児童クラブの利用していない理由

平日に放課後児童クラブを利用していない理由については、「現在就労していないから」が 41.1%と最も多く、次いで「その他」(26.3%) となっている。



## 土曜日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用状況

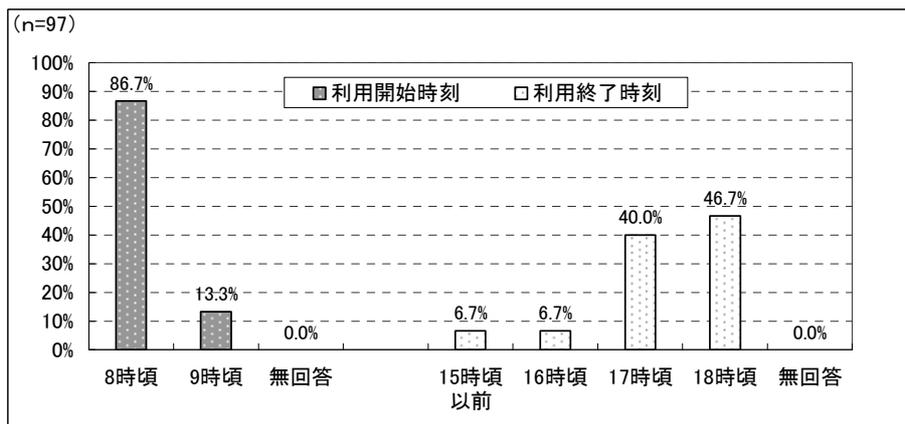
土曜日の放課後児童クラブの利用状況については、「利用していない」が 88.6%と 9 割近く、「ほぼ毎週」（1.7%）と「月 1～2 日」（3.4%）を合わせた『利用している』は 5.1%であった。



## ↓ 『利用している』と回答した人のみ

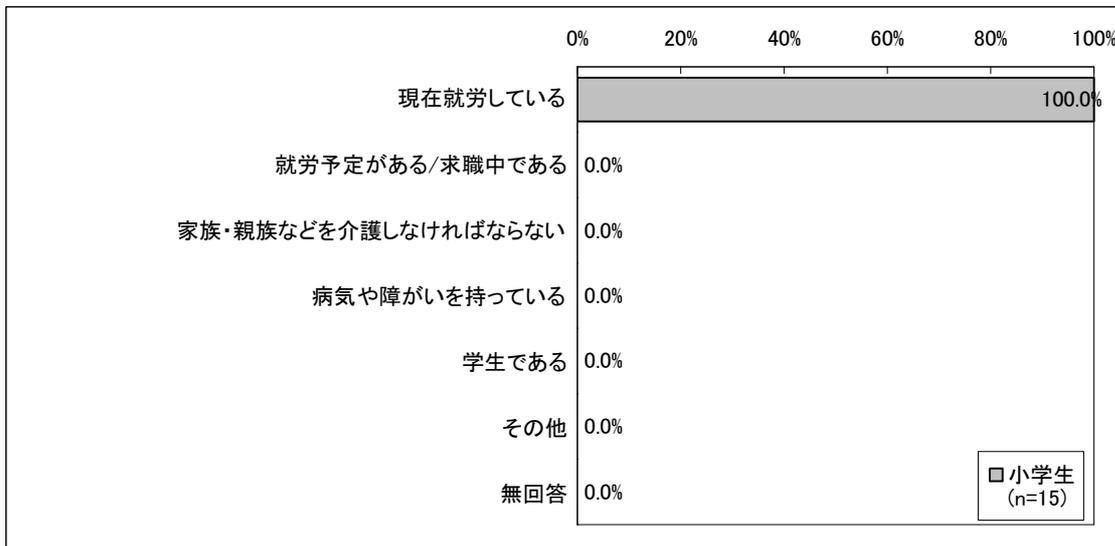
## ◆ 土曜日の放課後児童クラブの利用している時間帯（何時から何時まで）

土曜日の放課後児童クラブの利用している時間帯については、利用開始時刻は「8 時頃」が 86.7%と最も多く、次いで「9 時頃」（13.3%）となっており、利用終了時刻は「18 時頃」が 46.7%と最も多く、次いで「17 時台」（40.0%）となっている。



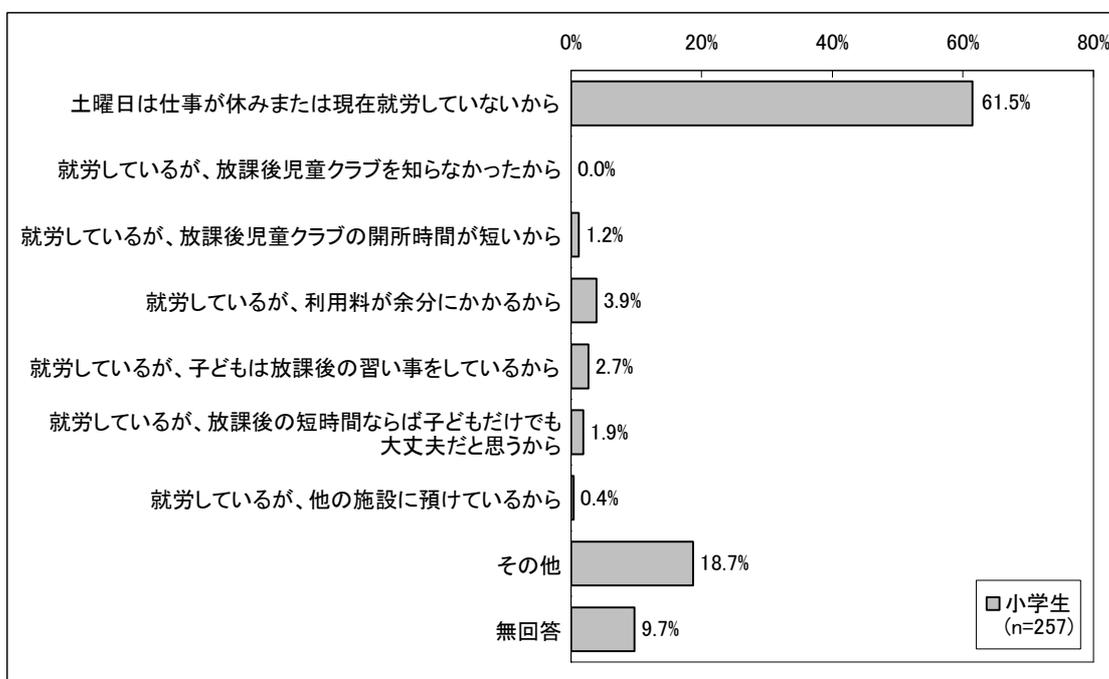
◆土曜日に放課後児童クラブの利用している理由

土曜日に放課後児童クラブを利用している理由については、「現在就労している」が100.0%（回答者15人）であった。



◆土曜日に放課後児童クラブの利用していない理由

土曜日に放課後児童クラブを利用していない理由については、「土曜日は仕事が休みまたは現在就労していないから」が61.5%と最も多く、次いで「その他」(18.7%)となっている。

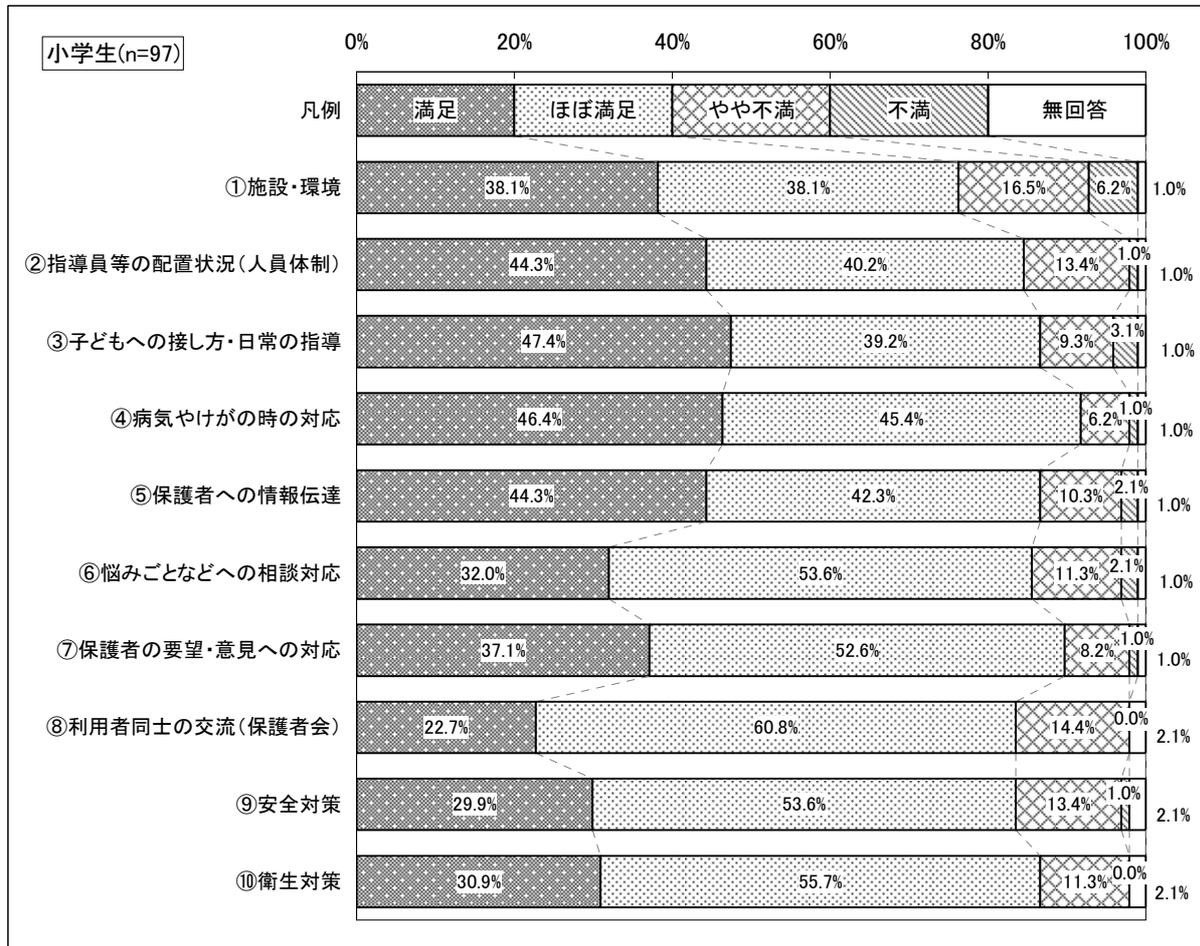


↓ 『利用している』 と回答した人のみ

問 1 7 放課後児童クラブ（学童保育）に対してどのように感じていますか。

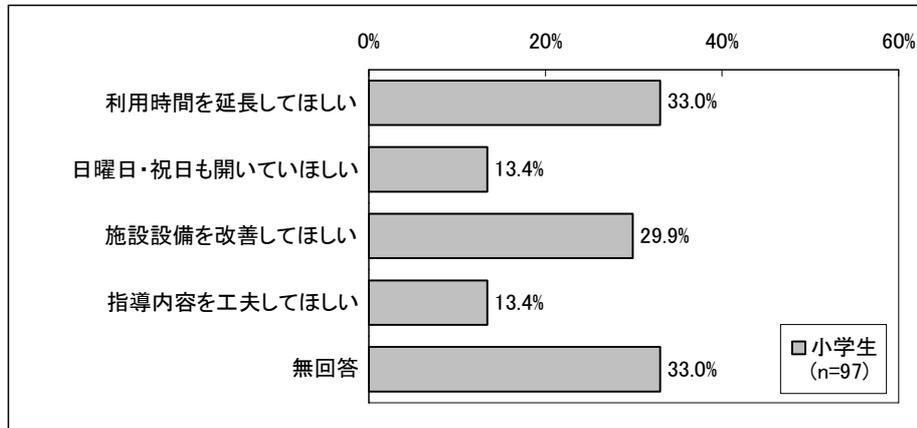
【〇はそれぞれ1つだけ】

「放課後児童クラブ」の満足度について、全ての項目において満足度は高いと言える。



問18 現在通っている放課後児童クラブ(学童保育)に対して次のような要望がありますか。  
【〇はあてはまるもの2つまで】

現在通っている放課後児童クラブへの要望については、「利用時間を延長してほしい」が33.3%ともっとも多く、次いで「施設設備を改善してほしい」(29.9%)となっている。



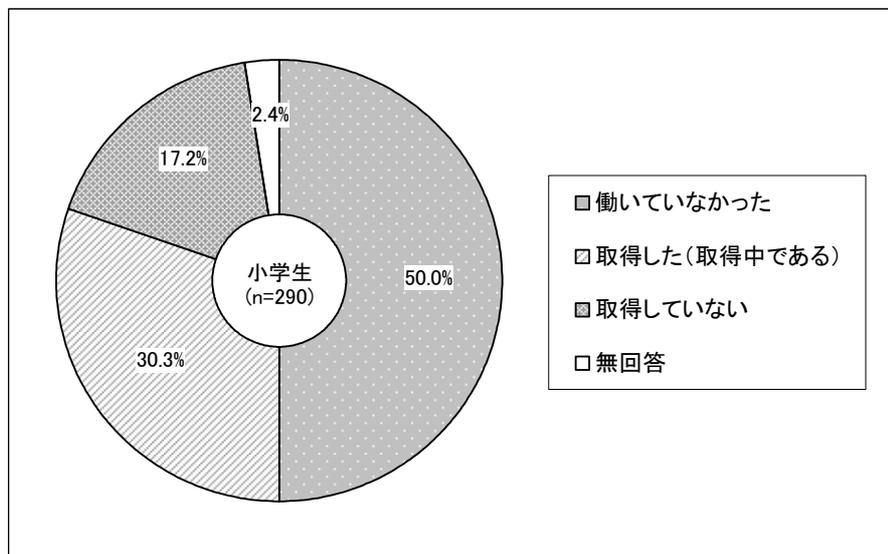
## 8 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

問19 あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについてお答えください。また、取得していない方はその理由をお答えください。

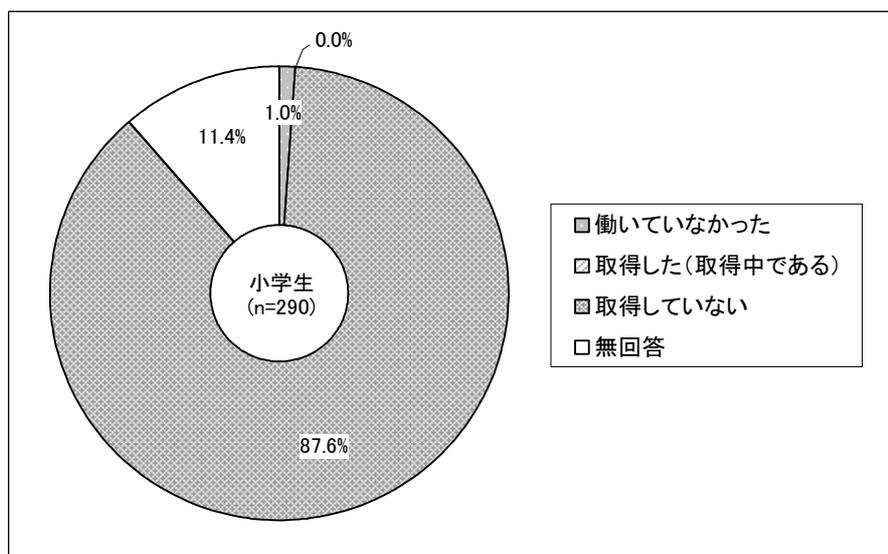
育児休業の取得状況については、母親はお子さんが生まれた時に「働いていなかった」が50.0%で最も多く、父親は「取得していない」が87.6%で最も多い。

また、「取得した（取得中である）」と回答した人は、母親が3割（30.3%）に対し、父親はゼロであった。

◆母親の育児休業の取得状況【〇は1つだけ】



◆父親の育児休業の取得状況【〇は1つだけ】



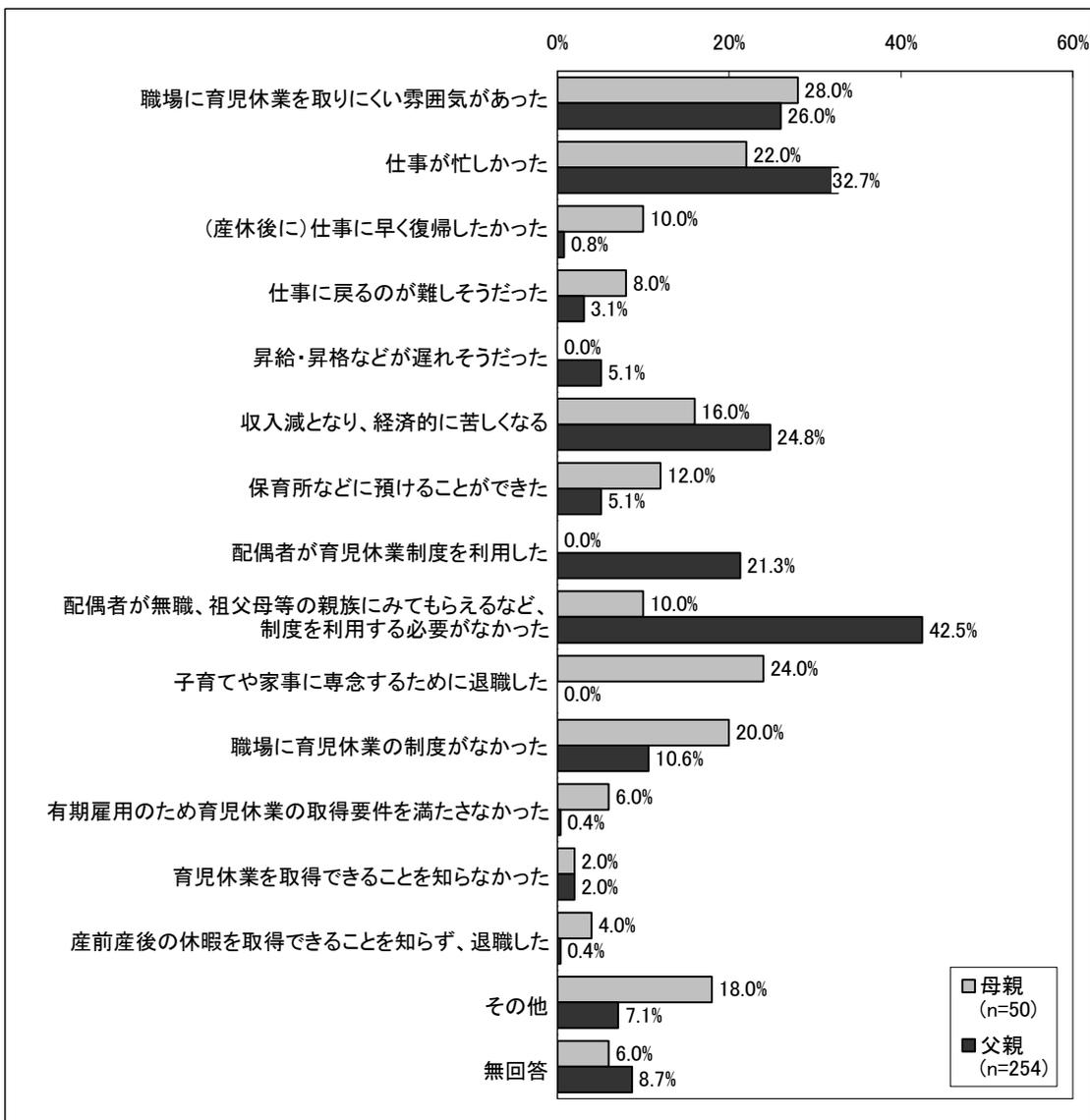
↓ 問 19 で『取得していない』と回答した人のみ

◆ 育児休業を取得していない理由【〇はあてはまるものすべて】

育児休業を「取得していない」理由については、回答の多い順では、母親は「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(28.0%)、「子育てや家事に専念するために退職した」(24.0%)、「仕事が忙しかった」(22.0%)となっている。

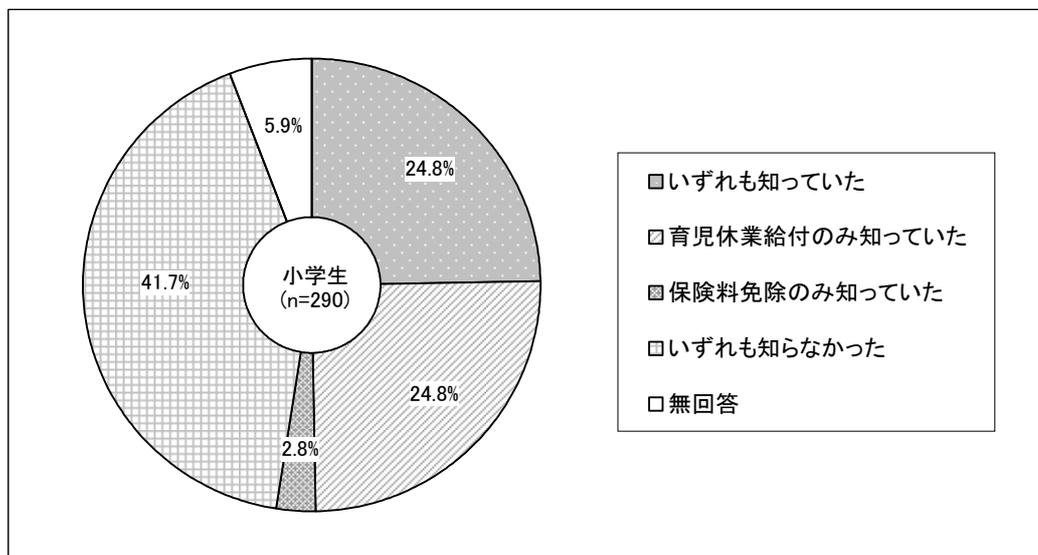
一方、父親は「配偶者や親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(42.5%)、「仕事が忙しかった」(32.7%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(24.8%)となっている。

母親、父親の共通項目として上位に「職場に取りにくい雰囲気があった」があることや、「職場に育児休業の制度がなかった」の項目も母親、父親共に10%以上超えるなど、職場環境に起因する点も少なからずあるようだ。



問19-1 子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6カ月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存知ですか。 【○は1つだけ】

育児休業給付の仕組みや保険料免除については、「いずれも知らなかった」（41.7%）と回答した人が4割を占め最も多く、「育児休業給付のみ知っていた」「保険料免除のみ知っていた」と片方を「知らなかった」人を合わせると69.3%になり、「いずれも知っていた」人を44.5%上回る結果となった。



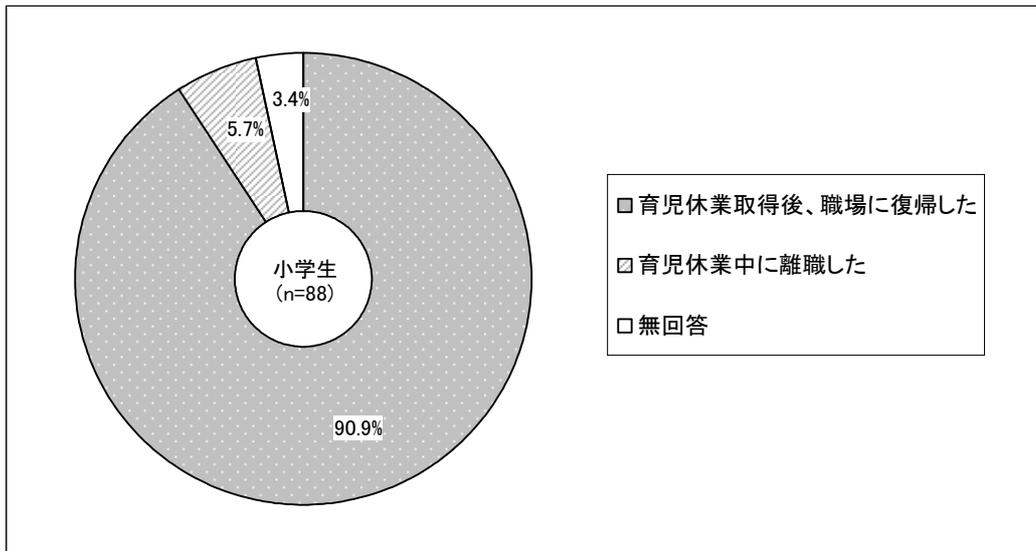
↓問 19 で『取得した（取得中である）』と回答した人のみ

問 19-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

【○は1つだけ】

育児休業取得後の職場復帰については、育児休業を取得した（取得中含む）のは母親のみで、そのうちの9割は「育児休業取得後復帰した」としている。一方、父親については、該当者が無かった。

◆母親の育児休業取得後の職場復帰

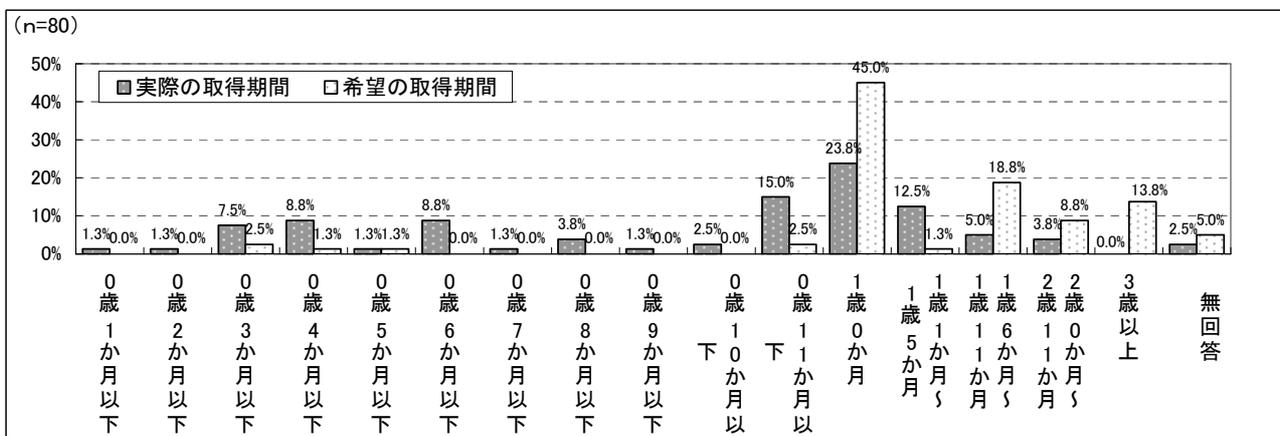


↓問 19-2 で『育児休業取得後、職場に復帰した』と回答した人のみ

問 19-3 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何か月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何か月のときまで取りたかったですか。 【数字を記入】

母親の育児休業から職場復帰した時のお子さんの年齢については、「1歳0か月」が23.8%と最も多く、次いで「0歳11か月」(15.0%)、「1歳1か月～1歳5か月」(12.5%)の順となっている。また、母親が職場復帰を希望するお子さんの年齢については、「1歳0か月」が45.0%と最も多く、次いで「1歳6か月～1歳11か月」(18.8%)、「3歳以上」(13.8%)の順となっている。一方、父親については、該当者が無かった。

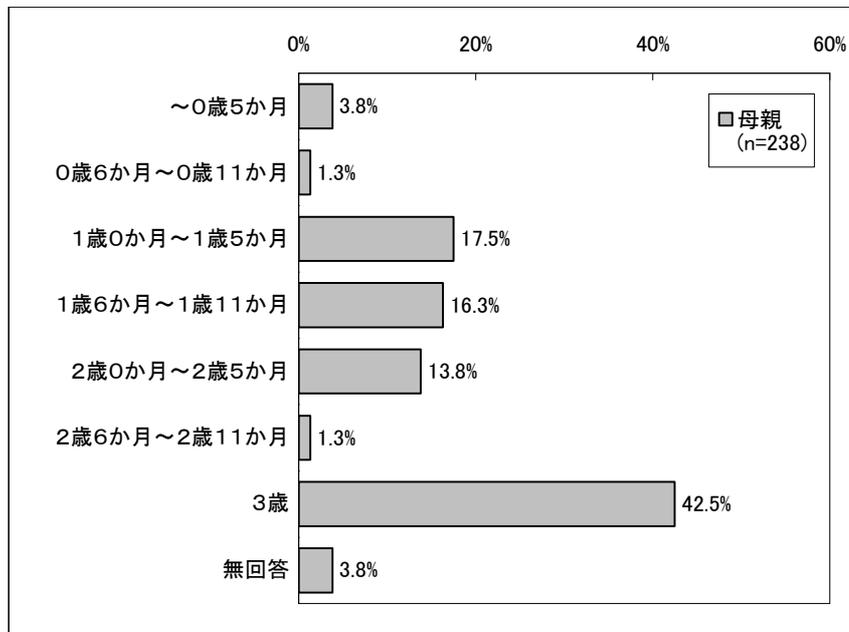
◆母親の育児休業から職場復帰した時のお子さんの年齢



↓問 19-2 で『育児休業取得後、職場に復帰した』と回答した人のみ

問 19-4 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何か月のときまで取りたかったですか。【数字を記入】

母親については、職場に3歳まで育児休暇を取得できる制度があった場合、4割以上の人が「3歳」まで取得したいと回答した。一方、父親については、該当者が無かった。

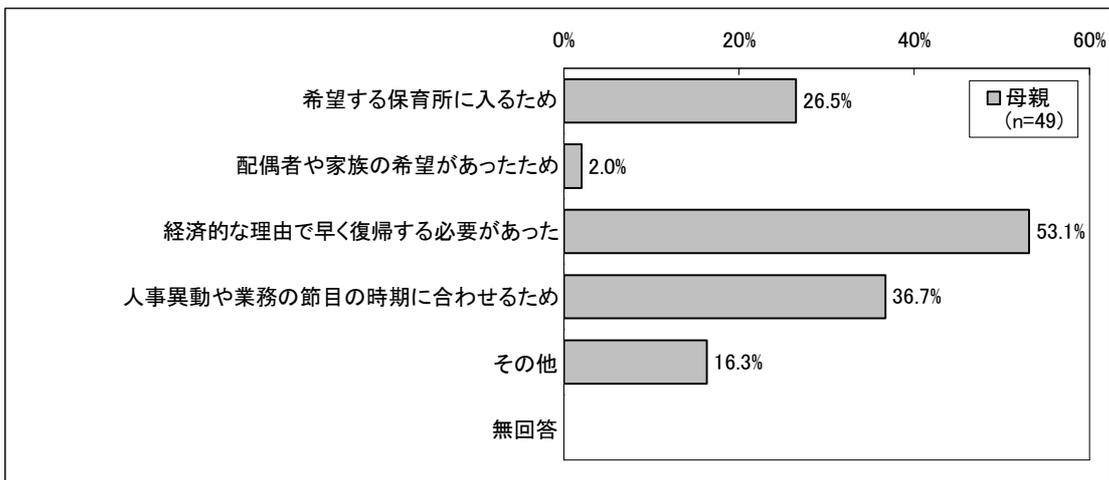


## 問 19-5 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

## (1) 「希望」より早く復帰した方

【○はあてはまるものすべて】

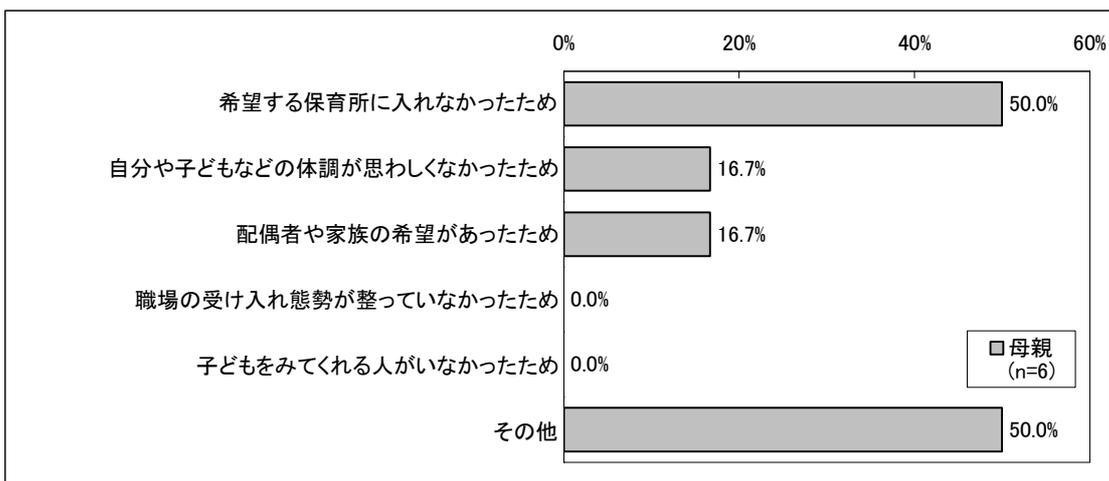
母親については、育児休業取得後、希望より早く復帰した理由として最も多かったのは、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」で 53.1%、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 36.7% で多かった。一方、父親については、該当者が無かった。



## (2) 「希望」より遅く復帰した方

【○はあてはまるものすべて】

母親については、育児休業取得後、希望より遅く復帰した理由としては、「希望する保育所に入れなかったため」(50.0%) が最も多かった。一方、父親については、該当者が無かった。



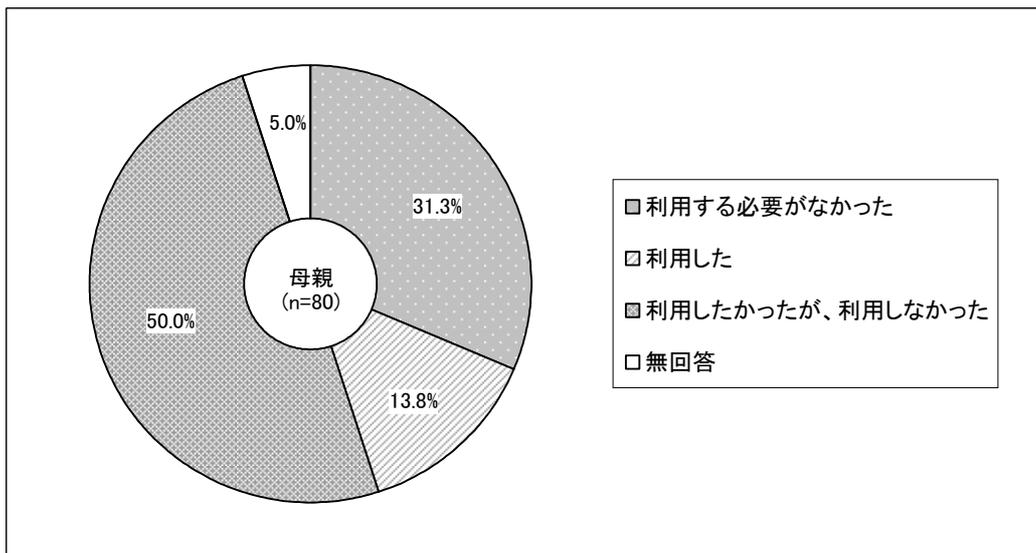
↓問 19-2 で『育児休業取得後、職場に復帰した』と回答した人のみ

問 19-6 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。

【○は1つだけ】

育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用については、母親は、育児休業からの職場復帰時に短時間勤務制度を「利用したかったが、しなかった」が半数を占め、「利用した」はその約3分の1の13.8%であった。また、「利用する必要がなかった」と回答した人は、およそ3割であった。一方、父親については、該当者が無かった。

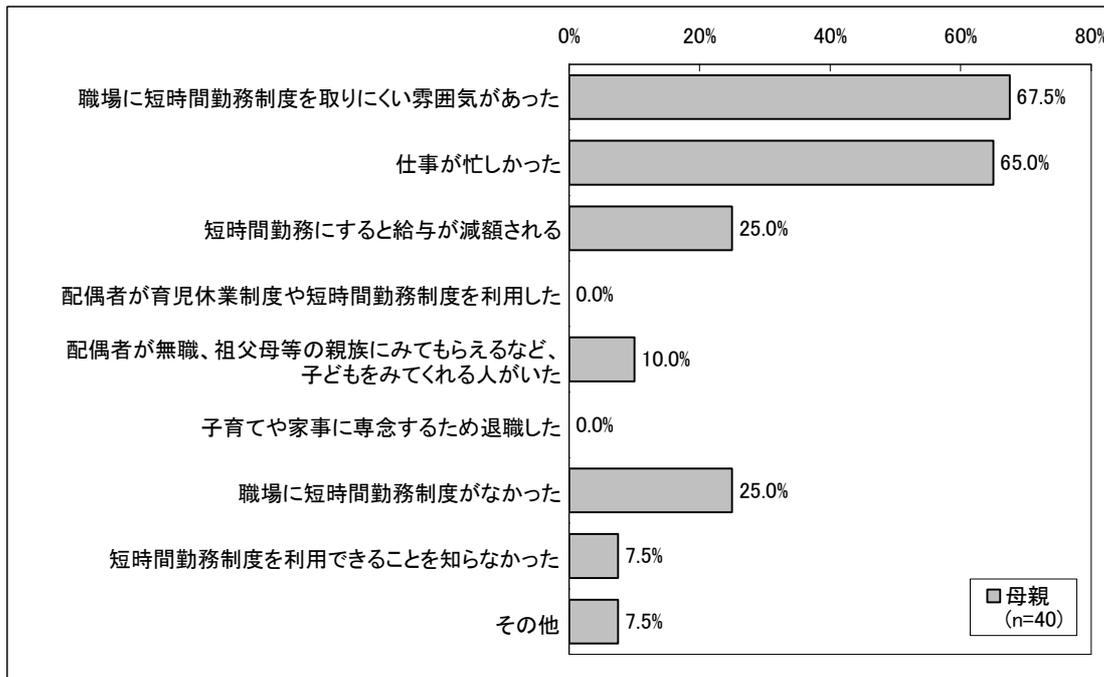
◆母親の短時間制度の利用有無



↓問 19-6 で『利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）』と回答した人のみ

問 19-7 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。

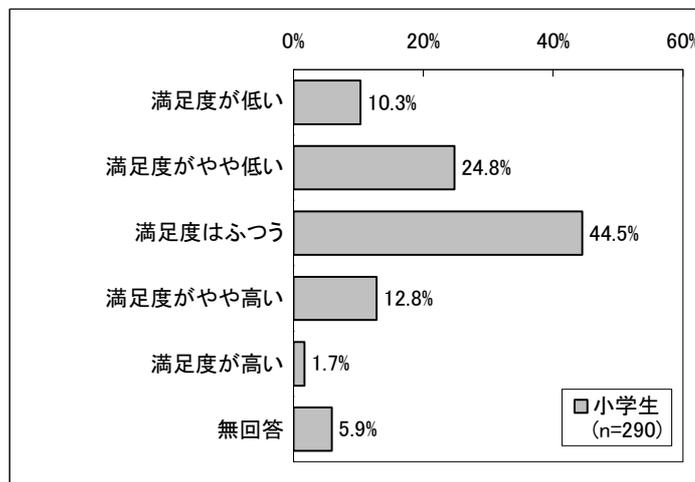
短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由については、母親は「職場に取りにくい雰囲気があった」と「仕事が忙しかった」が6割を超え、他に「給与が減額される」「職場に制度がなかった」が2割以上であった。一方、父親については、該当者が無かった。



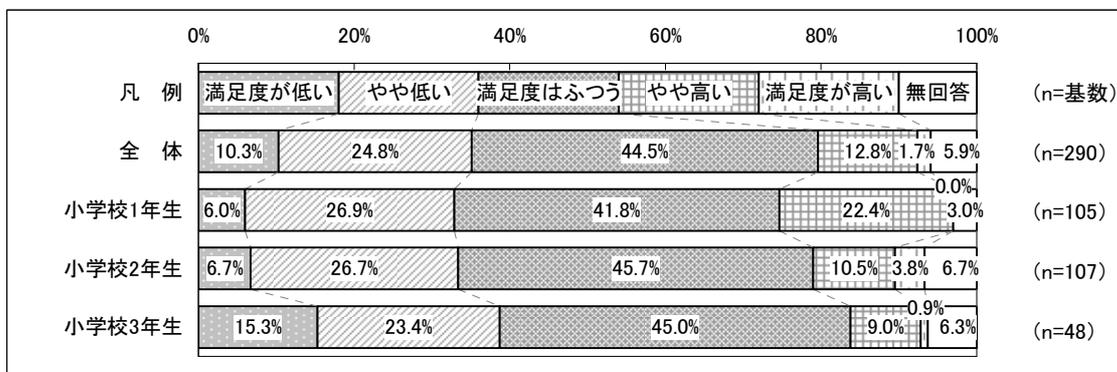
問20 鳴門市の子育て環境や支援の満足度について、1～5の5段階評価でお答えください。

【〇は1つだけ】

鳴門市の子育て環境や支援の満足度については、「ふつう」(44.5%)と回答した人が4割以上でもっとも多く、「低い」「やや低い」を合わせた『満足度が低い』(35.1%)は、「やや高い」「高い」を合わせた『満足度が高い』(14.5%)を20.6ポイント上回る結果となった。



年齢別にみると、年齢が大きくなるほど満足度が低くなっていた。





**自由記述回答**

## 自由記述回答

## (1) 利用料について

- 保育料を軽減してほしい（全体、第2子、第3子への軽減）。
- 一時預かり事業の利用料金を軽減してほしい。
- 私立幼稚園の利用料を助成してほしい。
- 児童クラブの利用料を軽減してほしい。
- ファミリー・サポート・センターの利用料を軽減してほしい。
- 日割りや時間割り等細かい料金設定をしてほしい。
- 医療費負担を軽減してほしい（完全無料、期間延長）。
- 単身赴任家庭への助成をしてほしい。

## (2) 在宅児の保育について

- 在宅児の子育て支援をしている場所のマップ等がほしい。
- 拠点事業を充実させてほしい（場所・回数・時間の拡大）。
- わんぱく教室が良い。
- 地域のつながりを支援する事業をしてほしい（限定イベント等の実施）。

## (3) 保育所について

- 保育所の体制に満足している。
- 夜間保育（19時以降の保育）を実施してほしい。
- 年度途中の入所は希望の保育所に入れられないかもしれない、と不安がある。
- 保育士の数を増やしてほしい。
- 入所要件を緩和してほしい（同居親族の年齢、育休、就業の取り扱い）。

## (4) 保育所の一時的預かり事業について

- 受け入れ数を増加させてほしい。
- 土日もしてほしい。
- 週3回までの回数制限を撤廃してほしい。
- 利用時間を拡大してほしい。
- 1歳未満児の一時的預かり実施施設を増やしてほしい。

#### (5) 幼稚園について

- 幼稚園の体制に満足している。
- 3年保育を実施してほしい。
- 始業、就業時間を延長してほしい。
- 休園時の預かり体制の充実をしてほしい（代休、警報発令時）。
- エアコンを設置してほしい。

#### (6) 幼稚園の預かり保育について

- 土曜保育の利便性を向上させてほしい。
- 利用時間を延長してほしい。
- 親の要望でどんどん保育時間が延長されていることに疑問を感じる。
- 有料でも良いので習い事をさせてほしい。

#### (7) 小学校について

- 小学校の体制に満足している（給食等）。
- 3学期制にしてほしい。
- 放課後校庭を開放してほしい。
- スクールバスがほしい。
- 将来の経済的負担が心配。
- 相談窓口を充実させてほしい。

#### (8) 放課後児童クラブについて

- 入会要件を緩和してほしい（年齢制限の緩和、保護者の求職活動中の扱い）。
- 休校時も実施してほしい。
- すべてのクラブを小学校内に設置してほしい。
- 利用時間を延長してほしい（18時以降、日・祝）。
- 昼食の在り方を検討してほしい。
- 保育環境を改善してほしい（校庭利用等）。

**(9) 事業連携について**

- 保育所に残りたくても幼稚園に行く子が多いので残りにくい。
- 認定こども園がほしい。
- 近隣市町村と事業連携してほしい（利用可能施設の拡大）。

**(10) 地域格差について**

- 大麻町での様々な施設・行事を充実させてほしい（図書館、拠点事業等）。
- 北灘町にも子育てしやすい環境がほしい。
- 拠点事業実施施設が遠い。近くの保育所でも実施してほしい。

**(11) 職場環境について**

- 法や制度があっても周りの理解やサポートがなければ意味がない。意識改革が必要。
- 職場復帰したときのサポートがほしい。
- 減税や職場での人員配置等の支援がほしい。
- 非正規職員でも育休・産休が取得できる環境がほしい。

**(12) その他の要望等**

- 近隣市町村より支援が手厚く満足している（自宅訪問事業、ゴミ袋配布、健診事業）。
- 支援事業の多さに驚いた。情報発信の在り方を検討してほしい（ウェブサイト、SNS）。
- 支援事業全体の利用可能時間を延長してほしい。
- 土・日・祝に利用できる相談窓口がほしい。
- 病児保育事業を充実させてほしい（場所、受入れ数）。
- 休日保育事業を充実させてほしい（場所、受入れ数）。
- 障害児支援事業を充実させてほしい（体制、環境）。
- 健診は集団ではなく、病院や保育園で実施してほしい。
- 発達支援専門施設を充実させてほしい。
- ひとり親支援を充実させてほしい（交流会の実施等）。
- 女性の地位を高めてほしい。
- 配偶者や親族の協力が得られず悩みが多い。
- 屋外施設は充実しているので屋内施設を充実させてほしい。
- 屋外施設を増やしてほしい（幼児用遊具、森林公園）。
- 子どもが体を動かしたり体験したりできるイベントをしてほしい（休日の過ごし方）。
- 親の教育支援をしてほしい（マナー、子育て方法）。